

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
				ミニテスト : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的、 簿記一巡の手続き、 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金、消費税、法人税等の決算整理 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、 買掛金、返品、分記法の記帳 方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表 の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品および仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳および当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
ミニテスト	: 30 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

<p>第8回</p>	<p>直前対策講義実施、解説                  仕訳：債権・債務                  個別問題：商品有高帳                  模擬試験問題演習・解説②</p>	<p>熊谷 茜美                  工藤 英一</p>			
<p>準備学習等</p>	<p>毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。</p>				
<p>教科書                  参考書等</p>	<p>ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園)                  日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版)                  ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園)                  ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園)                  日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)</p>				
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	5回
			成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	ガイダンス 問題演習・解説 直前模擬試験 第1回			熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回			熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回			熊谷 茜美 工藤 英一

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	<p>本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。</p>	
教科書 参考書等	<p>ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園)  ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園)  ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園)  ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版)  日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版)  ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園)  ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園)  日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)  2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回~第3回 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。  株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	6単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	30回
			成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	経理知識や技能の証明となり就職活動にも有利になる資格「経理実務士」の取得を目指し、認定要件である資格のうち、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）の合格を目指す。計算実務では経理職に欠かせない知識である帳票計算と商業計算について学習する。全経簿記では中小企業の実務における各取引の会計処理について学習する。 本講義終了後の科目「経理実務演習」に積極的に取り組めるようにすること。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】＜帳票計算＞ 試算表、商品有高帳 (先入先出法、移動平均法)	熊谷 茜美 工藤 英一	第16回	【全経簿記】 5伝票制、特殊仕訳帳制	熊谷 茜美 工藤 英一



第2回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算 手形割引計算（割引料を求める場合、手取金を求める場合、手形金額を求める場合）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第17回	<p>【全経簿記】 材料費会計 労務費会計</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	<p>【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （試算表、商品有高帳、貨幣計算、手形割引計算）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第18回	<p>【全経簿記】 為替手形、荷為替手形、 商品券（自社） 有価証券売買</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 通法の計算 ～グロス・ダース・個～ （代価を求める場合、数量を求める場合）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第19回	<p>【全経簿記】 経費会計 製造間接費会計</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 仲立人の手数料計算 （手数料を求める場合、買主の支払総額・売主の手取金を求める場合）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第20回	<p>【全経簿記】 特殊商品売買 履行義務の充足</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （通法の計算、仲立人の手数料計算）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第21回	<p>【全経簿記】 部門別計算 個別原価計算 単純総合原価計算</p>	熊谷 茜美 工藤 英一

第7回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算、手形割引計算（割引率を求める場合、割引日数を求める場合、割引日を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第22回	【全経簿記】 圧縮記帳 投資不動産	熊谷 工藤	茜美 英一
第8回	【計算実務】＜商業計算＞ 商品売買の計算（定価を求める場合、利益率を求める場合、原価を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第23回	【全経簿記】 工程別総合原価計算 組別総合原価計算 等級別総合原価計算	熊谷 工藤	茜美 英一
第9回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （貨幣計算、手形割引計算、商品売買の計算）	熊谷 工藤	茜美 英一	第24回	【全経簿記】 資産除去債務 固定資産の減損	熊谷 工藤	茜美 英一
第10回	【計算実務】＜商業計算＞ 委託販売・委託買付の手数料計算（売上高を求める場合、送金額を求める場合、請求額を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第25回	【全経簿記】 標準原価計算 CVP分析	熊谷 工藤	茜美 英一
第11回	【計算実務】＜商業計算＞ 金銭の貸し付け（貸付利率を求める場合、元利合計を求める場合、貸付期間を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第26回	【全経簿記】 負ののれん発生益 社債	熊谷 工藤	茜美 英一

第12回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (委託販売・委託買付の手数 料計算、金銭の貸し付け)</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第27回	<p>【全経簿記】 直接原価計算 全部原価計算 固定費調整</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第13回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 純量代価(総量、風袋、減量 の用語の確認、定価の求め 方)</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第28回	<p>【全経簿記】 理論問題対策</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第14回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 有利・不利の判定(値引きと 増量) 通法の計算(文章問題)</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第29回	<p>【全経簿記】 工場会計の独立</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第15回	<p>【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (純量代価の計算、有利・不 利の判定、通法の計算) 伝票計算(検定試験問題の解 き方)</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第30回	<p>【全経簿記】 財務諸表分析</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	<p>計算実務・全経簿記ともに短期間での学習になるため、日々の授業の復習が大切。理解が不十分な場合には科目教員に質問し、理解したうえで次の授業に臨むこと。なお、予習は不要。</p>				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>                  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>                  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>経理実務は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務演習	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %	

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。
-------------------	---

授業目的 到達目標	「経理実務」で学習した基礎的な知識を基に、問題演習を通して本試験に対応できる能力を養うことを目的とする。また、項目別に問題演習を行うことで重要度の高い範囲をもう一度確認し、より知識を深める。なお、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第119回、118回	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	【全経簿記】 第208回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第117回、116回	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	【全経簿記】 第207回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第115回、114回	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	【全経簿記】 第206回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第113回、112回 項目別対策（手形割引計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	【全経簿記】 第205回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第111回、110回 項目別対策（商品売買の計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	【全経簿記】 第204回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第109回、108回 項目別対策（委託販売・委託 買付の手数料計算、金銭の貸 し付け）	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	【全経簿記】 第203回過去問題 実施・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第107回、106回 項目別対策（仲立人の手数料 計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	【全経簿記】 第202回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	【全経簿記】 第209回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の問題のやり直しを丁寧に行うことが何よりも大切。間違った問題は全て確認し、 わからないことがある場合には科目教員に確認するようにすること。また、問題演習を 通して苦手項目が明らかになった場合には、その項目を重点的に復習すること。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>                  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>                  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。                  経理実務演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Wordの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生を含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、簡単なビジネス文書を作成できるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	3級問題集模擬問題 解説5・6	菊地 裕美
第2回	キーボードの打ち分け方法 Wordの画面構成 フォルダ管理 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	3級問題集模擬問題 解説7	菊地 裕美
第3回	3級問題集練習問題、解説1	菊地 裕美	第10回	3級問題集模擬試験、解説	菊地 裕美
第4回	3級問題集練習問題、解説2	菊地 裕美	第11回	サンプル問題 採点	菊地 裕美



第5回	3級問題集練習問題、解説3	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	3級問題集模擬問題 解説1・2	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美
第7回	3級問題集模擬問題 解説3・4	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	Word文書処理認定試験3級を取得できるようにするため、検定試験と類似の問題を準備し、多くの問題に携わることで授業内容の理解を深める。				
教科書 参考書等	サーティファイ 文書処理技能認定試験 Word3級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	<p>PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。</p> <p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合があります。文書処理技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p> <p>ガイダンスは1時間の講義となる。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft PowerPointの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、会議や講演などでプレゼンテーションを行うときに必要な資料作成ができるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	初級問題集 模擬問題、解説2	菊地 裕美
第2回	プレゼンテーション概論、 フォルダ管理、 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	初級問題集 模擬問題、解説3	菊地 裕美
第3回	PPT画面構成、 プレゼンテーションの構成	菊地 裕美	第10回	模擬試験問題、解説 採点の仕方レクチャー	菊地 裕美
第4回	初級問題集 練習問題、解説1	菊地 裕美	第11回	サンプル問題、解説	菊地 裕美
第5回	初級問題集 練習問題、解説2	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	初級問題集 練習問題、解説3	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美

第7回	初級問題集 模擬問題、解説1	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				
教科書 参考書等	クイックマスター（株式会社ウイネット） プレゼンテーション問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 ガイダンスは1時間の講義となる。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。プレゼンテーション技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合 同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 % ミニテスト : 30 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	<p>毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。</p> <p>確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。</p>	
教科書 参考書等	<p>ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス)</p> <p>ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット)</p> <p>1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&amp;問題集 (成美堂出版)</p> <p>1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

経理事務学科(2年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業に必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊



経理事務学科(2年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（カリアック） 販売士2級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

経理事務学科(2年課程)

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊



第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング（問題演習） マーチャンダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（1年課程）・ OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	システム開発基礎Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉		授業回数	20回
			成績評価方法	課題提出 : 70 %
				平常点 : 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)			
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるフロントエンド開発を行うことができる。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	フロントエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	JavaScript①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTML①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	JavaScript②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTML②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	JavaScript③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	HTML③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	jQuery①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	CSS①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	jQuery②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	CSS②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	jQuery③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	CSS③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webページ制作実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	CSSフレームワーク①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webページ制作実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	CSSフレームワーク②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webページ制作実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	CSSフレームワーク③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webページ制作実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

<p>準備学習等</p>	<p>基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（1年課程）・ OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	1学年

科目名	システム開発応用Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績 評価 方法	課題提出 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %
		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるバックエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	バックエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	データベース①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTMLとCSSの復習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	データベース②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTMLとCSSの復習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	データベース③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	php①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	セキュリティ対策	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	php②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	Webシステム開発実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	php③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	Webシステム開発実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	php④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webシステム開発実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	php⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webシステム開発実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	php⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webシステム開発実習⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	php⑦	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webシステム開発実習⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

<p>準備学習等</p>	<p>基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	23回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして 解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の 会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っ ていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の 消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答で きるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也



第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(2年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	4単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		成績評価方法	筆記試験 : 40 % ミニテスト : 40 % 授業態度 : 20 % : : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也

第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び 納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也
第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等 の益金不算入・寄付金の損金 不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸 倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金 不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金 不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・ 確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄 付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金 ②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・ 別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・ 接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立 事業年度	小関 哲也
準備学習等	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）</p>				
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。</p> <p>法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の 会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っ ていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表 を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を 解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業 者を前提とした消費税額の計 算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也

第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第3回	減価償却のの事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	Excel表計算技能		授業形態	講義
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	菊地 裕美		授業回数	10回
			成績 評価 方法	実技試験 : 50 %
				知識試験 : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Excelによる操作方法			
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）			
授業目的 到達目標	PCを用いて簡単なワークシートの作成とデータの入力ができるようにする。 また、タイピングソフトを使い入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス キーボード入力方法 フォルダ管理	菊地 裕美	第6回	基本練習4 罫線の引き方	菊地 裕美
第2回	Excelの画面構成、コピー 移動方法の確認	菊地 裕美	第7回	基本練習5 関数1 基本関数	菊地 裕美
第3回	基本練習1 Shift、Ctrlの使い 方	菊地 裕美	第8回	基本練習6 関数2 ROUND系、RANK、IF、等	菊地 裕美
第4回	基本練習2 オートフィル機能の使い方	菊地 裕美	第9回	基本練習7 グラフ	菊地 裕美
第5回	基本練習3 行・列の挿入と削除 ウィンドウ枠の固定と解除	菊地 裕美	第10回	基本練習8 並べ替えとフィルター	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				



教科書 参考書等	オリジナルテキストとデータを使用
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 Excel表計算技能は、上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 経理事務学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	秘書準1級I		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 50 %
				課題提出 : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江			: %
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をおし分かりやすく説明・指導する。			
実務経験教員の実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。			
授業目的 到達目標	秘書の仕事の仕方を通してより高度な職場常識の理解を深め、オフィス内外で業務を行う際に必要な技能の習得と向上を図る。「応用の職場常識」といわれる秘書準1級の内容にふさわしい感じのよい立ち居振る舞いや話し方などを実践できるとともに、状況に応じた「より適切な」判断と柔軟な対応ができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	検定試験の受け方・基礎知識 必要とされる資質 上級秘書の資質と能力	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	必要とされる資質 対人関係の心得	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識 秘書の機能と役割	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識 秘書の機能と役割 秘書の業務	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー-接遇 人間関係と話し方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	秘書技能 情報管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	秘書技能 日程管理・オフィス管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験の予備知識 試験の概要と実際の流れ	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能 会議	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。				
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	5単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子		授業回数	30回
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江		成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
				課題・レポート : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をとおし分かりやすく説明・指導する。			
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験をもつ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験をもつ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。			
授業目的 到達目標	演習を中心とした授業を通して実践力を高め、オフィス内外の業務に必要な高度な技能の習得と向上を図り検定試験の合格に繋げる。また、上級秘書としてのあり方を理解した立ち居振る舞いや話し方などが実践できることに加え、状況に応じて「より適切な」判断と柔軟な対応をとることができる能力を育む。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	理論問題・実技問題5 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	理論問題・実技問題6 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	理論問題・実技問題7 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	理論問題・実技問題8 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	理論問題・実技問題9 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第21回	理論問題・実技問題10 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第22回	理論問題・実技問題11 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第23回	理論問題・実技問題12 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	総合問題演習1	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第24回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	総合問題演習2	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第25回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第11回	総合問題演習3	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第26回	実技演習 慶事の対応・弔事の対応	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第12回	理論問題・実技問題1 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第27回	実技演習 ファイリング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第13回	理論問題・実技問題2 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第28回	実技演習 電話応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第14回	理論問題・実技問題3 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第29回	実技演習 来客応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第15回	理論問題・実技問題4 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第30回	実技総合演習 ロールプレイング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 経理事務学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	秘書準1級Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
課題 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業を通して分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	「応用の職場常識」といわれる秘書検定準1級について講義や問題演習を行いながら解説を加え知識の定着を促す。また、秘書の仕事の仕方やオフィス内外で業務を行う際に必要となる技能を習得し、感じのよい話し方や上級秘書にふさわしい立ち居振る舞いが実践できることにより、検定試験の合格を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス(試験について) 一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	過去問題1 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	過去問題2 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	過去問題3 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	過去問題4 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	過去問題5 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	過去問題6 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	<p>一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるように学習を行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）</p>				
備考	<p>複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。</p>				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの基本的な用語と基本操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験3級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Excelの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Excel基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Excel基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Excel基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Excel基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Excel基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子



第7回	Excel基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Excel基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	90時間	
			単位数	4単位	
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数	30回	
			成績 評価 方法	確認試験	: 50 %
				ミニテスト	: 50 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子			: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ				
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター				
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験2級の取得を目指す。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel問題演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel問題演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	Excel問題演習⑯ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel問題演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	Excel問題演習⑰ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel問題演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	Excel問題演習⑱ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel問題演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	Excel問題演習⑲ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel問題演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第21回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Excel問題演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第22回	Excel問題演習㉑ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Excel問題演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第23回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel問題演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第24回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel問題演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第25回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第11回	Excel問題演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第26回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第12回	Excel問題演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第27回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第13回	Excel問題演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第28回	直前模擬問題⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第14回	Excel問題演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第29回	直前模擬問題⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第15回	Excel問題演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第30回	直前模擬問題⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	文書処理ソフト基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	3単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理 技能認定試験2級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Wordの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Word基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Word文書処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	O A 事務学科（2年課程）・経理事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	表計算ソフト応用	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回	
		成績 評価 方法	確認試験	: 50 %
			ミニテスト	: 50 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %	
実務経験教員 の実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ			
実務経験教員 の実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター			
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子	第11回	Excel応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第2回	Excel応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第12回	Excel応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第3回	Excel応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第13回	Excel応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第4回	Excel応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第14回	Excel応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第5回	Excel応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第15回	Excel応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第6回	Excel応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第16回	Excel応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第7回	Excel応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第8回	Excel応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第9回	Excel応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第10回	Excel応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子

経理事務学科(2年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>Excel検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集（株式会社サーティファイ）</p>
<p>備考</p>	<p>複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。</p>

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	文書処理ソフト応用	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子



第8回	Word応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	Word検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	プレゼンテーションソフト	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびPowerPointの基本的な用語と操作から応用的な操作までを習得し、サー ティファイ主催PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、 PowerPointの画面構成	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	PowerPoint基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	PowerPoint基本操作①	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	PowerPoint応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	PowerPoint基本操作②	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	PowerPoint応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	PowerPoint基本操作③	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	PowerPoint応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	PowerPoint基本操作④	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	PowerPoint応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	PowerPoint基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	PowerPoint応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	PowerPoint基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	PowerPoint応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	PowerPoint基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	PowerPoint基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	PowerPoint基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	PowerPoint2016クイックマスター（株式会社ウイネット）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・情報システム学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）
学年	2 学年・3 学年・4 学年

科目名	社会人総合演習	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間	
		単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子・千葉 佳名江・伊藤 浩彰・ 大野 直哉・中島 京哉 高橋 敬・ 鈴木 裕治・河野 賢一・五十嵐 久子・ 瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春	授業回数	40回	
		成績 評価 方法	確認テスト	: 60 %
			実技試験	: 30 %
			レポート	: 10 %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。			
実務経験教員の 実務経験内容	<p>[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。</p>			

授業目的 到達目標	[Word・Excel] 状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。 「時事研究」 最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。 [販売管理・仕入管理務] 売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。 [ビジネスマナー] ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話応対ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	PCPパソコン実習 PCPビジネスマナー PCP販売仕入管理 PCP時事(大原学園)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がある。				



学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	マナー実習（セールス）	授業形態	実習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	久保田佳子・高橋敬・中島京哉 千葉佳名江・瀬尾幸江・長澤千春	授業回数	20回
		成績評価方法	実技試験 : 80 % 授業態度 : 20 % : : :
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾幸江・長澤千春		: % :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	丁寧な電話応対や名刺交換の基本、相手の心理を理解した販売や商品説明の仕方等をロールプレイングを通して具体的に指導する。実践力を養うとともに、社会人として滞りなく実務を行うための臨機応変さを身につけさせる。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔瀬尾幸江〕 一般企業にて総務・労務・経理事務、営業事務等を経験。接客販売および宿泊施設の電話交換業務に携わった経験あり。 秘書技能検定1級およびサービス接客検定1級、電話実践級を取得。 〔長澤千春〕 専門学校にて教務事務を担当したほか高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験あり。サービス接客検定1級を取得。		
授業目的 到達目標	1. 好印象を与える話し方や、状況に応じた立ち居振る舞いが自然にできる。 2. 内定先の取扱商品（サービス）や事業内容の知識を深め、企業の思いを理解する。 3. 人前で話すことに慣れるとともに、さまざまな客に対し柔軟に対応できる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	接客マナー 接客販売の心得 お客様心理の理解	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第11回	商品説明 説明内容に関する知識 お客様にとってのメリット	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第2回	接客マナー 店内接客の基本 接客基本用語 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第12回	商品説明 商品説明の準備 ポイントシート作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第3回	接客マナー 状況別の店内接客 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第13回	商品説明 話の組み立て方 シナリオ作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第4回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第14回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第5回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第15回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第6回	接客マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第16回	商品説明 好感をもたれる商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第7回	営業マナー 訪問のマナー・基本用語 アポイントメント ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第17回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第8回	営業マナー 受付・応接室でのポイント 受付訪問・名刺交換 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第18回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑤	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第9回	営業マナー 商談の進め方 訪問後のフォロー ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第19回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑥	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第10回	営業マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第20回	商品説明 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
準備学習等	<p>復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践を繰り返すなどして自分の習慣にすること。</p>				
教科書 参考書等	「ビジネスマナー」テキスト				
備考	<p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに効果測定等を実施し総合的に評価する。実務を意識した授業のため、効果を測定できなかった場合は追試等を実施し、実務レベルに対応する力をつけさせる。 複数学科・複数学年による合同授業となる。受講生の習熟の度合や進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴い、授業内容を変更する場合がある。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
				ミニテスト : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的、 簿記一巡の手続き、 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金、消費税、法人税等の決算整理 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、 買掛金、返品、分記法の記帳 方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表 の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品および仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳および当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 50 %
ミニテスト	: 30 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

第8回	直前対策講義実施、解説 仕訳：債権・債務 個別問題：商品有高帳 模擬試験問題演習・解説②	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) 日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)				
備考	授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。				



学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
授業態度 : 30 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。		
授業計画			
回数	授業内容		科目教員
第1回	ガイダンス 問題演習・解説 直前模擬試験 第1回		熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回		熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回		熊谷 茜美 工藤 英一

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。	
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版) 日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園) 2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回～第3回 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。 株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	6単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	30回
			成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	経理知識や技能の証明となり就職活動にも有利になる資格「経理実務士」の取得を目指し、認定要件である資格のうち、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）の合格を目指す。計算実務では経理職に欠かせない知識である帳票計算と商業計算について学習する。全経簿記では中小企業の実務における各取引の会計処理について学習する。 本講義終了後の科目「経理実務演習」に積極的に取り組めるようにすること。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】＜帳票計算＞ 試算表、商品有高帳 (先入先出法、移動平均法)	熊谷 茜美 工藤 英一	第16回	【全経簿記】 5伝票制、特殊仕訳帳制	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算 手形割引計算（割引料を求める場合、手取金を求める場合、手形金額を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第17回	【全経簿記】 材料費会計 労務費会計	熊谷 工藤	茜美 英一
第3回	【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （試算表、商品有高帳、貨幣計算、手形割引計算）	熊谷 工藤	茜美 英一	第18回	【全経簿記】 為替手形、荷為替手形、 商品券（自社） 有価証券売買	熊谷 工藤	茜美 英一
第4回	【計算実務】＜商業計算＞ 通法の計算 ～グロス・ダース・個～ （代価を求める場合、数量を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第19回	【全経簿記】 経費会計 製造間接費会計	熊谷 工藤	茜美 英一
第5回	【計算実務】＜商業計算＞ 仲立人の手数料計算 （手数料を求める場合、買主の支払総額・売主の手取金を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第20回	【全経簿記】 特殊商品売買 履行義務の充足	熊谷 工藤	茜美 英一
第6回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （通法の計算、仲立人の手数料計算）	熊谷 工藤	茜美 英一	第21回	【全経簿記】 部門別計算 個別原価計算 単純総合原価計算	熊谷 工藤	茜美 英一

第7回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算、手形割引計算（割引率を求める場合、割引日数を求める場合、割引日を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第22回	【全経簿記】 圧縮記帳 投資不動産	熊谷 工藤	茜美 英一
第8回	【計算実務】＜商業計算＞ 商品売買の計算（定価を求める場合、利益率を求める場合、原価を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第23回	【全経簿記】 工程別総合原価計算 組別総合原価計算 等級別総合原価計算	熊谷 工藤	茜美 英一
第9回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （貨幣計算、手形割引計算、商品売買の計算）	熊谷 工藤	茜美 英一	第24回	【全経簿記】 資産除去債務 固定資産の減損	熊谷 工藤	茜美 英一
第10回	【計算実務】＜商業計算＞ 委託販売・委託買付の手数料計算（売上高を求める場合、送金額を求める場合、請求額を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第25回	【全経簿記】 標準原価計算 CVP分析	熊谷 工藤	茜美 英一
第11回	【計算実務】＜商業計算＞ 金銭の貸し付け（貸付利率を求める場合、元利合計を求める場合、貸付期間を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第26回	【全経簿記】 負ののれん発生益 社債	熊谷 工藤	茜美 英一

第12回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (委託販売・委託買付の手数 料計算、金銭の貸し付け)	熊谷 茜美 工藤 英一	第27回	【全経簿記】 直接原価計算 全部原価計算 固定費調整	熊谷 茜美 工藤 英一
第13回	【計算実務】＜商業計算＞ 純量代価(総量、風袋、減量 の用語の確認、定価の求め 方)	熊谷 茜美 工藤 英一	第28回	【全経簿記】 理論問題対策	熊谷 茜美 工藤 英一
第14回	【計算実務】＜商業計算＞ 有利・不利の判定(値引きと 増量) 通法の計算(文章問題)	熊谷 茜美 工藤 英一	第29回	【全経簿記】 工場会計の独立	熊谷 茜美 工藤 英一
第15回	【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (純量代価の計算、有利・不 利の判定、通法の計算) 伝票計算(検定試験問題の解 き方)	熊谷 茜美 工藤 英一	第30回	【全経簿記】 財務諸表分析	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	計算実務・全経簿記ともに短期間での学習になるため、日々の授業の復習が大切。理解が不十分な場合には科目教員に質問し、理解したうえで次の授業に臨むこと。なお、予習は不要。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級  (公益社団法人 全国経理教育協会)  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学  (公益社団法人 全国経理教育協会)  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>経理実務は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
			: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。
-------------------	---

授業目的 到達目標	「経理実務」で学習した基礎的な知識を基に、問題演習を通して本試験に対応できる能力を養うことを目的とする。また、項目別に問題演習を行うことで重要度の高い範囲をもう一度確認し、より知識を深める。なお、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第119回、118回	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	【全経簿記】 第208回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第117回、116回	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	【全経簿記】 第207回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一



第3回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第115回、114回	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	【全経簿記】 第206回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第113回、112回 項目別対策（手形割引計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	【全経簿記】 第205回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第111回、110回 項目別対策（商品売買の計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	【全経簿記】 第204回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第109回、108回 項目別対策（委託販売・委託 買付の手数料計算、金銭の貸 し付け）	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	【全経簿記】 第203回過去問題 実施・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第107回、106回 項目別対策（仲立人の手数料 計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	【全経簿記】 第202回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	【全経簿記】 第209回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の問題のやり直しを丁寧に行うことが何よりも大切。間違った問題は全て確認し、わからないことがある場合には科目教員に確認するようにすること。また、問題演習を通して苦手項目が明らかになった場合には、その項目を重点的に復習すること。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級  (公益社団法人 全国経理教育協会)  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学  (公益社団法人 全国経理教育協会)  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>経理実務演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Wordの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生を含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、簡単なビジネス文書を作成できるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	3級問題集模擬問題 解説5・6	菊地 裕美
第2回	キーボードの打ち分け方法 Wordの画面構成 フォルダ管理 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	3級問題集模擬問題 解説7	菊地 裕美
第3回	3級問題集練習問題、解説1	菊地 裕美	第10回	3級問題集模擬試験、解説	菊地 裕美
第4回	3級問題集練習問題、解説2	菊地 裕美	第11回	サンプル問題 採点	菊地 裕美

第5回	3級問題集練習問題、解説3	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	3級問題集模擬問題 解説1・2	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美
第7回	3級問題集模擬問題 解説3・4	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	Word文書処理認定試験3級を取得できるようにするため、検定試験と類似の問題を準備し、多くの問題に携わることで授業内容の理解を深める。				
教科書 参考書等	サーティファイ 文書処理技能認定試験 Word3級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	<p>PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。</p> <p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する可能性がある。文書処理技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p> <p>ガイダンスは1時間の講義となる。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft PowerPointの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、会議や講演などでプレゼンテーションを行うときに必要な資料作成ができるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	初級問題集 模擬問題、解説2	菊地 裕美
第2回	プレゼンテーション概論、 フォルダ管理、 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	初級問題集 模擬問題、解説3	菊地 裕美
第3回	PPT画面構成、 プレゼンテーションの構成	菊地 裕美	第10回	模擬試験問題、解説 採点の仕方レクチャー	菊地 裕美
第4回	初級問題集 練習問題、解説1	菊地 裕美	第11回	サンプル問題、解説	菊地 裕美
第5回	初級問題集 練習問題、解説2	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	初級問題集 練習問題、解説3	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美

第7回	初級問題集 模擬問題、解説1	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				
教科書 参考書等	クイックマスター（株式会社ウイネット） プレゼンテーション問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 ガイダンスは1時間の講義となる。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。プレゼンテーション技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合 同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 % ミニテスト : 30 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。 確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。	
教科書 参考書等	ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス) ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&問題集 (成美堂出版) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。	



学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## OA事務学科(2年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンドライジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業で必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンドライジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## OA事務学科(2年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選定の別	選定
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャライジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャライジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャライジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（カリアック） 販売士2級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## OA事務学科(2年課程)

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャダイジング（問題演習） マーチャダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（1年課程）・ OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	システム開発基礎Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉		授業回数	20回
			成績 評価 方法	課題提出 : 70 %
				平常点 : 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)			
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるフロントエンド開発を行うことができる。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	フロントエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	JavaScript①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTML①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	JavaScript②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTML②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	JavaScript③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	HTML③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	jQuery①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	CSS①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	jQuery②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	CSS②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	jQuery③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	CSS③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webページ制作実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	CSSフレームワーク①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webページ制作実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	CSSフレームワーク②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webページ制作実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	CSSフレームワーク③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webページ制作実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

## OA事務学科(2年課程)

準備学習等	基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。
教科書 参考書等	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（1年課程）・ OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	1学年

科目名	システム開発応用Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績評価方法	課題提出 : 70 % 平常点 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるバックエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	バックエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	データベース①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTMLとCSSの復習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	データベース②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTMLとCSSの復習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	データベース③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	php①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	セキュリティ対策	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	php②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	Webシステム開発実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	php③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	Webシステム開発実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	php④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webシステム開発実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	php⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webシステム開発実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	php⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webシステム開発実習⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	php⑦	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webシステム開発実習⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

## OA事務学科(2年課程)

準備学習等	基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。
教科書 参考書等	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。



学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	23回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして 解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の 会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っ ていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の 消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答で きるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	4単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 40 %
				ミニテスト : 40 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也

第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び 納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也
第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等 の益金不算入・寄付金の損金 不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸 倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金 不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金 不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・ 確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄 付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金 ②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・ 別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・ 接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立 事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、 理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原 出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。ま た、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合があ る。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学 年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の 会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っ ていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表 を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を 解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業 者を前提とした消費税額の計 算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也

第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第3回	減価償却のの事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	Excel表計算技能		授業形態	講義
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	菊地 裕美		授業回数	10回
			成績 評価 方法	実技試験 : 50 %
				知識試験 : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Excelによる操作方法			
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）			
授業目的 到達目標	PCを用いて簡単なワークシートの作成とデータの入力ができるようにする。 また、タイピングソフトを使い入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス キーボード入力方法 フォルダ管理	菊地 裕美	第6回	基本練習4 罫線の引き方	菊地 裕美
第2回	Excelの画面構成、コピー 移動方法の確認	菊地 裕美	第7回	基本練習5 関数1 基本関数	菊地 裕美
第3回	基本練習1 Shift、Ctrlの使い 方	菊地 裕美	第8回	基本練習6 関数2 ROUND系、RANK、IF、等	菊地 裕美
第4回	基本練習2 オートフィル機能の使い方	菊地 裕美	第9回	基本練習7 グラフ	菊地 裕美
第5回	基本練習3 行・列の挿入と削除 ウィンドウ枠の固定と解除	菊地 裕美	第10回	基本練習8 並べ替えとフィルター	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				

教科書 参考書等	オリジナルテキストとデータを使用
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 Excel表計算技能は、上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	40回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 %
授業態度 : 20 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客のみ ならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。学習内容の理解を到達目標とし、 日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬

第7回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第8回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャダイジング マーチャダイジングの戦略的展開	山下 健二	第29回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第30回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第31回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第32回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第33回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャダイジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャダイジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーションの展開視点	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬

準備学習等

学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。  
学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。

教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part1（TAC出版） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part2（TAC出版）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性がります。

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	4単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 %
授業態度 : 20 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2級合格レベルに引き上げることを目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型(問題演習) 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演習) 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演習) LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演習) 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬



第6回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャндаイジング（問題演習） マーチャндаイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第22回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第8回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第23回	マーケティング（問題演習） 商圏分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャндаイジング（問題演習） 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第24回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第25回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャндаイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第26回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャндаイジング（問題演習） 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第27回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第13回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	山下 健二	第28回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション（問題演習） 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第29回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬	第30回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	全範囲の理解度を再確認します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part1（TAC出版） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part2（TAC出版）				

備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性が あります。
----	---

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	40回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 20 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学 習することを目的とする。学習内容の理解を到達目標とし、日本商工会議所主催リテ ルマーケティング(販売士)検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
32E3918	小売業の類型 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング 小売業のマーケティングの基 本	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬
第7回	小売業の類型 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬

第8回	小売業の類型 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャダイジング 商品の基本	中島 京哉 高橋 敬	第29回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第30回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第31回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第32回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第33回	マーケティング 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャダイジング 在庫管理の基本	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャダイジング 販売管理の基本	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャダイジング 総合問題演習	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 店舗管理の基本	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 包装技術の基本	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（基礎編）リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応 （キャリアック） 販売士（リテールマーケティング）3級問題集part 1（TAC出版） 販売士（リテールマーケティング）3級問題集part 2（TAC出版）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	4単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	30回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 20 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り 組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定3 級合格レベルに引き上げることを目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演 習)	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演 習)	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演 習)	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの基 本	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャンダイジング(問題演 習) 商品の基本	山下 健二	第22回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬

## OA事務学科(2年課程)

第8回	マーチャライジング(問題演習) マーチャライジングの基本	山下 健二	第23回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャライジング(問題演習) 商品計画の基本	山下 健二	第24回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャライジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第25回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャライジング(問題演習)	山下 健二	第26回	過去試験問題演習・解説(第87回)	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャライジング(問題演習)	山下 健二	第27回	過去試験問題演習・解説(第85回)	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャライジング(問題演習)	山下 健二	第28回	過去試験問題演習・解説(第84回)	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第29回	過去試験問題演習・解説(第83回)	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第30回	過去試験問題演習・解説(第82回)	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック(基礎編) リテールマーケティング(販売士) 検定試験3級対応 (キャリアック) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part1 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part2 (TAC出版)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 経理事務学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	秘書準1級I	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
課題提出 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をおし分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	秘書の仕事の仕方を通してより高度な職場常識の理解を深め、オフィス内外で業務を行う際に必要な技能の習得と向上を図る。「応用の職場常識」といわれる秘書準1級の内容にふさわしい感じのよい立ち居振る舞いや話し方などを実践できるとともに、状況に応じた「より適切な」判断と柔軟な対応ができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	検定試験の受け方・基礎知識 必要とされる資質 上級秘書の資質と能力	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	必要とされる資質 対人関係の心得	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識 秘書の機能と役割	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識 秘書の機能と役割 秘書の業務	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー-接遇 人間関係と話し方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	秘書技能 情報管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	秘書技能 日程管理・オフィス管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験の予備知識 試験の概要と実際の流れ	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能 会議	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。				
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				



学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	5単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
			課題・レポート : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をおし分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験をもつ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験をもつ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	演習を中心とした授業を通して実践力を高め、オフィス内外の業務に必要な高度な技能の習得と向上を図り検定試験の合格に繋げる。また、上級秘書としてのあり方を理解した立ち居振る舞いや話し方などが実践できることに加え、状況に応じて「より適切な」判断と柔軟な対応をとることができる能力を育む。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	理論問題・実技問題5 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	理論問題・実技問題6 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	理論問題・実技問題7 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	理論問題・実技問題8 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	理論問題・実技問題9 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第21回	理論問題・実技問題10 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第22回	理論問題・実技問題11 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第23回	理論問題・実技問題12 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	総合問題演習1	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第24回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	総合問題演習2	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第25回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第11回	総合問題演習3	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第26回	実技演習 慶事の対応・弔事の対応	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第12回	理論問題・実技問題1 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第27回	実技演習 ファイリング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第13回	理論問題・実技問題2 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第28回	実技演習 電話応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第14回	理論問題・実技問題3 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第29回	実技演習 来客応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第15回	理論問題・実技問題4 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第30回	実技総合演習 ロールプレイング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
課題 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業を通して分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	「応用の職場常識」といわれる秘書検定準1級について講義や問題演習を行いながら解説を加え知識の定着を促す。また、秘書の仕事の仕方やオフィス内外で業務を行う際に必要となる技能を習得し、感じのよい話し方や上級秘書にふさわしい立ち居振る舞いが実践できることにより、検定試験の合格を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス（試験について） 一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	過去問題1 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	過去問題2 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	過去問題3 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	過去問題4 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	過去問題5 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	過去問題6 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。				
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの基本的な用語と基本操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験3級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Excelの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Excel基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Excel基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Excel基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Excel基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Excel基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	Excel基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Excel基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	4単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	30回
		成績 評価 方法	確認試験
ミニテスト	: 50 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験2級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel問題演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel問題演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	Excel問題演習⑯ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel問題演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	Excel問題演習⑰ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel問題演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	Excel問題演習⑱ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel問題演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	Excel問題演習⑲ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel問題演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第21回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Excel問題演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第22回	Excel問題演習㉑ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Excel問題演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第23回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel問題演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第24回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel問題演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第25回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第11回	Excel問題演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第26回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第12回	Excel問題演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第27回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第13回	Excel問題演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第28回	直前模擬問題⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第14回	Excel問題演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第29回	直前模擬問題⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第15回	Excel問題演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第30回	直前模擬問題⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年のよる合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				



学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	文書処理ソフト基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	3単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理 技能認定試験2級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Wordの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Word基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 3級問題集（株式会社サーティファイ） Word文書処理技能認定試験 1・2級問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	表計算ソフト応用	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 %
			ミニテスト : 50 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子	: %	
実務経験教員 の実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員 の実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子	第11回	Excel応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第2回	Excel応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第12回	Excel応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第3回	Excel応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第13回	Excel応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第4回	Excel応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第14回	Excel応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第5回	Excel応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第15回	Excel応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第6回	Excel応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第16回	Excel応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第7回	Excel応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第8回	Excel応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第9回	Excel応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第10回	Excel応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子

## OA事務学科(2年課程)

準備学習等	Excel検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	文書処理ソフト応用	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 %
			ミニテスト : 50 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Word応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	Word検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	プレゼンテーションソフト	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびPowerPointの基本的な用語と操作から応用的な操作までを習得し、サー ティファイ主催PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、 PowerPointの画面構成	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	PowerPoint基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	PowerPoint基本操作①	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	PowerPoint応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	PowerPoint基本操作②	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	PowerPoint応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	PowerPoint基本操作③	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	PowerPoint応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	PowerPoint基本操作④	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	PowerPoint応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	PowerPoint基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	PowerPoint応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	PowerPoint基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	PowerPoint応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	PowerPoint基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	PowerPoint基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	PowerPoint基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	PowerPoint2016クイックマスター（株式会社ウイネット）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				



学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・情報システム学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	社会人総合演習	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間	
		単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子・千葉 佳名江・伊藤 浩彰・ 大野 直哉・中島 京哉 高橋 敬・ 鈴木 裕治・河野 賢一・五十嵐 久子・ 瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春	授業回数	40回	
		成績 評価 方法	確認テスト	: 60 %
			実技試験	: 30 %
			レポート	: 10 %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。			
実務経験教員の 実務経験内容	<p>[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。</p>			

授業目的 到達目標	<p>[Word・Excel]</p> <p>状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。</p> <p>「時事研究」</p> <p>最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。</p> <p>[販売管理・仕入管理務]</p> <p>売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。</p> <p>[ビジネスマナー]</p> <p>ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。</p>
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話応対ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	PCPパソコン実習 PCPビジネスマナー PCP販売仕入管理 PCP時事(大原学園)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がある。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2学年

科目名	マナー実習（セールス）	授業形態	実習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	久保田佳子・高橋敬・中島京哉 千葉佳名江・瀬尾幸江・長澤千春	授業回数	20回
		成績評価方法	実技試験 : 80 % 授業態度 : 20 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾幸江・長澤千春		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	丁寧な電話応対や名刺交換の基本、相手の心理を理解した販売や商品説明の仕方等をロールプレイングを通して具体的に指導する。実践力を養うとともに、社会人として滞りなく実務を行うための臨機応変さを身につけさせる。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔瀬尾幸江〕 一般企業にて総務・労務・経理事務、営業事務等を経験。接客販売および宿泊施設の電話交換業務に携わった経験あり。 秘書技能検定1級およびサービス接客検定1級、電話実践級を取得。 〔長澤千春〕 専門学校にて教務事務を担当したほか高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験あり。サービス接客検定1級を取得。		
授業目的 到達目標	1. 好印象を与える話し方や、状況に応じた立ち居振る舞いが自然にできる。 2. 内定先の取扱商品（サービス）や事業内容の知識を深め、企業の思いを理解する。 3. 人前で話すことに慣れるとともに、さまざまな客に対し柔軟に対応できる。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	接客マナー 接客販売の心得 お客様心理の理解	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第11回	商品説明 説明内容に関する知識 お客様にとってのメリット	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第2回	接客マナー 店内接客の基本 接客基本用語 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第12回	商品説明 商品説明の準備 ポイントシート作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第3回	接客マナー 状況別の店内接客 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第13回	商品説明 話の組み立て方 シナリオ作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第4回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第14回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第5回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第15回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第6回	接客マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第16回	商品説明 好感をもたれる商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第7回	営業マナー 訪問のマナー・基本用語 アポイントメント ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第17回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第8回	営業マナー 受付・応接室でのポイント 受付訪問・名刺交換 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第18回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑤	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第9回	営業マナー 商談の進め方 訪問後のフォロー ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第19回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑥	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第10回	営業マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第20回	商品説明 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
準備学習等	<p>復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践を繰り返すなどして自分の習慣にすること。</p>				
教科書 参考書等	「ビジネスマナー」テキスト				
備考	<p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに効果測定等を実施し総合的に評価する。実務を意識した授業のため、効果を測定できなかった場合は追試等を実施し、実務レベルに対応する力をつけさせる。</p> <p>複数学科・複数学年による合同授業となる。受講生の習熟の度合や進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴い、授業内容を変更する場合がある。</p>				



学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
				ミニテスト : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的、 簿記一巡の手続き、 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金、消費税、法人税等の決算整理 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、 買掛金、返品、分記法の記帳 方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表 の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品および仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳および当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

第8回	直前対策講義実施、解説 仕訳：債権・債務 個別問題：商品有高帳 模擬試験問題演習・解説②	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) 日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)				
備考	授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	5回
			成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	ガイダンス 問題演習・解説 直前模擬試験 第1回			熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回			熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回			熊谷 茜美 工藤 英一

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。	
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版) 日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園) 2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回～第3回 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。 株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	6単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	30回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	経理知識や技能の証明となり就職活動にも有利になる資格「経理実務士」の取得を目指し、認定要件である資格のうち、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）の合格を目指す。計算実務では経理職に欠かせない知識である帳票計算と商業計算について学習する。全経簿記では中小企業の実務における各取引の会計処理について学習する。 本講義終了後の科目「経理実務演習」に積極的に取り組めるようにすること。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】＜帳票計算＞ 試算表、商品有高帳 (先入先出法、移動平均法)	熊谷 茜美 工藤 英一	第16回	【全経簿記】 5伝票制、特殊仕訳帳制	熊谷 茜美 工藤 英一



第2回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算 手形割引計算（割引料を求める場合、手取金を求める場合、手形金額を求める場合）	熊谷 茜美 工藤 英一	第17回	【全経簿記】 材料費会計 労務費会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （試算表、商品有高帳、貨幣計算、手形割引計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第18回	【全経簿記】 為替手形、荷為替手形、 商品券（自社） 有価証券売買	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	【計算実務】＜商業計算＞ 通法の計算 ～グロス・ダース・個～ （代価を求める場合、数量を求める場合）	熊谷 茜美 工藤 英一	第19回	【全経簿記】 経費会計 製造間接費会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	【計算実務】＜商業計算＞ 仲立人の手数料計算 （手数料を求める場合、買主の支払総額・売主の手取金を求める場合）	熊谷 茜美 工藤 英一	第20回	【全経簿記】 特殊商品売買 履行義務の充足	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （通法の計算、仲立人の手数料計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第21回	【全経簿記】 部門別計算 個別原価計算 単純総合原価計算	熊谷 茜美 工藤 英一

第7回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算、手形割引計算（割引率を求める場合、割引日数を求める場合、割引日を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第22回	【全経簿記】 圧縮記帳 投資不動産	熊谷 工藤	茜美 英一
第8回	【計算実務】＜商業計算＞ 商品売買の計算（定価を求める場合、利益率を求める場合、原価を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第23回	【全経簿記】 工程別総合原価計算 組別総合原価計算 等級別総合原価計算	熊谷 工藤	茜美 英一
第9回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （貨幣計算、手形割引計算、商品売買の計算）	熊谷 工藤	茜美 英一	第24回	【全経簿記】 資産除去債務 固定資産の減損	熊谷 工藤	茜美 英一
第10回	【計算実務】＜商業計算＞ 委託販売・委託買付の手数料 計算（売上高を求める場合、 送金額を求める場合、請求額 を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第25回	【全経簿記】 標準原価計算 CVP分析	熊谷 工藤	茜美 英一
第11回	【計算実務】＜商業計算＞ 金銭の貸し付け（貸付利率を 求める場合、元利合計を求め る場合、貸付期間を求める場 合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第26回	【全経簿記】 負ののれん発生益 社債	熊谷 工藤	茜美 英一

第12回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (委託販売・委託買付の手数 料計算、金銭の貸し付け)	熊谷 茜美 工藤 英一	第27回	【全経簿記】 直接原価計算 全部原価計算 固定費調整	熊谷 茜美 工藤 英一
第13回	【計算実務】＜商業計算＞ 純量代価(総量、風袋、減量 の用語の確認、定価の求め 方)	熊谷 茜美 工藤 英一	第28回	【全経簿記】 理論問題対策	熊谷 茜美 工藤 英一
第14回	【計算実務】＜商業計算＞ 有利・不利の判定(値引きと 増量) 通法の計算(文章問題)	熊谷 茜美 工藤 英一	第29回	【全経簿記】 工場会計の独立	熊谷 茜美 工藤 英一
第15回	【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (純量代価の計算、有利・不 利の判定、通法の計算) 伝票計算(検定試験問題の解 き方)	熊谷 茜美 工藤 英一	第30回	【全経簿記】 財務諸表分析	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	計算実務・全経簿記ともに短期間での学習になるため、日々の授業の復習が大切。理解が不十分な場合には科目教員に質問し、理解したうえで次の授業に臨むこと。なお、予習は不要。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級  (公益社団法人 全国経理教育協会)  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学  (公益社団法人 全国経理教育協会)  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>経理実務は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。
-------------------	---

授業目的 到達目標	「経理実務」で学習した基礎的な知識を基に、問題演習を通して本試験に対応できる能力を養うことを目的とする。また、項目別に問題演習を行うことで重要度の高い範囲をもう一度確認し、より知識を深める。なお、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第119回、118回	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	【全経簿記】 第208回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第117回、116回	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	【全経簿記】 第207回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第115回、114回	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	【全経簿記】 第206回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第113回、112回 項目別対策（手形割引計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	【全経簿記】 第205回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第111回、110回 項目別対策（商品売買の計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	【全経簿記】 第204回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第109回、108回 項目別対策（委託販売・委託 買付の手数料計算、金銭の貸 し付け）	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	【全経簿記】 第203回過去問題 実施・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第107回、106回 項目別対策（仲立人の手数料 計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	【全経簿記】 第202回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	【全経簿記】 第209回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の問題のやり直しを丁寧に行うことが何よりも大切。間違った問題は全て確認し、わからないことがある場合には科目教員に確認するようにすること。また、問題演習を通して苦手項目が明らかになった場合には、その項目を重点的に復習すること。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級  (公益社団法人 全国経理教育協会)  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学  (公益社団法人 全国経理教育協会)  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>経理実務演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Wordの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生を含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、簡単なビジネス文書を作成できるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	3級問題集模擬問題 解説5・6	菊地 裕美
第2回	キーボードの打ち分け方法 Wordの画面構成 フォルダ管理 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	3級問題集模擬問題 解説7	菊地 裕美
第3回	3級問題集練習問題、解説1	菊地 裕美	第10回	3級問題集模擬試験、解説	菊地 裕美
第4回	3級問題集練習問題、解説2	菊地 裕美	第11回	サンプル問題 採点	菊地 裕美



第5回	3級問題集練習問題、解説3	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	3級問題集模擬問題 解説1・2	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美
第7回	3級問題集模擬問題 解説3・4	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	Word文書処理認定試験3級を取得できるようにするため、検定試験と類似の問題を準備し、多くの問題に携わることで授業内容の理解を深める。				
教科書 参考書等	サーティファイ 文書処理技能認定試験 Word3級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	<p>PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。</p> <p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する可能性がある。文書処理技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p> <p>ガイダンスは1時間の講義となる。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft PowerPointの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、会議や講演などでプレゼンテーションを行うときに必要な資料作成ができるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	初級問題集 模擬問題、解説2	菊地 裕美
第2回	プレゼンテーション概論、 フォルダ管理、 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	初級問題集 模擬問題、解説3	菊地 裕美
第3回	PPT画面構成、 プレゼンテーションの構成	菊地 裕美	第10回	模擬試験問題、解説 採点の仕方レクチャー	菊地 裕美
第4回	初級問題集 練習問題、解説1	菊地 裕美	第11回	サンプル問題、解説	菊地 裕美
第5回	初級問題集 練習問題、解説2	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	初級問題集 練習問題、解説3	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美

第7回	初級問題集 模擬問題、解説1	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				
教科書 参考書等	クイックマスター（株式会社ウイネット） プレゼンテーション問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 ガイダンスは1時間の講義となる。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。プレゼンテーション技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合 同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 % ミニテスト : 30 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。 確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。	
教科書 参考書等	ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス) ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&問題集 (成美堂出版) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## OA事務学科(1年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業に必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊



## OA事務学科(1年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選定の別	選定
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（カリアック） 販売士2級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## OA事務学科(1年課程)

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	方法	: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考 え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊



第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャダイジング（問題演習） マーチャダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（1年課程）・ OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	システム開発基礎Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績評価方法	課題提出 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるフロントエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	フロントエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	JavaScript①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTML①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	JavaScript②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTML②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	JavaScript③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	HTML③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	jQuery①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	CSS①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	jQuery②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	CSS②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	jQuery③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	CSS③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webページ制作実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	CSSフレームワーク①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webページ制作実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	CSSフレームワーク②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webページ制作実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	CSSフレームワーク③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webページ制作実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

## OA事務学科(1年課程)

準備学習等	基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。
教科書 参考書等	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（1年課程）・ OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	1学年

科目名	システム開発応用Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績評価方法	課題提出 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %
		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるバックエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	バックエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	データベース①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTMLとCSSの復習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	データベース②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTMLとCSSの復習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	データベース③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	php①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	セキュリティ対策	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	php②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	Webシステム開発実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	php③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	Webシステム開発実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	php④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webシステム開発実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	php⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webシステム開発実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	php⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webシステム開発実習⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	php⑦	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webシステム開発実習⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

## OA事務学科(1年課程)

準備学習等	基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。
教科書 参考書等	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	23回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして 解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の 会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っ ていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の 消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答で きるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(2年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也



第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(2年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	4単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		成績評価方法	筆記試験 : 40 % ミニテスト : 40 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也

第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也
第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の 会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っ ていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表 を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を 解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業 者を前提とした消費税額の計 算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也

第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(2年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :	
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也			: % : %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第3回	減価償却のの事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	Excel表計算技能	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	10回
		成績評価方法	実技試験
知識試験	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Excelによる操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて簡単なワークシートの作成とデータの入力ができるようにする。 また、タイピングソフトを使い入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス キーボード入力方法 フォルダ管理	菊地 裕美	第6回	基本練習4 罫線の引き方	菊地 裕美
第2回	Excelの画面構成、コピー 移動方法の確認	菊地 裕美	第7回	基本練習5 関数1 基本関数	菊地 裕美
第3回	基本練習1 Shift、Ctrlの使い 方	菊地 裕美	第8回	基本練習6 関数2 ROUND系、RANK、IF、等	菊地 裕美
第4回	基本練習2 オートフィル機能の使い方	菊地 裕美	第9回	基本練習7 グラフ	菊地 裕美
第5回	基本練習3 行・列の挿入と削除 ウィンドウ枠の固定と解除	菊地 裕美	第10回	基本練習8 並べ替えとフィルター	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				



教科書 参考書等	オリジナルテキストとデータを使用
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 Excel表計算技能は、上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的 簿記一巡の手続き 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金（消費税、法人税等の 決算整理） 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、 買掛金、返品、分記法の記帳 方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表 の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品・仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳・当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
ミニテスト	: 30 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

<p>第8回</p>	<p>直前対策講義実施、解説                  仕訳：債権・債務                  個別問題：商品有高帳                  模擬試験問題演習・解説②</p>	<p>熊谷 茜美                  工藤 英一</p>			
<p>準備学習等</p>	<p>毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。</p>				
<p>教科書 参考書等</p>	<p>ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園)                  日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版)                  ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園)                  ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園)                  日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)</p>				
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
授業態度 : 30 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。		
授業計画			
回数	授業内容		科目教員
第1回	ガイダンス問題演習・解説 直前模擬試験 第1回		熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回		熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回		熊谷 茜美 工藤 英一

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	<p>本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。</p>	
教科書 参考書等	<p>ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園)  ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園)  ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園)  ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版)  日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版)  ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園)  ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園)  日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)</p> <p>2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回～第3回 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。  株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。</p>	



学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	6単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	30回
			成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	経理知識や技能の証明となり就職活動にも有利になる資格「経理実務士」の取得を目指し、認定要件である資格のうち、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）の合格を目指す。計算実務では経理職に欠かせない知識である帳票計算と商業計算について学習する。全経簿記では中小企業の実務における各取引の会計処理について学習する。 本講義終了後の科目「経理実務演習」に積極的に取り組めるようにすること。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】＜帳票計算＞ 試算表、商品有高帳 (先入先出法、移動平均法)	熊谷 茜美 工藤 英一	第16回	【全経簿記】 5伝票制、特殊仕訳帳制	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算 手形割引計算（割引料を求める場合、手取金を求める場合、手形金額を求める場合）	熊谷 茜美 工藤 英一	第17回	【全経簿記】 材料費会計 労務費会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （試算表、商品有高帳、貨幣計算、手形割引計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第18回	【全経簿記】 為替手形、荷為替手形、 商品券（自社） 有価証券売買	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	【計算実務】＜商業計算＞ 通法の計算 ～グロス・ダース・個～ （代価を求める場合、数量を求める場合）	熊谷 茜美 工藤 英一	第19回	【全経簿記】 経費会計 製造間接費会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	【計算実務】＜商業計算＞ 仲立人の手数料計算 （手数料を求める場合、買主の支払総額・売主の手取金を求める場合）	熊谷 茜美 工藤 英一	第20回	【全経簿記】 特殊商品売買 履行義務の充足	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （通法の計算、仲立人の手数料計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第21回	【全経簿記】 部門別計算 個別原価計算 単純総合原価計算	熊谷 茜美 工藤 英一

第7回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算、手形割引計算（割引率を求める場合、割引日数を求める場合、割引日を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第22回	【全経簿記】 圧縮記帳 投資不動産	熊谷 工藤	茜美 英一
第8回	【計算実務】＜商業計算＞ 商品売買の計算（定価を求める場合、利益率を求める場合、原価を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第23回	【全経簿記】 工程別総合原価計算 組別総合原価計算 等級別総合原価計算	熊谷 工藤	茜美 英一
第9回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （貨幣計算、手形割引計算、商品売買の計算）	熊谷 工藤	茜美 英一	第24回	【全経簿記】 資産除去債務 固定資産の減損	熊谷 工藤	茜美 英一
第10回	【計算実務】＜商業計算＞ 委託販売・委託買付の手数料 計算（売上高を求める場合、 送金額を求める場合、請求額 を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第25回	【全経簿記】 標準原価計算 CVP分析	熊谷 工藤	茜美 英一
第11回	【計算実務】＜商業計算＞ 金銭の貸し付け（貸付利率を 求める場合、元利合計を求め る場合、貸付期間を求める場 合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第26回	【全経簿記】 負ののれん発生益 社債	熊谷 工藤	茜美 英一

<p>第12回</p>	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (委託販売・委託買付の手数 料計算、金銭の貸し付け)</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>	<p>第27回</p>	<p>【全経簿記】 直接原価計算 全部原価計算 固定費調整</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>
<p>第13回</p>	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 純量代価(総量、風袋、減量 の用語の確認、定価の求め 方)</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>	<p>第28回</p>	<p>【全経簿記】 理論問題対策</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>
<p>第14回</p>	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 有利・不利の判定(値引きと 増量) 通法の計算(文章問題)</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>	<p>第29回</p>	<p>【全経簿記】 工場会計の独立</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>
<p>第15回</p>	<p>【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (純量代価の計算、有利・不 利の判定、通法の計算) 伝票計算(検定試験問題の解 き方)</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>	<p>第30回</p>	<p>【全経簿記】 財務諸表分析</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>
<p>準備学習等</p>	<p>計算実務・全経簿記ともに短期間での学習になるため、日々の授業の復習が大切。理解が不十分な場合には科目教員に質問し、理解したうえで次の授業に臨むこと。なお、予習は不要。</p>				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>                  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>                  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>経理実務は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務演習	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %	

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。
-------------------	---

授業目的 到達目標	「経理実務」で学習した基礎的な知識を基に、問題演習を通して本試験に対応できる能力を養うことを目的とする。また、項目別に問題演習を行うことで重要度の高い範囲をもう一度確認し、より知識を深める。なお、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第119回、118回	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	【全経簿記】 第208回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第117回、116回	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	【全経簿記】 第207回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第115回、114回	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	【全経簿記】 第206回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第113回、112回 項目別対策（手形割引計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	【全経簿記】 第205回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第111回、110回 項目別対策（商品売買の計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	【全経簿記】 第204回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第109回、108回 項目別対策（委託販売・委託 買付の手数料計算、金銭の貸 し付け）	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	【全経簿記】 第203回過去問題 実施・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第107回、106回 項目別対策（仲立人の手数料 計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	【全経簿記】 第202回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	【全経簿記】 第209回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の問題のやり直しを丁寧に行うことが何よりも大切。間違った問題は全て確認し、 わからないことがある場合には科目教員に確認するようにすること。また、問題演習を 通して苦手項目が明らかになった場合には、その項目を重点的に復習すること。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>                  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>                  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。                  経理実務演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験
知識試験	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Wordの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生を含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、簡単なビジネス文書を作成できるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	3級問題集模擬問題 解説5・6	菊地 裕美
第2回	キーボードの打ち分け方法 Wordの画面構成 フォルダ管理 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	3級問題集模擬問題 解説7	菊地 裕美
第3回	3級問題集練習問題、解説1	菊地 裕美	第10回	3級問題集模擬試験、解説	菊地 裕美
第4回	3級問題集練習問題、解説2	菊地 裕美	第11回	サンプル問題 採点	菊地 裕美

第5回	3級問題集練習問題、解説3	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	3級問題集模擬問題 解説1・2	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美
第7回	3級問題集模擬問題 解説3・4	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	Word文書処理認定試験3級を取得できるようにするため、検定試験と類似の問題を準備し、多くの問題に携わることで授業内容の理解を深める。				
教科書 参考書等	サーティファイ 文書処理技能認定試験 Word3級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	<p>PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。</p> <p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合があります。文書処理技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p> <p>ガイダンスは1時間の講義となる。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft PowerPointの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、会議や講演などでプレゼンテーションを行うときに必要な資料作成ができるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	初級問題集 模擬問題、解説2	菊地 裕美
第2回	プレゼンテーション概論、 フォルダ管理、 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	初級問題集 模擬問題、解説3	菊地 裕美
第3回	PPT画面構成、 プレゼンテーションの構成	菊地 裕美	第10回	模擬試験問題、解説 採点の仕方レクチャー	菊地 裕美
第4回	初級問題集 練習問題、解説1	菊地 裕美	第11回	サンプル問題、解説	菊地 裕美
第5回	初級問題集 練習問題、解説2	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	初級問題集 練習問題、解説3	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美

第7回	初級問題集 模擬問題、解説1	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				
教科書 参考書等	クイックマスター（株式会社ウイネット） プレゼンテーション問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 ガイダンスは1時間の講義となる。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。プレゼンテーション技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合 同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
			ミニテスト : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	<p>毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。</p> <p>確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。</p>	
教科書 参考書等	<p>ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス)</p> <p>ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット)</p> <p>1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&amp;問題集 (成美堂出版)</p> <p>1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

情報システム学科(3年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンドライジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業に必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンドライジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

情報システム学科(3年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選定の別	選定
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャライジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャライジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャライジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（キャリアック） 販売士2級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャダイジング（問題演習） マーチャダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	システム開発基礎Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績評価方法	課題提出 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるフロントエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	フロントエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	JavaScript①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTML①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	JavaScript②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTML②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	JavaScript③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	HTML③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	jQuery①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	CSS①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	jQuery②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	CSS②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	jQuery③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	CSS③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webページ制作実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	CSSフレームワーク①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webページ制作実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	CSSフレームワーク②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webページ制作実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	CSSフレームワーク③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webページ制作実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

準備学習等	基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。
教科書 参考書等	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）
学年	1学年

科目名	システム開発応用Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績評価方法	課題提出
平常点	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるバックエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	バックエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	データベース①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTMLとCSSの復習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	データベース②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTMLとCSSの復習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	データベース③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	php①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	セキュリティ対策	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	php②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	Webシステム開発実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	php③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	Webシステム開発実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	php④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webシステム開発実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	php⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webシステム開発実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	php⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webシステム開発実習⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	php⑦	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webシステム開発実習⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

準備学習等	基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。
教科書 参考書等	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法税務会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	23回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也

第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	4単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回
			成績評価方法	筆記試験 : 40 % ミニテスト : 40 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也

第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び 納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也
第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等 の益金不算入・寄付金の損金 不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸 倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金 不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金 不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・ 確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄 付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金 ②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・ 別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・ 接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立 事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也

第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: % : %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第3回	減価償却のの事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	Excel表計算技能		授業形態	講義
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	菊地 裕美		授業回数	10回
			成績評価方法	実技試験 : 50 %
				知識試験 : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Excelによる操作方法			
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）			
授業目的 到達目標	PCを用いて簡単なワークシートの作成とデータの入力ができるようにする。 また、タイピングソフトを使い入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス キーボード入力方法 フォルダ管理	菊地 裕美	第6回	基本練習4 罫線の引き方	菊地 裕美
第2回	Excelの画面構成、コピー 移動方法の確認	菊地 裕美	第7回	基本練習5 関数1 基本関数	菊地 裕美
第3回	基本練習1 Shift、Ctrlの使い 方	菊地 裕美	第8回	基本練習6 関数2 ROUND系、RANK、IF、等	菊地 裕美
第4回	基本練習2 オートフィル機能の使い方	菊地 裕美	第9回	基本練習7 グラフ	菊地 裕美
第5回	基本練習3 行・列の挿入と削除 ウィンドウ枠の固定と解除	菊地 裕美	第10回	基本練習8 並べ替えとフィルター	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				

教科書 参考書等	オリジナルテキストとデータを使用
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 Excel表計算技能は、上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	表計算ソフト基礎 I		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数	20回
			成績 評価 方法	確認試験
ミニテスト	: 50 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター			
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの基本的な用語と基本操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験3級の取得を目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Excelの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Excel基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Excel基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Excel基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Excel基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Excel基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	Excel基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Excel基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	文書処理ソフト基礎		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		3単位	
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数		20回	
			成績評価方法	確認試験		: 50 %
ミニテスト		: 50 %				
		: %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ					
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター					
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理 技能認定試験2級の取得を目指す。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス、Wordの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第2回	Word基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第3回	Word基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第4回	Word基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第5回	Word基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第6回	Word基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	

第7回	Word基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Word基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Word文書処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	プレゼンテーションソフト	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : % ミニテスト : % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびPowerPointの基本的な用語と操作から応用的な操作までを習得し、サー ティファイ主催PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、 PowerPointの画面構成	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	PowerPoint基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	PowerPoint基本操作①	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	PowerPoint応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	PowerPoint基本操作②	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	PowerPoint応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	PowerPoint基本操作③	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	PowerPoint応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	PowerPoint基本操作④	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	PowerPoint応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	PowerPoint基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	PowerPoint応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	PowerPoint基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	PowerPoint応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	PowerPoint基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	PowerPoint基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	PowerPoint基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	PowerPoint2016クイックマスター（株式会社ウイネット）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				



学科	情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	データベースソフト	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 五十嵐久子	授業回数	20回	
		成績評価方法	実技試験	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐久子		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	データベースソフトウェアを用いたデータの定義やクエリの作成、帳票の作成を学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、小・中学校 情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクターを行っていた。			
授業目的 到達目標	データベースソフトを理解し、操作する能力を身に付ける。また、業務上必要となるデータベースを構築し管理・運用するスキルを学習する。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	データベースソフト概要	五十嵐久子	第11回	データベースソフト 基本操作演習⑥	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第2回	データベースソフト 基本操作①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第12回	データベースソフト 応用演習①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第3回	データベースソフト 基本操作②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第13回	データベースソフト 応用演習②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第4回	データベースソフト 基本操作③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第14回	データベースソフト 応用演習③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第5回	データベースソフト 基本操作④	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第15回	データベースソフト 応用演習④	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第6回	データベースソフト 基本操作演習①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第16回	データベースソフト 応用演習⑤	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第7回	データベースソフト 基本操作演習②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第17回	データベースソフト 応用演習⑥	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第8回	データベースソフト 基本操作演習③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第18回	データベースソフト 模擬問題演習①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第9回	データベースソフト 基本操作演習④	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第19回	データベースソフト 模擬問題演習②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第10回	データベースソフト 基本操作演習⑤	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第20回	データベースソフト 模擬問題演習③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子

準備学習等	コンピュータの基本操作およびデータベースに関する基礎を理解していること。
教科書 参考書等	Access2019クイックマスター Accessビジネスデータベース技能認定試験 問題集
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2 学年

科目名	情報処理基礎テクノロジー		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
平常点	: 30 %				
	: %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治				
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)				
授業目的 到達目標	高度IT 人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けさせるためにテクノロジー系「開発技術」の知識の習得を目的とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	システム開発技術 (システム要件定義・システム設計)	鈴木裕治	第6回	システム開発技術 (システムテスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第2回	システム開発技術 (ソフトウェア要件定義)	鈴木裕治	第7回	システム開発技術 (導入・受入れ支援・保守・廃棄)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第3回	システム開発技術 (ソフトウェア設計)	鈴木裕治	第8回	ソフトウェア開発管理技術 (開発プロセス・手法)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第4回	システム開発技術 (ソフトウェア構築)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第9回	ソフトウェア開発管理技術 (知的財産適用管理・開発環境管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第5回	システム開発技術 (ソフトウェアテスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第10回	ソフトウェア開発管理技術 (構成管理・変更管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
準備学習等					
教科書 参考書等	基本情報技術者 A科目対策テキスト・演習ドリル 基本情報技術者 B科目対策テキスト・演習ドリル				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。				

学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2 学年

科目名	情報処理基礎マネジメント	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	高度IT 人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けさせるためにマネジメント系「システム監査」の知識の習得を目的とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ITガバナンス	鈴木裕治	
第2回	システム監査①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第3回	システム監査②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第4回	内部統制①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第5回	内部統制②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
準備学習等			
教科書 参考書等	基本情報技術者 A科目対策テキスト・演習ドリル 基本情報技術者 B科目対策テキスト・演習ドリル		
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。		

学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2 学年

科目名	情報処理基礎ストラテジ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	高度IT 人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けさせるためにストラテジ系「企業と法務」の知識の習得を目的とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	企業と法務（経営・組織論）	鈴木裕治	
第2回	企業と法務（OR・IE）	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第3回	企業と法務（会計・財務・知的財産権）	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第4回	企業と法務 （セキュリティ関連法規・労働関連法規・取引関連法規）	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第5回	企業と法務 （その他の法律・ガイドライン・技術者倫理・標準化関連）	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
準備学習等			
教科書 参考書等	基本情報技術者 A科目対策テキスト・演習ドリル 基本情報技術者 B科目対策テキスト・演習ドリル		
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。		

学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2学年

科目名	情報処理応用テクノロジー	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにテクノロジー系「開発技術」の知識の習得を目的とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	システム開発技術 (システム要件定義・システム設計)	鈴木裕治	第6回	システム開発技術 (システムテスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第2回	システム開発技術 (ソフトウェア要件定義)	鈴木裕治	第7回	システム開発技術 (導入・受入れ支援・保守・廃棄)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第3回	システム開発技術 (ソフトウェア設計)	鈴木裕治	第8回	ソフトウェア開発管理技術 (開発プロセス・手法)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第4回	システム開発技術 (ソフトウェア構築)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第9回	ソフトウェア開発管理技術 (知的財産適用管理・開発環境管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第5回	システム開発技術 (ソフトウェアテスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第10回	ソフトウェア開発管理技術 (構成管理・変更管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子

準備学習等	
教科書 参考書等	基本情報技術者 A科目対策テキスト・演習ドリル 応用情報技術者 午後対策テキスト・演習ドリル
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2 学年

科目名	情報処理応用マネジメント	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにマネジメント系「システム監査」の知識の習得を目的とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ITガバナンス	鈴木裕治	
第2回	システム監査①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第3回	システム監査②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第4回	内部統制①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第5回	内部統制②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
準備学習等			
教科書 参考書等	基本情報技術者 A科目対策テキスト・演習ドリル 応用情報技術者 午後対策テキスト・演習ドリル		
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。		

学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2 学年

科目名	情報処理応用ストラテジ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにストラテジ系「企業と法務」の知識の習得を目的とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	企業と法務（経営・組織論）	鈴木裕治	
第2回	企業と法務（OR・IE）	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第3回	企業と法務（会計・財務・知的財産権）	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第4回	企業と法務 （セキュリティ関連法規・労働関連法規・取引関連法規）	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
第5回	企業と法務 （その他の法律・ガイドライン・技術者倫理・標準化関連）	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・伊藤和子	
準備学習等			
教科書 参考書等	基本情報技術者 A科目対策テキスト・演習ドリル 応用情報技術者 B科目対策テキスト・演習ドリル		
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。		



学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2 学年

科目名	高度セキュリティテクノロジー	授業形態	講義		
		選必の別	選必		
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間		
		単位数	2単位		
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子	授業回数	10回		
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %	
平常点	: 30 %				
	: %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治				
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)				
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにテクノロジー系「開発技術」の知識の習得を目的とする。				
<b>授業計画</b>					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	システム開発技術 (システム要件定義・システム方式設計)	鈴木裕治	第6回	システム開発技術 (システム結合・システム適格性確認テスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第2回	システム開発技術 (ソフトウェア要件定義)	鈴木裕治	第7回	システム開発技術 (導入・受入れ支援・保守・廃棄)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第3回	システム開発技術 (ソフトウェア方式設計・ソフトウェア詳細設計)	鈴木裕治	第8回	ソフトウェア開発管理技術 (開発プロセス・手法)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第4回	システム開発技術 (ソフトウェア構築)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第9回	ソフトウェア開発管理技術 (知的財産適用管理・開発環境管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第5回	システム開発技術 (ソフトウェア結合・ソフトウェア適格性確認テスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第10回	ソフトウェア開発管理技術 (構成管理・変更管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
準備学習等					
教科書 参考書等	情報処理安全確保支援士 対策テキスト&演習ドリル				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。				

学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2 学年

科目名	高度セキュリティマネジメント	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにマネジメント系「システム監査」の知識の習得を目的とする。		
授業計画			
回数	授業内容		科目教員
第1回	ITガバナンス		鈴木裕治
第2回	情報セキュリティ監査 情報セキュリティ監査①		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第3回	情報セキュリティ監査 情報セキュリティ監査②		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第4回	情報セキュリティ監査 情報セキュリティ監査基準①		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第5回	情報セキュリティ監査 情報セキュリティ監査基準②		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
準備学習等			
教科書 参考書等	情報処理安全確保支援士 対策テキスト&演習ドリル		
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。		

学科		情報システム学科 (3年課程)		
学年		2 学年		
科目名	高度セキュリティストラテジ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子		授業回数	5回
			成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)			
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにストラテジ系「企業と法務」の知識の習得を目的とする。			
授業計画				
回数	授業内容		科目教員	
第1回	企業と法務 経営・組織論		鈴木裕治	
第2回	企業と法務 OR・IE		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第3回	企業と法務 会計・財務・知的財産権		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第4回	企業と法務 セキュリティ関連法規・労働関連法規・取引関連法規		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第5回	企業と法務 その他の法律・ガイドライン・技術者倫理・標準化関連		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
準備学習等				
教科書 参考書等	情報処理安全確保支援士 対策テキスト&演習ドリル			
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。			

学科		情報システム学科 (3年課程)			
学年		2 学年			
科目名	高度データベーステクノロジー			授業形態	講義
				選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有			授業時間数	60時間
				単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子			授業回数	10回
				成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)				
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにテクノロジー系「開発技術」の知識の習得を目的とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	システム開発技術 (システム要件定義・システム方式設計)	鈴木裕治	第6回	システム開発技術 (システム結合・システム適格性確認テスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第2回	システム開発技術 (ソフトウェア要件定義)	鈴木裕治	第7回	システム開発技術 (導入・受入れ支援・保守・廃棄)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第3回	システム開発技術 (ソフトウェア方式設計・ソフトウェア詳細設計)	鈴木裕治	第8回	ソフトウェア開発管理技術 (開発プロセス・手法)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第4回	システム開発技術 (ソフトウェア構築)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第9回	ソフトウェア開発管理技術 (知的財産適用管理・開発環境管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第5回	システム開発技術 (ソフトウェア結合・ソフトウェア適格性確認テスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第10回	ソフトウェア開発管理技術 (構成管理・変更管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
準備学習等					
教科書 参考書等	データベーススペシャリスト 対策テキスト&演習ドリル				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。				

学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2 学年

科目名	高度データベースマネジメント	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにマネジメント系「システム監査」の知識の習得を目的とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ITガバナンス	鈴木裕治	
第2回	システム監査①	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第3回	システム監査②	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第4回	システム監査基準①	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第5回	システム監査基準②	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
準備学習等			
教科書 参考書等	データベーススペシャリスト 対策テキスト&演習ドリル		
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。		

学科		情報システム学科（3年課程）			
学年		2 学年			
科目名	高度データベースストラテジ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		有		授業時間数	30時間
				単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治		授業回数	5回	
	河野賢一		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
	大野直哉			平常点	: 30 %
	伊藤和子				: %
				: %	
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)				
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにストラテジ系「企業と法務」の知識の習得を目的とする。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	企業と法務 経営・組織論			鈴木裕治	
第2回	企業と法務 OR・IE			鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第3回	企業と法務 会計・財務・知的財産権			鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第4回	企業と法務 セキュリティ関連法規・労働関連法規・取引関連法規			鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第5回	企業と法務 その他の法律・ガイドライン・技術者倫理・標準化関連			鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
準備学習等					
教科書 参考書等	データベーススペシャリスト 対策テキスト&演習ドリル				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。				

		学科	情報システム学科 (3年課程)		
		学年	2 学年		
科目名	高度ネットワークテクノロジー		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	:
平常点	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治				
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)				
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにテクノロジー系「開発技術」の知識の習得を目的とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	システム開発技術 (システム要件定義・システム方式設計)	鈴木裕治	第6回	システム開発技術 (システム結合・システム適格性確認テスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第2回	システム開発技術 (ソフトウェア要件定義)	鈴木裕治	第7回	システム開発技術 (導入・受入れ支援・保守・廃棄)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第3回	システム開発技術 (ソフトウェア方式設計・ソフトウェア詳細設計)	鈴木裕治	第8回	ソフトウェア開発管理技術 (開発プロセス・手法)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第4回	システム開発技術 (ソフトウェア構築)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第9回	ソフトウェア開発管理技術 (知的財産適用管理・開発環境管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
第5回	システム開発技術 (ソフトウェア結合・ソフトウェア適格性確認テスト)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	第10回	ソフトウェア開発管理技術 (構成管理・変更管理)	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子
準備学習等					
教科書 参考書等	ネットワークスペシャリスト 対策テキスト&演習ドリル				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。				

学科	情報システム学科（3年課程）
学年	2 学年

科目名	高度ネットワークマネジメント	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験
平常点	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにマネジメント系「システム監査」の知識の習得を目的とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ITガバナンス	鈴木裕治	
第2回	システム監査①	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第3回	システム監査②	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第4回	システム監査基準①	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第5回	システム監査基準②	鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
準備学習等			
教科書 参考書等	ネットワークスペシャリスト 対策テキスト&演習ドリル		
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。		



学科		情報システム学科（3年課程）		
学年		2 学年		
科目名	高度ネットワークストラテジ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 伊藤和子		授業回数	5回
			成績 評価 方法	筆記試験
平常点	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)			
授業目的 到達目標	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立させるためにストラテジ系「企業と法務」の知識の習得を目的とする。			
授業計画				
回数	授業内容		科目教員	
第1回	企業と法務 経営・組織論		鈴木裕治	
第2回	企業と法務 OR・IE		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第3回	企業と法務 会計・財務・知的財産権		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第4回	企業と法務 セキュリティ関連法規・労働関連法規・取引関連法規		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
第5回	企業と法務 その他の法律・ガイドライン・技術者倫理・標準化関連		鈴木裕治・大野直哉 河野賢一・伊藤和子	
準備学習等				
教科書 参考書等	ネットワークスペシャリスト 対策テキスト&演習ドリル			
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。			

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	表計算ソフト基礎 I		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数	20回	
			成績評価方法	確認試験	: 50 %
				ミニテスト	: 50 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ				
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター				
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの基本的な用語と基本操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験3級の取得を目指す。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Excelの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Excel基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Excel基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Excel基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Excel基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Excel基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	Excel基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Excel基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	文書処理ソフト基礎		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		3単位	
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数		20回	
			成績 評価 方法	確認試験		:
ミニテスト		:		50	%	
		:			%	
		:			%	
		:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子					
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ					
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター					
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理 技能認定試験2級の取得を目指す。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス、Wordの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第2回	Word基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第3回	Word基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第4回	Word基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第5回	Word基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	
第6回	Word基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	

第7回	Word基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Word基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Word文書処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	O A 事務学科（2年課程）・経理事務学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年・3 学年

科目名	プレゼンテーションソフト	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績 評価 方法	確認試験
ミニテスト	: %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびPowerPointの基本的な用語と操作から応用的な操作までを習得し、サー ティファイ主催PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、 PowerPointの画面構成	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	PowerPoint基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	PowerPoint基本操作①	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	PowerPoint応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	PowerPoint基本操作②	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	PowerPoint応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	PowerPoint基本操作③	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	PowerPoint応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	PowerPoint基本操作④	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	PowerPoint応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	PowerPoint基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	PowerPoint応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	PowerPoint基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	PowerPoint応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	PowerPoint基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	PowerPoint基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	PowerPoint基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	PowerPoint2016クイックマスター（株式会社ウイネット）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	データベースソフト	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 五十嵐久子	授業回数	20回	
		成績評価方法	実技試験	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐久子		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	データベースソフトウェアを用いたデータの定義やクエリの作成、帳票の作成を学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、小・中学校 情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクターを行っていた。			
授業目的 到達目標	データベースソフトを理解し、操作する能力を身に付ける。また、業務上必要となるデータベースを構築し管理・運用するスキルを学習する。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	データベースソフト概要	五十嵐久子	第11回	データベースソフト 基本操作演習⑥	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第2回	データベースソフト 基本操作①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第12回	データベースソフト 応用演習①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第3回	データベースソフト 基本操作②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第13回	データベースソフト 応用演習②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第4回	データベースソフト 基本操作③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第14回	データベースソフト 応用演習③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第5回	データベースソフト 基本操作④	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第15回	データベースソフト 応用演習④	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第6回	データベースソフト 基本操作演習①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第16回	データベースソフト 応用演習⑤	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第7回	データベースソフト 基本操作演習②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第17回	データベースソフト 応用演習⑥	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第8回	データベースソフト 基本操作演習③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第18回	データベースソフト 模擬問題演習①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第9回	データベースソフト 基本操作演習④	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第19回	データベースソフト 模擬問題演習②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第10回	データベースソフト 基本操作演習⑤	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第20回	データベースソフト 模擬問題演習③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子



準備学習等	コンピュータの基本操作およびデータベースに関する基礎を理解していること。
教科書 参考書等	Access2019クイックマスター Accessビジネスデータベース技能認定試験 問題集
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	社会人総合実習Ⅳ	授業形態	実習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間	
		単位数	3単位	
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回	
		成績評価方法	課題提出	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	システム開発において、実務に沿った開発フローを行う。 要件定義においては必要機能要件だけでなく、非機能要件についても評価することでより実務に近い開発を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)			
授業目的 到達目標	システム設計及びシステム開発に関する知識、技能を有し、 統合開発環境を用いたプログラミングからデバックまでを実践することができる。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	システム開発演習① システムの設計と構築	鈴木裕治	第11回	システム要件定義①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	システム開発演習② システムの設計と構築	鈴木裕治	第12回	システム要件定義②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	システム開発演習③ システムの設計と構築	鈴木裕治	第13回	非機能要件①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	システム開発演習④ システムの設計と構築	鈴木裕治	第14回	非機能要件②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	システム開発演習⑤ システムの設計と構築	鈴木裕治	第15回	システム設計①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	システム設計演習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	システム設計②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	システム設計演習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	システム詳細設計①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	システム設計演習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	システム詳細設計②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	システム設計演習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	ソフトウェア設計①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	システム設計演習⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	ソフトウェア設計②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

<p>準備学習等</p>	<p>コンピュータの基本操作およびプログラミングの基礎を理解していること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的 簿記一巡の手続き 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金（消費税、法人税等の 決算整理） 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、 買掛金、返品、分記法の記帳 方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表 の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品・仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳・当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

<p>第8回</p>	<p>直前対策講義実施、解説                  仕訳：債権・債務                  個別問題：商品有高帳                  模擬試験問題演習・解説②</p>	<p>熊谷 茜美                  工藤 英一</p>			
<p>準備学習等</p>	<p>毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。</p>				
<p>教科書 参考書等</p>	<p>ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園)                  日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版)                  ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園)                  ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園)                  日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)</p>				
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。</p>				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス問題演習・解説 直前模擬試験 第1回	熊谷 茜美 工藤 英一	
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回	熊谷 茜美 工藤 英一	
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回	熊谷 茜美 工藤 英一	

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	<p>本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。</p>	
教科書 参考書等	<p>ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園)  ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園)  ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園)  ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版)  日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版)  ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園)  ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園)  日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)</p> <p>2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回～第3回 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。  株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	6単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	30回
			成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	経理知識や技能の証明となり就職活動にも有利になる資格「経理実務士」の取得を目指し、認定要件である資格のうち、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）の合格を目指す。計算実務では経理職に欠かせない知識である帳票計算と商業計算について学習する。全経簿記では中小企業の実務における各取引の会計処理について学習する。 本講義終了後の科目「経理実務演習」に積極的に取り組めるようにすること。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】＜帳票計算＞ 試算表、商品有高帳 (先入先出法、移動平均法)	熊谷 茜美 工藤 英一	第16回	【全経簿記】 5伝票制、特殊仕訳帳制	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算 手形割引計算（割引料を求める場合、手取金を求める場合、手形金額を求める場合）	熊谷 茜美 工藤 英一	第17回	【全経簿記】 材料費会計 労務費会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （試算表、商品有高帳、貨幣計算、手形割引計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第18回	【全経簿記】 為替手形、荷為替手形、 商品券（自社） 有価証券売買	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	【計算実務】＜商業計算＞ 通法の計算 ～グロス・ダース・個～ （代価を求める場合、数量を求める場合）	熊谷 茜美 工藤 英一	第19回	【全経簿記】 経費会計 製造間接費会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	【計算実務】＜商業計算＞ 仲立人の手数料計算 （手数料を求める場合、買主の支払総額・売主の手取金を求める場合）	熊谷 茜美 工藤 英一	第20回	【全経簿記】 特殊商品売買 履行義務の充足	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （通法の計算、仲立人の手数料計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第21回	【全経簿記】 部門別計算 個別原価計算 単純総合原価計算	熊谷 茜美 工藤 英一

第7回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算、手形割引計算（割引率を求める場合、割引日数を求める場合、割引日を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第22回	【全経簿記】 圧縮記帳 投資不動産	熊谷 工藤	茜美 英一
第8回	【計算実務】＜商業計算＞ 商品売買の計算（定価を求める場合、利益率を求める場合、原価を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第23回	【全経簿記】 工程別総合原価計算 組別総合原価計算 等級別総合原価計算	熊谷 工藤	茜美 英一
第9回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （貨幣計算、手形割引計算、商品売買の計算）	熊谷 工藤	茜美 英一	第24回	【全経簿記】 資産除去債務 固定資産の減損	熊谷 工藤	茜美 英一
第10回	【計算実務】＜商業計算＞ 委託販売・委託買付の手数料 計算（売上高を求める場合、 送金額を求める場合、請求額 を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第25回	【全経簿記】 標準原価計算 CVP分析	熊谷 工藤	茜美 英一
第11回	【計算実務】＜商業計算＞ 金銭の貸し付け（貸付利率を 求める場合、元利合計を求め る場合、貸付期間を求める場 合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第26回	【全経簿記】 負ののれん発生益 社債	熊谷 工藤	茜美 英一

第12回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (委託販売・委託買付の手数 料計算、金銭の貸し付け)	熊谷 茜美 工藤 英一	第27回	【全経簿記】 直接原価計算 全部原価計算 固定費調整	熊谷 茜美 工藤 英一
第13回	【計算実務】＜商業計算＞ 純量代価(総量、風袋、減量 の用語の確認、定価の求め 方)	熊谷 茜美 工藤 英一	第28回	【全経簿記】 理論問題対策	熊谷 茜美 工藤 英一
第14回	【計算実務】＜商業計算＞ 有利・不利の判定(値引きと 増量) 通法の計算(文章問題)	熊谷 茜美 工藤 英一	第29回	【全経簿記】 工場会計の独立	熊谷 茜美 工藤 英一
第15回	【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (純量代価の計算、有利・不 利の判定、通法の計算) 伝票計算(検定試験問題の解 き方)	熊谷 茜美 工藤 英一	第30回	【全経簿記】 財務諸表分析	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	計算実務・全経簿記ともに短期間での学習になるため、日々の授業の復習が大切。理解が不十分な場合には科目教員に質問し、理解したうえで次の授業に臨むこと。なお、予習は不要。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>                  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>                  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>経理実務は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務演習	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %	

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。
-------------------	---

授業目的 到達目標	「経理実務」で学習した基礎的な知識を基に、問題演習を通して本試験に対応できる能力を養うことを目的とする。また、項目別に問題演習を行うことで重要度の高い範囲をもう一度確認し、より知識を深める。なお、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第119回、118回	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	【全経簿記】 第208回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第117回、116回	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	【全経簿記】 第207回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一



第3回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第115回、114回	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	【全経簿記】 第206回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第113回、112回 項目別対策（手形割引計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	【全経簿記】 第205回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第111回、110回 項目別対策（商品売買の計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	【全経簿記】 第204回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第109回、108回 項目別対策（委託販売・委託 買付の手数料計算、金銭の貸 し付け）	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	【全経簿記】 第203回過去問題 実施・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第107回、106回 項目別対策（仲立人の手数料 計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	【全経簿記】 第202回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	【全経簿記】 第209回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の問題のやり直しを丁寧に行うことが何よりも大切。間違った問題は全て確認し、 わからないことがある場合には科目教員に確認するようにすること。また、問題演習を 通して苦手項目が明らかになった場合には、その項目を重点的に復習すること。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>                  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>                  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。                  経理実務演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Wordの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生を含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、簡単なビジネス文書を作成できるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	3級問題集模擬問題 解説5・6	菊地 裕美
第2回	キーボードの打ち分け方法 Wordの画面構成 フォルダ管理 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	3級問題集模擬問題 解説7	菊地 裕美
第3回	3級問題集練習問題、解説1	菊地 裕美	第10回	3級問題集模擬試験、解説	菊地 裕美
第4回	3級問題集練習問題、解説2	菊地 裕美	第11回	サンプル問題 採点	菊地 裕美

第5回	3級問題集練習問題、解説3	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	3級問題集模擬問題 解説1・2	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美
第7回	3級問題集模擬問題 解説3・4	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	Word文書処理認定試験3級を取得できるようにするため、検定試験と類似の問題を準備し、多くの問題に携わることで授業内容の理解を深める。				
教科書 参考書等	サーティファイ 文書処理技能認定試験 Word3級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	<p>PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。</p> <p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合があります。文書処理技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p> <p>ガイダンスは1時間の講義となる。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft PowerPointの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、会議や講演などでプレゼンテーションを行うときに必要な資料作成ができるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	初級問題集 模擬問題、解説2	菊地 裕美
第2回	プレゼンテーション概論、 フォルダ管理、 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	初級問題集 模擬問題、解説3	菊地 裕美
第3回	PPT画面構成、 プレゼンテーションの構成	菊地 裕美	第10回	模擬試験問題、解説 採点の仕方レクチャー	菊地 裕美
第4回	初級問題集 練習問題、解説1	菊地 裕美	第11回	サンプル問題、解説	菊地 裕美
第5回	初級問題集 練習問題、解説2	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	初級問題集 練習問題、解説3	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美

第7回	初級問題集 模擬問題、解説1	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				
教科書 参考書等	クイックマスター（株式会社ウイネット） プレゼンテーション問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 ガイダンスは1時間の講義となる。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。プレゼンテーション技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合 同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 % ミニテスト : 30 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	<p>毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。</p> <p>確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。</p>	
教科書 参考書等	<p>ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス)</p> <p>ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット)</p> <p>1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&amp;問題集 (成美堂出版)</p> <p>1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。</p>	



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学 習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基 本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャндаイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
			: %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業に必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

情報システム学科(2年課程)

第6回	マーチャダイジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選定の別	選定
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャライジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャライジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャライジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（カリアック） 販売士2級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : : :
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	方法	: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャндаイジング（問題演習） マーチャндаイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャндаイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	システム開発基礎Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績 評価 方法	課題提出 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるフロントエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	フロントエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	JavaScript①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTML①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	JavaScript②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTML②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	JavaScript③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	HTML③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	jQuery①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	CSS①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	jQuery②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	CSS②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	jQuery③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	CSS③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webページ制作実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	CSSフレームワーク①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webページ制作実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	CSSフレームワーク②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webページ制作実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	CSSフレームワーク③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webページ制作実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

準備学習等	基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。
教科書 参考書等	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）
学年	1学年

科目名	システム開発応用Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績評価方法	課題提出 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるバックエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	バックエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	データベース①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTMLとCSSの復習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	データベース②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTMLとCSSの復習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	データベース③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	php①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	セキュリティ対策	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	php②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	Webシステム開発実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	php③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	Webシステム開発実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	php④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webシステム開発実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	php⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webシステム開発実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	php⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webシステム開発実習⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	php⑦	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webシステム開発実習⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

準備学習等	基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。
教科書 参考書等	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。



学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法税務会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	23回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして 解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の 会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っ ていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の 消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答で きるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也

第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	4単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 40 %
				ミニテスト : 40 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。			
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也

第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び 納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也
第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等 の益金不算入・寄付金の損金 不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸 倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金 不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金 不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・ 確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄 付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金 ②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・ 別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・ 接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立 事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、 理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原 出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。ま た、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合があ る。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学 年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也

第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第3回	減価償却のの事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	Excel表計算技能		授業形態	講義
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	菊地 裕美		授業回数	10回
			成績 評価 方法	実技試験 : 50 %
				知識試験 : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Excelによる操作方法			
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）			
授業目的 到達目標	PCを用いて簡単なワークシートの作成とデータの入力ができるようにする。 また、タイピングソフトを使い入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス キーボード入力方法 フォルダ管理	菊地 裕美	第6回	基本練習4 罫線の引き方	菊地 裕美
第2回	Excelの画面構成、コピー 移動方法の確認	菊地 裕美	第7回	基本練習5 関数1 基本関数	菊地 裕美
第3回	基本練習1 Shift、Ctrlの使い 方	菊地 裕美	第8回	基本練習6 関数2 ROUND系、RANK、IF、等	菊地 裕美
第4回	基本練習2 オートフィル機能の使い方	菊地 裕美	第9回	基本練習7 グラフ	菊地 裕美
第5回	基本練習3 行・列の挿入と削除 ウィンドウ枠の固定と解除	菊地 裕美	第10回	基本練習8 並べ替えとフィルター	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				

教科書 参考書等	オリジナルテキストとデータを使用
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 Excel表計算技能は、上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	表計算ソフト基礎 I		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数	20回
			成績 評価 方法	確認試験
ミニテスト	: 50 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター			
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの基本的な用語と基本操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験3級の取得を目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Excelの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Excel基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Excel基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Excel基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Excel基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Excel基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	Excel基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Excel基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	文書処理ソフト基礎		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	3単位	
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数	20回	
			成績評価方法	確認試験	: 50 %
ミニテスト	: 50 %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子			%	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ				
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター				
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理 技能認定試験2級の取得を目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Wordの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	Word基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Word基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Word文書処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				



学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	プレゼンテーションソフト	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : % ミニテスト : % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびPowerPointの基本的な用語と操作から応用的な操作までを習得し、サー ティファイ主催PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、 PowerPointの画面構成	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	PowerPoint基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	PowerPoint基本操作①	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	PowerPoint応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	PowerPoint基本操作②	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	PowerPoint応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	PowerPoint基本操作③	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	PowerPoint応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	PowerPoint基本操作④	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	PowerPoint応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	PowerPoint基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	PowerPoint応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	PowerPoint基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	PowerPoint応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	PowerPoint基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	PowerPoint基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	PowerPoint基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	PowerPoint2016クイックマスター（株式会社ウイネット）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	データベースソフト	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉 五十嵐久子	授業回数	20回	
		成績評価方法	実技試験	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐久子		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	データベースソフトウェアを用いたデータの定義やクエリの作成、帳票の作成を学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、小・中学校 情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクターを行っていた。			
授業目的 到達目標	データベースソフトを理解し、操作する能力を身に付ける。また、業務上必要となるデータベースを構築し管理・運用するスキルを学習する。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	データベースソフト概要	五十嵐久子	第11回	データベースソフト 基本操作演習⑥	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第2回	データベースソフト 基本操作①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第12回	データベースソフト 応用演習①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第3回	データベースソフト 基本操作②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第13回	データベースソフト 応用演習②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第4回	データベースソフト 基本操作③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第14回	データベースソフト 応用演習③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第5回	データベースソフト 基本操作④	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第15回	データベースソフト 応用演習④	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第6回	データベースソフト 基本操作演習①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第16回	データベースソフト 応用演習⑤	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第7回	データベースソフト 基本操作演習②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第17回	データベースソフト 応用演習⑥	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第8回	データベースソフト 基本操作演習③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第18回	データベースソフト 模擬問題演習①	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第9回	データベースソフト 基本操作演習④	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第19回	データベースソフト 模擬問題演習②	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子
第10回	データベースソフト 基本操作演習⑤	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子	第20回	データベースソフト 模擬問題演習③	鈴木裕治・河野賢一 大野直哉・五十嵐久子

準備学習等	コンピュータの基本操作およびデータベースに関する基礎を理解していること。
教科書 参考書等	Access2019クイックマスター Accessビジネスデータベース技能認定試験 問題集
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・情報システム学科（3年課）・ 情報システム学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（3年課程）
学年	2 学年・3 学年

科目名	社会人総合演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子・千葉 佳名江・伊藤 浩彰・ 大野 直哉・中島 京哉 高橋 敬・ 鈴木 裕治・河野 賢一・五十嵐 久子・ 瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春		授業回数	40回	
			成績 評価 方法	確認テスト	: 60 %
				実技試験	: 30 %
				レポート	: 10 %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春			: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。				
実務経験教員の 実務経験内容	<p>[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接客検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接客検定1級を取得している。</p>				

授業目的 到達目標	<p>[Word・Excel]</p> <p>状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。</p> <p>「時事研究」</p> <p>最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。</p> <p>[販売管理・仕入管理務]</p> <p>売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。</p> <p>[ビジネスマナー]</p> <p>ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。</p>
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一



第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話応対ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	PCPパソコン実習 PCPビジネスマナー PCP販売仕入管理 PCP時事(大原学園)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がある。				

学科	情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	社会人総合実習Ⅳ	授業形態	実習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間	
		単位数	3単位	
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回	
		成績評価方法	課題提出	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	システム開発において、実務に沿った開発フローを行う。 要件定義においては必要機能要件だけでなく、非機能要件についても評価することでより実務に近い開発を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)			
授業目的 到達目標	システム設計及びシステム開発に関する知識、技能を有し、 統合開発環境を用いたプログラミングからデバックまでを実践することができる。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	システム開発演習① システムの設計と構築	鈴木裕治	第11回	システム要件定義①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	システム開発演習② システムの設計と構築	鈴木裕治	第12回	システム要件定義②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	システム開発演習③ システムの設計と構築	鈴木裕治	第13回	非機能要件①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	システム開発演習④ システムの設計と構築	鈴木裕治	第14回	非機能要件②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	システム開発演習⑤ システムの設計と構築	鈴木裕治	第15回	システム設計①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	システム設計演習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	システム設計②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	システム設計演習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	システム詳細設計①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	システム設計演習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	システム詳細設計②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	システム設計演習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	ソフトウェア設計①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	システム設計演習⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	ソフトウェア設計②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

準備学習等	コンピュータの基本操作およびプログラミングの基礎を理解していること。
教科書 参考書等	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
				ミニテスト : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的、 簿記一巡の手続き、 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金、消費税、法人税等の決算整理 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、 買掛金、返品、分記法の記帳 方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表 の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品および仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳および当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

<p>第8回</p>	<p>直前対策講義実施、解説                  仕訳：債権・債務                  個別問題：商品有高帳                  模擬試験問題演習・解説②</p>	<p>熊谷 茜美                  工藤 英一</p>			
<p>準備学習等</p>	<p>毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。</p>				
<p>教科書 参考書等</p>	<p>ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園)                  日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版)                  ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園)                  ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園)                  日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)</p>				
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。</p>				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間	
			単位数	2単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	5回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	ガイダンス 問題演習・解説 直前模擬試験 第1回			熊谷 茜美 工藤 英一	
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回			熊谷 茜美 工藤 英一	
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回			熊谷 茜美 工藤 英一	

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	<p>本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。</p>	
教科書 参考書等	<p>ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園)  ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園)  ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園)  ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版)  日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版)  ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園)  ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園)  日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)  2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回~第3回 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。  株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	経理実務	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	6単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	30回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	経理知識や技能の証明となり就職活動にも有利になる資格「経理実務士」の取得を目指し、認定要件である資格のうち、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験（以下、「計算実務」という。）と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験（以下、「全経簿記」という。）の合格を目指す。計算実務では経理職に欠かせない知識である帳票計算と商業計算について学習する。全経簿記では中小企業の実務における各取引の会計処理について学習する。 本講義終了後の科目「経理実務演習」に積極的に取り組めるようにすること。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】＜帳票計算＞ 試算表、商品有高帳 (先入先出法、移動平均法)	熊谷 茜美 工藤 英一	第16回	【全経簿記】 5伝票制、特殊仕訳帳制	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算 手形割引計算（割引料を求める場合、手取金を求める場合、手形金額を求める場合）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第17回	<p>【全経簿記】 材料費会計 労務費会計</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	<p>【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （試算表、商品有高帳、貨幣計算、手形割引計算）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第18回	<p>【全経簿記】 為替手形、荷為替手形、 商品券（自社） 有価証券売買</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 通法の計算 ～グロス・ダース・個～ （代価を求める場合、数量を求める場合）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第19回	<p>【全経簿記】 経費会計 製造間接費会計</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 仲立人の手数料計算 （手数料を求める場合、買主の支払総額・売主の手取金を求める場合）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第20回	<p>【全経簿記】 特殊商品売買 履行義務の充足</p>	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （通法の計算、仲立人の手数料計算）</p>	熊谷 茜美 工藤 英一	第21回	<p>【全経簿記】 部門別計算 個別原価計算 単純総合原価計算</p>	熊谷 茜美 工藤 英一

第7回	【計算実務】＜商業計算＞ 貨幣計算、手形割引計算（割引率を求める場合、割引日数を求める場合、割引日を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第22回	【全経簿記】 圧縮記帳 投資不動産	熊谷 工藤	茜美 英一
第8回	【計算実務】＜商業計算＞ 商品売買の計算（定価を求める場合、利益率を求める場合、原価を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第23回	【全経簿記】 工程別総合原価計算 組別総合原価計算 等級別総合原価計算	熊谷 工藤	茜美 英一
第9回	【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 （貨幣計算、手形割引計算、商品売買の計算）	熊谷 工藤	茜美 英一	第24回	【全経簿記】 資産除去債務 固定資産の減損	熊谷 工藤	茜美 英一
第10回	【計算実務】＜商業計算＞ 委託販売・委託買付の手数料 計算（売上高を求める場合、 送金額を求める場合、請求額 を求める場合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第25回	【全経簿記】 標準原価計算 CVP分析	熊谷 工藤	茜美 英一
第11回	【計算実務】＜商業計算＞ 金銭の貸し付け（貸付利率を 求める場合、元利合計を求め る場合、貸付期間を求める場 合）	熊谷 工藤	茜美 英一	第26回	【全経簿記】 負ののれん発生益 社債	熊谷 工藤	茜美 英一

<p>第12回</p>	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (委託販売・委託買付の手数 料計算、金銭の貸し付け)</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>	<p>第27回</p>	<p>【全経簿記】 直接原価計算 全部原価計算 固定費調整</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>
<p>第13回</p>	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 純量代価(総量、風袋、減量 の用語の確認、定価の求め 方)</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>	<p>第28回</p>	<p>【全経簿記】 理論問題対策</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>
<p>第14回</p>	<p>【計算実務】＜商業計算＞ 有利・不利の判定(値引きと 増量) 通法の計算(文章問題)</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>	<p>第29回</p>	<p>【全経簿記】 工場会計の独立</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>
<p>第15回</p>	<p>【計算実務】 ＜帳票計算・商業計算＞ 項目別確認問題実施、解説 (純量代価の計算、有利・不 利の判定、通法の計算) 伝票計算(検定試験問題の解 き方)</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>	<p>第30回</p>	<p>【全経簿記】 財務諸表分析</p>	<p>熊谷 茜美 工藤 英一</p>
<p>準備学習等</p>	<p>計算実務・全経簿記ともに短期間での学習になるため、日々の授業の復習が大切。理解が不十分な場合には科目教員に質問し、理解したうえで次の授業に臨むこと。なお、予習は不要。</p>				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>                  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>                  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>経理実務は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)
学年	1学年

科目名	経理実務演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
			: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。
-------------------	---

授業目的 到達目標	「経理実務」で学習した基礎的な知識を基に、問題演習を通して本試験に対応できる能力を養うことを目的とする。また、項目別に問題演習を行うことで重要度の高い範囲をもう一度確認し、より知識を深める。なお、全国経理教育協会主催計算実務能力検定試験(以下、「計算実務」という。)と全国経理教育協会主催簿記能力検定試験(以下、「全経簿記」という。)に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第119回、118回	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	【全経簿記】 第208回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第117回、116回	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	【全経簿記】 第207回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一



第3回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第115回、114回	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	【全経簿記】 第206回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第113回、112回 項目別対策（手形割引計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	【全経簿記】 第205回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第111回、110回 項目別対策（商品売買の計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	【全経簿記】 第204回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第109回、108回 項目別対策（委託販売・委託 買付の手数料計算、金銭の貸 し付け）	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	【全経簿記】 第203回過去問題 実施・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	【計算実務】問題演習、解説 過去問題 第107回、106回 項目別対策（仲立人の手数料 計算）	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	【全経簿記】 第202回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	【全経簿記】 第209回過去問題 演習・解説	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の問題のやり直しを丁寧に行うことが何よりも大切。間違った問題は全て確認し、 わからないことがある場合には科目教員に確認するようにすること。また、問題演習を 通して苦手項目が明らかになった場合には、その項目を重点的に復習すること。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p><b>【計算実務】</b>                  計算実務1・2級 公式テキスト (共栄出版株式会社)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集1級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度版 計算実務能力検定試験 過去問題集2級                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p><b>【全経簿記】</b>                  全経簿記能力検定試験公式テキスト1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  全経簿記能力検定試験公式問題集1級 商業簿記・会計学 (ネットスクール出版)                  ALFA 2級工業簿記 テキスト (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 問題集 (大原出版)                  ALFA 2級工業簿記 解答集 (大原出版)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学                  (公益社団法人 全国経理教育協会)                  令和6年度 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算                  (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。                  経理実務演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	文書処理技能		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	40時間
			単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美		授業回数	14回
			成績評価方法	実技試験
知識試験	: 30 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Wordの操作方法			
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生を含む）			
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、簡単なビジネス文書を作成できるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	3級問題集模擬問題 解説5・6	菊地 裕美
第2回	キーボードの打ち分け方法 Wordの画面構成 フォルダ管理 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	3級問題集模擬問題 解説7	菊地 裕美
第3回	3級問題集練習問題、解説1	菊地 裕美	第10回	3級問題集模擬試験、解説	菊地 裕美
第4回	3級問題集練習問題、解説2	菊地 裕美	第11回	サンプル問題 採点	菊地 裕美

第5回	3級問題集練習問題、解説3	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	3級問題集模擬問題 解説1・2	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美
第7回	3級問題集模擬問題 解説3・4	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	Word文書処理認定試験3級を取得できるようにするため、検定試験と類似の問題を準備し、多くの問題に携わることで授業内容の理解を深める。				
教科書 参考書等	サーティファイ 文書処理技能認定試験 Word3級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	<p>PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。</p> <p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合があります。文書処理技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p> <p>ガイダンスは1時間の講義となる。</p>				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション技能	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	40時間
		単位数	2単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	14回
		成績評価方法	実技試験 : 50 %
知識試験 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft PowerPointの操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて基礎的な技能を習得し、会議や講演などでプレゼンテーションを行うときに必要な資料作成ができるようにする。また、タイピングソフトを使い、入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	菊地 裕美	第8回	初級問題集 模擬問題、解説2	菊地 裕美
第2回	プレゼンテーション概論、 フォルダ管理、 タイピング練習	菊地 裕美	第9回	初級問題集 模擬問題、解説3	菊地 裕美
第3回	PPT画面構成、 プレゼンテーションの構成	菊地 裕美	第10回	模擬試験問題、解説 採点の仕方レクチャー	菊地 裕美
第4回	初級問題集 練習問題、解説1	菊地 裕美	第11回	サンプル問題、解説	菊地 裕美
第5回	初級問題集 練習問題、解説2	菊地 裕美	第12回	直前模擬問題、解説①	菊地 裕美
第6回	初級問題集 練習問題、解説3	菊地 裕美	第13回	直前模擬問題、解説②	菊地 裕美

第7回	初級問題集 模擬問題、解説1	菊地 裕美	第14回	直前模擬問題、解説③	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				
教科書 参考書等	クイックマスター（株式会社ウイネット） プレゼンテーション問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 ガイダンスは1時間の講義となる。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。プレゼンテーション技能は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合 同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
			ミニテスト : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	<p>毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。</p> <p>確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。</p>	
教科書 参考書等	<p>ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス)</p> <p>ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット)</p> <p>1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&amp;問題集 (成美堂出版)</p> <p>1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。</p>	



学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(1年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(1年課程)
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

ビジネス学科(2年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業で必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

ビジネス学科(2年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(1年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(1年課程)
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : : : :
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

ビジネス学科(2年課程)

第6回	マーチャダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック(カリアック) 販売士2級演習問題集(カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

ビジネス学科(2年課程)

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	方法	: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提 とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とす る。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格でき る能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考 え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の種類（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング（問題演習） マーチャンダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（1年課程）・ OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	システム開発基礎Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績評価方法	課題提出 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %
		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるフロントエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	フロントエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	JavaScript①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTML①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	JavaScript②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTML②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	JavaScript③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	HTML③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	jQuery①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	CSS①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	jQuery②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	CSS②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	jQuery③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	CSS③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webページ制作実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	CSSフレームワーク①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webページ制作実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	CSSフレームワーク②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webページ制作実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	CSSフレームワーク③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webページ制作実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

ビジネス学科(2年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（1年課程）・ OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）
学年	1学年

科目名	システム開発応用Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	授業回数	20回
		成績評価方法	課題提出 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木裕治		: %
		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	要求項目の洗い出し、分析、システム化ニーズの整理、前提条件や制約条件の整理、解決策の検討、実現可能性の分析、新しい業務モデルと業務フローの提案という基本的な手順の説明を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	主な開発実績：金融系システムの開発、クライアントサーバシステムの開発 主な使用言語：COBOL、4GL、Java(画面レイアウトの開発)		
授業目的 到達目標	Webシステム開発におけるバックエンド開発を行うことができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	バックエンド開発について 開発環境構築	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第11回	データベース①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第2回	HTMLとCSSの復習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第12回	データベース②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第3回	HTMLとCSSの復習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第13回	データベース③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第4回	php①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第14回	セキュリティ対策	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第5回	php②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第15回	Webシステム開発実習①	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第6回	php③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第16回	Webシステム開発実習②	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第7回	php④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第17回	Webシステム開発実習③	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第8回	php⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第18回	Webシステム開発実習④	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第9回	php⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第19回	Webシステム開発実習⑤	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉
第10回	php⑦	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉	第20回	Webシステム開発実習⑥	鈴木裕治 河野賢一 大野直哉

ビジネス学科(2年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>基本的なプログラミングを行えること。 開発フローおよび開発管理技法を理解していること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。</p>



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	23回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして 解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の 会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っ ていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の 消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答で きるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(2年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也

第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び 納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也
第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等 の益金不算入・寄付金の損金 不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸 倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金 不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金 不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・ 確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄 付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金 ②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・ 別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・ 接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立 事業年度	小関 哲也
準備学習等	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）</p>				
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。</p> <p>法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。</p>				

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(2年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の 会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っ ていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表 を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を 解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業 者を前提とした消費税額の計 算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也

第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %	
				演習問題 : 50 %	
				授業態度 : 20 %	
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也			: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第3回	減価償却のの事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	Excel表計算技能	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	菊地 裕美	授業回数	10回
		成績評価方法	実技試験
知識試験	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Excelによる操作方法		
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）		
授業目的 到達目標	PCを用いて簡単なワークシートの作成とデータの入力ができるようにする。 また、タイピングソフトを使い入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス キーボード入力方法 フォルダ管理	菊地 裕美	第6回	基本練習4 罫線の引き方	菊地 裕美
第2回	Excelの画面構成、コピー 移動方法の確認	菊地 裕美	第7回	基本練習5 関数1 基本関数	菊地 裕美
第3回	基本練習1 Shift、Ctrlの使い 方	菊地 裕美	第8回	基本練習6 関数2 ROUND系、RANK、IF、等	菊地 裕美
第4回	基本練習2 オートフィル機能の使い方	菊地 裕美	第9回	基本練習7 グラフ	菊地 裕美
第5回	基本練習3 行・列の挿入と削除 ウィンドウ枠の固定と解除	菊地 裕美	第10回	基本練習8 並べ替えとフィルター	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				

教科書 参考書等	オリジナルテキストとデータを使用
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 Excel表計算技能は、上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	40回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 %
授業態度 : 20 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客のみ ならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。学習内容の理解を到達目標とし、 日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬

第7回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第8回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略的展開	山下 健二	第29回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャンダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第30回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャンダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第31回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャンダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第32回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャンダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第33回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャンダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャンダイジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャンダイジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーションの展開視点	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬

準備学習等

学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。  
学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。

教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part1（TAC出版） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part2（TAC出版）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性がります。

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	4単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 %
			授業態度 : 20 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2級合格レベルに引き上げることを目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型(問題演習) 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演習) 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演習) LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演習) 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬



第6回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャンダイジング（問題演習） マーチャンダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第22回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第8回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第23回	マーケティング（問題演習） 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャンダイジング（問題演習） 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第24回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第25回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャンダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第26回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャンダイジング（問題演習） 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第27回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第13回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	山下 健二	第28回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション（問題演習） 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第29回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬	第30回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	全範囲の理解度を再確認します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part1（TAC出版） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part2（TAC出版）				

備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性が あります。
----	---

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	40回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 %
授業態度 : 20 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学 習することを目的とする。学習内容の理解を到達目標とし、日本商工会議所主催リテ ールマーケティング(販売士)検定3級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
32E3918	小売業の類型 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング 小売業のマーケティングの基 本	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬
第7回	小売業の類型 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬

第8回	小売業の類型 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャダイジング 商品の基本	中島 京哉 高橋 敬	第29回	マーケティング リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第30回	マーケティング リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第31回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第32回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第33回	マーケティング 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャダイジング 在庫管理の基本	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャダイジング 販売管理の基本	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャダイジング 総合問題演習	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 店舗管理の基本	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 包装技術の基本	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック(基礎編) リテールマーケティング(販売士) 検定試験3級対応 (キャリアック) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part 1 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part 2 (TAC出版)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	4単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 %
授業態度 : 20 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り 組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定3 級合格レベルに引き上げることを目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの基本	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング(問題演習) 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャндаイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第22回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬

第8回	マーチャライジング(問題演習) マーチャライジングの基本	山下 健二	第23回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャライジング(問題演習) 商品計画の基本	山下 健二	第24回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャライジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第25回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャライジング(問題演習)	山下 健二	第26回	過去試験問題演習・解説(第87回)	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャライジング(問題演習)	山下 健二	第27回	過去試験問題演習・解説(第85回)	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャライジング(問題演習)	山下 健二	第28回	過去試験問題演習・解説(第84回)	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第29回	過去試験問題演習・解説(第83回)	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第30回	過去試験問題演習・解説(第82回)	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック(基礎編) リテールマーケティング(販売士) 検定試験3級対応 (キャリアック) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part1 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part2 (TAC出版)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 経理事務学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	秘書準1級I		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 50 %
				課題提出 : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江			: %
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をとおし分かりやすく説明・指導する。			
実務経験教員の実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。			
授業目的 到達目標	秘書の仕事の仕方を通してより高度な職場常識の理解を深め、オフィス内外で業務を行う際に必要な技能の習得と向上を図る。「応用の職場常識」といわれる秘書準1級の内容にふさわしい感じのよい立ち居振る舞いや話し方などを実践できるとともに、状況に応じた「より適切な」判断と柔軟な対応ができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	検定試験の受け方・基礎知識 必要とされる資質 上級秘書の資質と能力	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	必要とされる資質 対人関係の心得	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識 秘書の機能と役割	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識 秘書の機能と役割 秘書の業務	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー-接遇 人間関係と話し方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	秘書技能 情報管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	秘書技能 日程管理・オフィス管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験の予備知識 試験の概要と実際の流れ	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能 会議	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。				
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				



学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 経理事務学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	秘書準1級演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	5単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
課題・レポート : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をとおし分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験をもつ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験をもつ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	演習を中心とした授業を通して実践力を高め、オフィス内外の業務に必要な高度な技能の習得と向上を図り検定試験の合格に繋げる。また、上級秘書としてのあり方を理解した立ち居振る舞いや話し方などが実践できることに加え、状況に応じて「より適切な」判断と柔軟な対応をとることができる能力を育む。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	理論問題・実技問題5 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	理論問題・実技問題6 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	理論問題・実技問題7 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	理論問題・実技問題8 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	理論問題・実技問題9 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第21回	理論問題・実技問題10 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第22回	理論問題・実技問題11 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第23回	理論問題・実技問題12 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	総合問題演習1	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第24回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	総合問題演習2	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第25回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第11回	総合問題演習3	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第26回	実技演習 慶事の対応・弔事の対応	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第12回	理論問題・実技問題1 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第27回	実技演習 ファイリング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第13回	理論問題・実技問題2 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第28回	実技演習 電話応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第14回	理論問題・実技問題3 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第29回	実技演習 来客応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第15回	理論問題・実技問題4 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第30回	実技総合演習 ロールプレイング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	成績評価方法	筆記試験 : 50 % 課題 : 30 % 授業態度 : 20 % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業を通して分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	「応用の職場常識」といわれる秘書検定準1級について講義や問題演習を行いながら解説を加え知識の定着を促す。また、秘書の仕事の仕方やオフィス内外で業務を行う際に必要となる技能を習得し、感じのよい話し方や上級秘書にふさわしい立ち居振る舞いが実践できることにより、検定試験の合格を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス（試験について） 一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	過去問題1 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	過去問題2 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	過去問題3 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	過去問題4 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	過去問題5 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	過去問題6 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	<p>一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）</p>				
備考	<p>複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。</p>				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの基本的な用語と基本操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験3級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Excelの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Excel基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Excel基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Excel基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Excel基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Excel基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	Excel基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Excel基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	4単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	30回
		成績 評価 方法	確認試験
ミニテスト	: 50 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験2級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel問題演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel問題演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	Excel問題演習⑯ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel問題演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	Excel問題演習⑰ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel問題演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	Excel問題演習⑱ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel問題演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	Excel問題演習⑲ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel問題演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第21回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Excel問題演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第22回	Excel問題演習㉑ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Excel問題演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第23回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel問題演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第24回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel問題演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第25回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第11回	Excel問題演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第26回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第12回	Excel問題演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第27回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第13回	Excel問題演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第28回	直前模擬問題⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第14回	Excel問題演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第29回	直前模擬問題⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第15回	Excel問題演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第30回	直前模擬問題⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				



学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	文書処理ソフト基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	3単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理 技能認定試験2級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Wordの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Word基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Word文書処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	表計算ソフト応用		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数	20回
			成績 評価 方法	確認試験
ミニテスト	: 50 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター			
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子	第11回	Excel応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第2回	Excel応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第12回	Excel応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第3回	Excel応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第13回	Excel応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第4回	Excel応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第14回	Excel応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第5回	Excel応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第15回	Excel応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第6回	Excel応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第16回	Excel応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第7回	Excel応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第8回	Excel応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第9回	Excel応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第10回	Excel応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子

準備学習等	Excel検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	文書処理ソフト応用	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Word応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	Word検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	プレゼンテーションソフト	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびPowerPointの基本的な用語と操作から応用的な操作までを習得し、サー ティファイ主催PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、 PowerPointの画面構成	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	PowerPoint基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	PowerPoint基本操作①	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	PowerPoint応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	PowerPoint基本操作②	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	PowerPoint応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	PowerPoint基本操作③	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	PowerPoint応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	PowerPoint基本操作④	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	PowerPoint応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	PowerPoint基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	PowerPoint応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	PowerPoint基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	PowerPoint応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	PowerPoint基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	PowerPoint基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	PowerPoint基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	PowerPoint2016クイックマスター（株式会社ウイネット）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				



学科	ビジネス学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	トレーニング論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	千葉佳名江 佐藤 舞那	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記テスト : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	佐藤 舞那	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	傷害を抱えた方からアスリートまで、様々なケースに応じたトレーニングメニューの作成に必要な基礎知識や実技指導を担当する。解剖学を中心に、生理学、医学、バイオメカニクスと指導現場に即した指導を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを保有。メディカルフィットネス施設において、健康増進・パフォーマンス向上等、様々な目的に対応したトレーニング指導を担当。現在も高校のラグビー部トレーナーとして活動中。		
授業目的 到達目標	トレーニング指導者が、対象や目的に応じた科学的根拠に基づいて活動するために必要な理論を学び、適切な身体運動を効果的に指導・運営できる知識の習得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	体力学総論 (1)体力の概念、体力要素と体力モデル	千葉佳名江 佐藤 舞那	第11回	バイオメカニクス (1)バイオメカニクスの基礎	千葉佳名江 佐藤 舞那
第2回	体力学総論 (2)個人特性、一般体力と専門体力	千葉佳名江 佐藤 舞那	第12回	バイオメカニクス (2)スポーツ及びトレーニング動作	千葉佳名江 佐藤 舞那
第3回	機能解剖 (1)上肢の基本構造	千葉佳名江 佐藤 舞那	第13回	運動生理学 (1)呼吸循環系の基礎	千葉佳名江 佐藤 舞那
第4回	機能解剖 (2)肩関節・肘関節・手関節	千葉佳名江 佐藤 舞那	第14回	運動生理学 (2)運動・トレーニングと呼吸循環	千葉佳名江 佐藤 舞那
第5回	機能解剖 (3)上肢の筋肉	千葉佳名江 佐藤 舞那	第15回	運動生理学 (3)エネルギー代謝の基礎	千葉佳名江 佐藤 舞那
第6回	機能解剖 (4)脊柱・胸郭の基本構造	千葉佳名江 佐藤 舞那	第16回	運動生理学 (4)運動・トレーニングとエネルギー代謝	千葉佳名江 佐藤 舞那
第7回	機能解剖 (5)脊柱・胸郭の関節と筋肉	千葉佳名江 佐藤 舞那	第17回	運動生理学 (5)骨格筋の形態、機能とメカニズム	千葉佳名江 佐藤 舞那
第8回	機能解剖 (6)下肢の基本構造	千葉佳名江 佐藤 舞那	第18回	運動生理学 (6)筋・神経系に対するトレーニング	千葉佳名江 佐藤 舞那
第9回	機能解剖 (7)股関節・膝関節・足関節	千葉佳名江 佐藤 舞那	第19回	運動生理学 (7)内分泌器官とホルモンの作用	千葉佳名江 佐藤 舞那
第10回	機能解剖 (8)下肢の筋肉	千葉佳名江 佐藤 舞那	第20回	運動生理学 (8)トレーニングにおけるホルモンの作用	千葉佳名江 佐藤 舞那

ビジネス学科(2年課程)

<p>準備学習等</p>	
<p>教科書 参考書等</p>	<p>JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト トレーニング指導者テキスト（理論編）                  編著者：NPO法人日本トレーニング指導者協会                  発行者：鈴木一行 発行所：株式会社 大修館書店</p>
<p>備考</p>	

学科	ビジネス学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	トレーニング論II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	千葉佳名江 佐藤 舞那	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記テスト : 70 %
授業態度 : 30 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	佐藤 舞那		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	傷害を抱えた方からアスリートまで、様々なケースに応じたトレーニングメニューの作成に必要な基礎知識や実技指導を担当する。解剖学を中心に、生理学、医学、バイオメカニクスと指導現場に即した学習内容で授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを保有。メディカルフィットネス施設において、健康増進・パフォーマンス向上等、様々な目的に対応したトレーニング指導を担当。現在も高校のラグビー部トレーナーとして活動中。		
授業目的 到達目標	トレーニング指導者が、対象や目的に応じた科学的根拠に基づいて活動するために必要な理論を学び、適切な身体運動を効果的に指導・運営できる知識の習得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	運動と栄養 (1)5大栄養素の役割	千葉佳名江 佐藤 舞那	第11回	運動と心理 (3)スポーツ選手の競技力向上への活用	千葉佳名江 佐藤 舞那
第2回	運動と栄養 (2)身体組成とエネルギー代謝	千葉佳名江 佐藤 舞那	第12回	運動と心理 (4)一般人の健康増進への活用	千葉佳名江 佐藤 舞那
第3回	運動と栄養 (3)スポーツ選手と栄養	千葉佳名江 佐藤 舞那	第13回	運動と医学 (1)救急処置法・一次救命処置	千葉佳名江 佐藤 舞那
第4回	運動と栄養 (4)種目特性の分類と食事・水分補給	千葉佳名江 佐藤 舞那	第14回	運動と医学 (2)外傷・創傷・頭部外傷への処置	千葉佳名江 佐藤 舞那
第5回	運動と栄養 (5)栄養・食事計画の立案	千葉佳名江 佐藤 舞那	第15回	運動と医学 (3)スポーツ外傷	千葉佳名江 佐藤 舞那
第6回	運動と栄養 (6)健康増進と栄養・食事摂取基準	千葉佳名江 佐藤 舞那	第16回	運動と医学 (4)スポーツ外傷の予防	千葉佳名江 佐藤 舞那
第7回	運動と栄養 (7)食事バランスガイド	千葉佳名江 佐藤 舞那	第17回	運動と医学 (5)生活習慣病	千葉佳名江 佐藤 舞那
第8回	運動と栄養 (8)食事指導と食育	千葉佳名江 佐藤 舞那	第18回	運動と医学 (6)生活習慣病の予防	千葉佳名江 佐藤 舞那
第9回	運動と心理 (1)発育発達と心理側面	千葉佳名江 佐藤 舞那	第19回	運動指導の科学 (1)動作の成り立ち	千葉佳名江 佐藤 舞那

第10回	運動と心理 (2)選手のメンタル強化	千葉佳名江 佐藤 舞那	第20回	運動指導の科学 (2)動作の習得と練習方法	千葉佳名江 佐藤 舞那
準備学習等					
教科書 参考書等	JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト トレーニング指導者テキスト (理論編) 編著者：NPO法人日本トレーニング指導者協会 発行者：鈴木一行 発行所：株式会社 大修館書店				
備考					

学科	ビジネス学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	トレーニング実践Ⅰ		授業形態		
			演習	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	千葉佳名江 佐藤 舞那 猪狩 千穂		授業回数	20回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
授業態度	: 30 %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	佐藤 舞那			: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	傷害を抱えた方からアスリートまで、様々なケースに応じたトレーニングメニューの作成に必要な基礎知識や実技指導を担当する。解剖学を中心に、生理学、医学、バイオメカニクスと指導現場に即した指導を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを保有。メディカルフィットネス施設において、健康増進・パフォーマンス向上等、様々な目的に対応したトレーニング指導を担当。現在も高校のラグビー部トレーナーとして活動中。				
授業目的 到達目標	トレーニングに関する基礎的な知識のもと、各種トレーニングの実技を通してデモンストラクション技能の習得・向上を目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	1章 トレーニング指導者論 ～トレーニング指導者の役割～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第11回	エクササイズプログラム作成の基礎知識	千葉佳名江 猪狩 千穂
第2回	2章 各種トレーニング法の理論とプログラム ～トレーニング計画の立案(総論)～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第12回	ADI プログラム指導案作成(1)	千葉佳名江 猪狩 千穂
第3回	～筋力トレーニングのプログラム作成～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第13回	ADI プログラム指導案作成(2)	千葉佳名江 猪狩 千穂
第4回	～パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成①パワートレーニング～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第14回	ADI 模擬試験	千葉佳名江 猪狩 千穂
第5回	～パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成②プライオメトリクス～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第15回	REI プログラム指導案作成(1)	千葉佳名江 猪狩 千穂
第6回	～持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成①有酸素性持久力～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第16回	REI プログラム指導案作成(2)	千葉佳名江 猪狩 千穂
第7回	～持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成②無酸素性持久力～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第17回	SEI プログラム指導案作成(1)	千葉佳名江 猪狩 千穂

ビジネス学科(2年課程)

第8回	～スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成①スピードトレーニング～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第18回	SEI プログラム指導案作成(2)	千葉佳名江 猪狩 千穂
第9回	～スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成②アジリティトレーニング～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第19回	REI・SEI 模擬試験	千葉佳名江 猪狩 千穂
第10回	～柔軟性向上トレーニング及びウォームアップとクールダウンの理論とプログラム～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第20回	ADI・REI・SEI実技試験対策	千葉佳名江 猪狩 千穂
準備学習等					
教科書 参考書等	<p>JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト トレーニング指導者テキスト(実践編)                  編著者：NPO法人日本トレーニング指導者協会                  発行者：鈴木一行 発行所：株式会社 大修館書店                  GFIのためのグループエクササイズ指導理論(公益社団法人 日本フィットネス協会)                  ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論(公益社団法人 日本フィットネス協会)                  REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論(公益社団法人 日本フィットネス協会)                  SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論(公益社団法人 日本フィットネス協会)</p>				
備考					

学科	ビジネス学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	トレーニング実践II	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	千葉佳名江 佐藤 舞那	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	佐藤 舞那	: %	
		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	傷害を抱えた方からアスリートまで、様々なケースに応じたトレーニングメニューの作成に必要な基礎知識や実技指導を担当する。解剖学を中心に、生理学、医学、バイオメカニクスと指導現場に即した指導を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを保有。メディカルフィットネス施設において、健康増進・パフォーマンス向上等、様々な目的に対応したトレーニング指導を担当。現在も高校のラグビー部トレーナーとして活動中。		
授業目的 到達目標	トレーニング指導者として高いプログラミング能力と実技能力を身につけ、各種トレーニングを実演、指導することができる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	2章 各種トレーニング法の理論とプログラム ～特別な対象のためのトレーニングプログラム～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第11回	～持久力向上トレーニングの実際～	千葉佳名江 佐藤 舞那
第2回	～傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第12回	～スピード向上トレーニングの実際①～	千葉佳名江 佐藤 舞那
第3回	3章 各種トレーニング法の実際 ～筋力トレーニングの実際①～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第13回	～スピード向上トレーニングの実際②各種ドリル～	千葉佳名江 佐藤 舞那
第4回	～筋力トレーニングの実際②胸部・背部のエクササイズ～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第14回	～柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際①スタティックストレッチング・パートナーストレッチング～	千葉佳名江 佐藤 舞那
第5回	～筋力トレーニングの実際③肩部・上腕部・前腕部のエクササイズ～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第15回	～柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際②ダイナミックストレッチング・器具を使用したストレッチング～	千葉佳名江 佐藤 舞那
第6回	～筋力トレーニングの実際④大腿部及び股関節周辺のエクササイズ～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第16回	～柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際③ウォームアップ～	千葉佳名江 佐藤 舞那
第7回	～筋力トレーニングの実際⑤下腿部・体幹部のエクササイズ～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第17回	4章 トレーニング効果の測定と評価 ～トレーニング効果の測定と評価の実際～	千葉佳名江 佐藤 舞那
第8回	～パワー向上トレーニングの実際①クイックリフト～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第18回	～測定データの活用とフィードバックの実際～	千葉佳名江 佐藤 舞那
第9回	～パワー向上トレーニングの実際②ジャンプ系エクササイズ～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第19回	5章 トレーニングの運営と情報活用 ～トレーニングの運営～	千葉佳名江 佐藤 舞那
第10回	～パワー向上トレーニングの実際③プライオメトリクス・パワートレーニング～	千葉佳名江 佐藤 舞那	第20回	～運動指導のための情報収集と活用～	千葉佳名江 佐藤 舞那

ビジネス学科(2年課程)

<p>準備学習等</p>	
<p>教科書 参考書等</p>	<p>JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト トレーニング指導者テキスト（実践編）                  編著者：NPO法人日本トレーニング指導者協会                  発行者：鈴木一行 発行所：株式会社 大修館書店</p>
<p>備考</p>	



学科	ビジネス学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	スポーツトレーナー演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	千葉佳名江 猪狩 千穂	授業回数	10回
		成績評価方法	実技テスト
課題提出	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	猪狩 千穂		: %
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	GFI エグザミナーとしての経験から、学生のGFI（グループエクササイズフィットネスインストラクター）資格取得に向けて知識・実技能力に関する内容。		
実務経験教員の実務経験内容	フィットネスインストラクターとして、フィットネスジムでのエアロビクス、アクアビクス、ヨガなどを20年以上指導している。		
授業目的 到達目標	GFI上級資格（ADI,REI,SEI）の取得を目指し、エクササイズのプログラミング能力と、より高度な実演能力・指導能力を身につける。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	エクササイズプログラム作成の基礎知識	千葉佳名江 猪狩 千穂
第2回	ADI プログラム指導案作成（1）	千葉佳名江 猪狩 千穂
第3回	ADI プログラム指導案作成（2）	千葉佳名江 猪狩 千穂
第4回	ADI 模擬試験	千葉佳名江 猪狩 千穂
第5回	REI プログラム指導案作成（1）	千葉佳名江 猪狩 千穂
第6回	REI プログラム指導案作成（2）	千葉佳名江 猪狩 千穂
第7回	REI 模擬試験	千葉佳名江 猪狩 千穂
第8回	SEI プログラム指導案作成（2）	千葉佳名江 猪狩 千穂
第9回	SEI 模擬試験	千葉佳名江 猪狩 千穂
第10回	ADI・REI・SEI実技試験対策	千葉佳名江 猪狩 千穂

ビジネス学科(2年課程)

<p>準備学習等</p>	
<p>教科書 参考書等</p>	<p>GFIのためのグループエクササイズ指導理論（公益社団法人 日本フィットネス協会）                  ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論（公益社団法人 日本フィットネス協会）                  REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論（公益社団法人 日本フィットネス協会）                  SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論（公益社団法人 日本フィットネス協会）</p>
<p>備考</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・情報システム学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	社会人総合演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子・千葉 佳名江・伊藤 浩彰・ 大野 直哉・中島 京哉 高橋 敬・ 鈴木 裕治・河野 賢一・五十嵐 久子・ 瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春		授業回数	40回	
			成績 評価 方法	確認テスト	: 60 %
				実技試験	: 30 %
				レポート	: 10 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。				
実務経験教員の 実務経験内容	<p>[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。</p>				

授業目的 到達目標	[Word・Excel] 状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。 「時事研究」 最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。 [販売管理・仕入管理務] 売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。 [ビジネスマナー] ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話応対ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	PCPパソコン実習 PCPビジネスマナー PCP販売仕入管理 PCP時事(大原学園)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がある。				

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	マナー実習(セールス)		授業形態	実習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	久保田佳子・高橋敬・中島京哉 千葉佳名江・瀬尾幸江・長澤千春		授業回数	20回
			成績評価方法	実技試験 : 80 %
				授業態度 : 20 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾幸江・長澤千春			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	丁寧な電話応対や名刺交換の基本、相手の心理を理解した販売や商品説明の仕方等を ロールプレイングを通して具体的に指導する。実践力を養うとともに、社会人として滞 りなく実務を行うための臨機応変さを身につけさせる。			
実務経験教員の 実務経験内容	〔瀬尾幸江〕一般企業にて総務・労務・経理事務、営業事務等を経験。接客販売およ び宿泊施設の電話交換業務に携わった経験あり。 秘書技能検定1級およびサービス接客検定1級、電話実践級を取得。 〔長澤千春〕専門学校にて教務事務を担当したほか高校生対象のキャリア教育セミ ナーや社会人マナーの講義経験あり。サービス接客検定1級を取得。			
授業目的 到達目標	1. 好印象を与える話し方や、状況に応じた立ち居振る舞いが自然にできる。 2. 内定先の取扱商品(サービス)や事業内容の知識を深め、企業の思いを理解す る。 3. 人前で話すことに慣れるとともに、さまざまな客に対し柔軟に対応できる。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	接客マナー 接客販売の心得 お客様心理の理解	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第11回	商品説明 説明内容に関する知識 お客様にとってのメリット	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第2回	接客マナー 店内接客の基本 接客基本用語 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第12回	商品説明 商品説明の準備 ポイントシート作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春



第3回	接客マナー 状況別の店内接客 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第13回	商品説明 話の組み立て方 シナリオ作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第4回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第14回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第5回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第15回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第6回	接客マナー 効果測定(実技)	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第16回	商品説明 好感をもたれる商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第7回	営業マナー 訪問のマナー・基本用語 アポイントメント ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第17回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第8回	営業マナー 受付・応接室でのポイント 受付訪問・名刺交換 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第18回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑤	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第9回	営業マナー 商談の進め方 訪問後のフォロー ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第19回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑥	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第10回	営業マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第20回	商品説明 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
準備学習等	<p>復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践を繰り返すなどして自分の習慣にすること。</p>				
教科書 参考書等	「ビジネスマナー」テキスト				
備考	<p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに効果測定等を実施し総合的に評価する。実務を意識した授業のため、効果を測定できなかった場合は追試等を実施し、実務レベルに対応する力をつけさせる。 複数学科・複数学年による合同授業となる。受講生の習熟の度合や進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴い、授業内容を変更する場合がある。</p>				

学科	ビジネス学科（2年課程）
学年	2学年

科目名	販売士1級	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 %
			授業態度 : 20 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	経営に関する極めて高度な知識を身につけることを目的とし、商品計画からマーケティング、経営計画の立案や財務予測等の経営管理について適切な判断ができることを目標とする。マーケティングの責任者やコンサルタントとして戦略的に企業経営に関わる人材を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通システムの変革と小売業 の新たな役割	中島 京哉 高橋 敬	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの戦略的展 開、スペースマネジメントの 戦略的展開	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型 フランチャイズシステムの戦 略特性	中島 京哉 高橋 敬	第12回	ストアオペレーション 発注の戦略的展開、LSPの戦 略展開	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型 店舗形態別小売業の戦略的特 性	中島 京哉 高橋 敬	第13回	ストアオペレーション ローコストオペレーションの 戦略展開、人的販売と販売員 指導の実際	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型 チェーンストアの戦略概論	中島 京哉 高橋 敬	第14回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬

第5回	小売業の類型 商店街およびショッピングセンターの戦略的特性	中島 京哉 高橋 敬	第15回	マーケティング 小売業のマイクロマーケティング戦略の実践、小売業のマーケティングの種類と特徴	中島 京哉 高橋 敬
第6回	マーチャダイジング マーチャダイジング戦略の概論	中島 京哉 高橋 敬	第16回	マーケティング リテールマーケティング戦略の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャダイジング 商品計画の策定と商品予算の実務	中島 京哉 高橋 敬	第17回	マーケティング ライフスタイルの変化とマーケティング戦略の展開方法、顧客戦略の実際	中島 京哉 高橋 敬
第8回	マーチャダイジング 販売計画ならびに販売管理の戦略的策定	中島 京哉 高橋 敬	第18回	マーケティング マーケティングリサーチの実際、出店戦略と商圈分析の実際、販売促進とプライシングの戦略的展開	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャダイジング 仕入在庫と在庫管理の実務	中島 京哉 高橋 敬	第19回	販売・経営管理 小売業の管理組織の特徴、小売業の従業員管理と能力開発	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャダイジング 戦略的商品管理の実務、物流システムの実際	中島 京哉 高橋 敬	第20回	販売・経営管理 小売業の戦略的キャッシュフロー経営、小売業の店舗に関する法律、小売業のリスクマネジメント	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（発展編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験1級対応～（キャリアック） 販売士(リテールマーケティング) 1級問題集part 1 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 1級問題集part 2 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 1級問題集part 3 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 1級問題集part 4 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 1級問題集part 5 (TAC出版)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性ががあります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的、 簿記一巡の手続き、 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金、消費税、法人税等の決算整理 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、買掛金、返品、分記法の記帳方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品および仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳および当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
ミニテスト	: 30 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一



第8回	直前対策講義実施、解説 仕訳：債権・債務 個別問題：商品有高帳 模擬試験問題演習・解説②	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) 日商簿記3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)				
備考	授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間	
			単位数	2単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	5回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	ガイダンス 問題演習・解説 直前模擬試験 第1回			熊谷 茜美 工藤 英一	
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回			熊谷 茜美 工藤 英一	
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回			熊谷 茜美 工藤 英一	

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。	
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版) 日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園) 2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回~第3回 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。 株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				



## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企 業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学 習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び 持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達 目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行 制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論 及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上 とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評 価 方 法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員		鈴木 翔太		%		
				%		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					



教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①	鈴木 翔太	
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権	鈴木 翔太	
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金	鈴木 翔太	
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等	鈴木 翔太	
第5回	組織再編	鈴木 翔太	
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太	
第7回	商法総則①	鈴木 翔太	
第8回	商法総則② 商法為法	鈴木 翔太	
第9回	金融商品取引法総論 発行開示	鈴木 翔太	
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		120時間	
			単位数		4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回	
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。					
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也	

税理士会計士学科(4年課程)

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 40 %
			授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %
			: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也



第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

税理士会計士学科(4年課程)

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也



第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例(相続)	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例(合併)	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例(分割等)	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例(吸収分割)	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例(新設法人)	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例(特定新規設立法人)	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例(高額特定資産を取得した場合)	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			

## 準備学習等

消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。  
また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。  
なお、各回において復習のための総合問題を解答します。

教科書  
参考書等

消費税法計算テキストⅡ(大原学園)、消費税法計算問題集Ⅱ(大原学園)、理論テキスト(大原学園)、消費税法規通達集(中央経済社)、総合計算問題集応用編(大原出版)、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、年内完結問題集(大原学園)、完全合格問題集(大原学園)

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
---------------------	---

実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
---------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制 (概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制 (合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制 (分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也



第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨ (引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES (デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

準備学習等	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
教科書 参考書等	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合があります。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合があります。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験
演習問題	: 50 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
				ミニテスト	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: % : %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。

授業目的  
到達目標

各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。  
また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				



学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
演習問題	: 50 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---



## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。
--------------	--

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。

授業目的  
到達目標

本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。

税理士会計士学科(4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---



## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結（段階取得）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結（子会社株式の追加取得、一部売却）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結（連結除外）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結（株主割当有償増資、第三者割当有償増資）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結（子会社の新株予約権、自己株式）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

税理士会計士学科(4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太



第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評 価 方 法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				%	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①	鈴木 翔太	
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権	鈴木 翔太	
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金	鈴木 翔太	
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等	鈴木 翔太	
第5回	組織再編	鈴木 翔太	
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太	
第7回	商法総則①	鈴木 翔太	
第8回	商法総則② 商法為法	鈴木 翔太	
第9回	金融商品取引法総論 発行開示	鈴木 翔太	
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表(持分法)、企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛



第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立、株式①	鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①	鈴木 翔太	
第3回	機関②	鈴木 翔太	
第4回	資金調達	鈴木 翔太	
第5回	社債、計算	鈴木 翔太	
第6回	組織再編①	鈴木 翔太	
第7回	組織再編②	鈴木 翔太	
第8回	持分会社等	鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為	鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法	鈴木 翔太	



税理士会計士学科(4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>各回に演習問題を配布します。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 40 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		120時間	
			単位数		4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回	
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。					
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。					
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也	

税理士会計士学科(4年課程)

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	180時間	
			単位数	6単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	45回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--



学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例(相続)	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例(合併)	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例(分割等)	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例(吸収分割)	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例(新設法人)	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例(特定新規設立法人)	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例(高額特定資産を取得した場合)	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			

## 準備学習等

消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。  
また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。  
なお、各回において復習のための総合問題を解答します。

教科書  
参考書等

消費税法計算テキストⅡ(大原学園)、消費税法計算問題集Ⅱ(大原学園)、理論テキスト(大原学園)、消費税法規通達集(中央経済社)、総合計算問題集応用編(大原出版)、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、年内完結問題集(大原学園)、完全合格問題集(大原学園)

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	:
ミニテスト	:	40		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制 (概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制 (合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制 (分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨ (引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES (デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

準備学習等	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
教科書 参考書等	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合があります。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合があります。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>



学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
演習問題 : 50 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
				ミニテスト	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す  
ること。

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				



## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	--



教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①	鈴木 翔太	
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権	鈴木 翔太	
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金	鈴木 翔太	
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等	鈴木 翔太	
第5回	組織再編	鈴木 翔太	
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太	
第7回	商法総則①	鈴木 翔太	
第8回	商法総則② 商法為法	鈴木 翔太	
第9回	金融商品取引法総論 発行開示	鈴木 翔太	
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表（持分法）、企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------



## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。			
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太		
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太		
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太		
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太		
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太		
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太		
第7回	監査報告論	鈴木 翔太		
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太		
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太		
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太		

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立、株式①	鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①	鈴木 翔太	
第3回	機関②	鈴木 翔太	
第4回	資金調達	鈴木 翔太	
第5回	社債、計算	鈴木 翔太	
第6回	組織再編①	鈴木 翔太	
第7回	組織再編②	鈴木 翔太	
第8回	持分会社等	鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為	鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法	鈴木 翔太	

税理士会計士学科(4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>各回に演習問題を配布します。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				



<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

税理士会計士学科(4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結(段階取得)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結(子会社株式の追加 取得、一部売却)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結(連結除外)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結(株主割当有償増 資、第三者割当有償増資)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結(子会社の新株予約 権、自己株式)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会 計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範 囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるの企業会計基準委員会公表の会計基準、適用指針の考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	金融資産及び金融負債の範囲、発生・消滅の認識、評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	貸倒見積高の算定、複合金融商品、ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲、個別財務諸表の修正、連結貸借対照表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	ストック・オプション会計の概要、会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結損益・包括利益計算書、持分法、注記	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース取引の意義と分類、リース取引の会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	取得、共同支配企業の形成、共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	確定給付制度の会計処理、確定拠出制度、複数事業主制度	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	事業分離等の会計、外貨換算会計の概要	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	研究開発費、ソフトウェア製作費	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引の換算、在外業務活動体の財務諸表項目の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	減損損失の認識と測定、財務諸表における開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	四半期財務諸表の概要、四半期財務諸表の作成基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	税効果会計の仕組み、一時差異等、認識と測定	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。				



教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	監査論Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績評価方法	確認テスト : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
			: %
科目教員のうち実務経験教員	鈴木 翔太	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	わが国の監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である監査制度に関する網羅的かつ実務につながる知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	監査報告論 継続企業の前提	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸表	鈴木 翔太	第12回	中間監査 四半期レビュー	鈴木 翔太
第3回	監査主体論①	鈴木 翔太	第13回	特別目的の財務諸表の監査等	鈴木 翔太
第4回	監査主体論②	鈴木 翔太	第14回	内部統制報告制度	鈴木 翔太
第5回	監査基準論①	鈴木 翔太	第15回	会社法会計監査人監査	鈴木 翔太
第6回	監査基準論②	鈴木 翔太	第16回	金融商品取引法	鈴木 翔太
第7回	監査実施論①	鈴木 翔太	第17回	公認会計士法	鈴木 翔太
第8回	監査実施論②	鈴木 翔太	第18回	倫理規則	鈴木 翔太
第9回	監査実施論③	鈴木 翔太	第19回	保証業務	鈴木 翔太
第10回	監査実施論④	鈴木 翔太	第20回	わが国の監査の歴史	鈴木 翔太

税理士会計士学科(4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を解答し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	会社法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	15回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社を中心とした会社の設立・運営等に関する法規制、株式会社以外の会社に関し株式会社との相違点を学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である会社法の趣旨に基づいた会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	イントロダクション	鈴木 翔太	第9回	社債	鈴木 翔太
第2回	設立	鈴木 翔太	第10回	計算	鈴木 翔太
第3回	株式①	鈴木 翔太	第11回	定款変更	鈴木 翔太
第4回	株式②	鈴木 翔太	第12回	事業譲渡等と組織再編行為	鈴木 翔太
第5回	機関①	鈴木 翔太	第13回	解散・清算	鈴木 翔太
第6回	機関②	鈴木 翔太	第14回	持分会社	鈴木 翔太
第7回	機関③	鈴木 翔太	第15回	特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太
第8回	資金調達	鈴木 翔太			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。

備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。
----	---

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	商法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	商法のうち、商人および商行為に関する法規制を理解したうえで、会社法規制とのつながりを学習する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である商法の趣旨に基づいた商人全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	商法の基本概念（商人・商行為）	鈴木 翔太
第2回	商業使用人	鈴木 翔太
第3回	商業登記	鈴木 翔太
第4回	商業帳簿	鈴木 翔太
第5回	商号	鈴木 翔太
第6回	営業の譲渡	鈴木 翔太
第7回	商行為法総論	鈴木 翔太
第8回	仲介業	鈴木 翔太
第9回	運送営業	鈴木 翔太
第10回	倉庫・場屋営業	鈴木 翔太

税理士会計士学科(4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	金融商品取引法	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	金融商品取引法のうち、発行市場および流通市場における情報開示規制を中心に学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である金融商品取引法の趣旨に基づいた適用会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	金融商品取引法総論	鈴木 翔太
第2回	発行開示①	鈴木 翔太
第3回	発行開示②	鈴木 翔太
第4回	流通開示①	鈴木 翔太
第5回	流通開示②	鈴木 翔太
第6回	公開買付け①	鈴木 翔太
第7回	公開買付け②	鈴木 翔太
第8回	大量保有開示	鈴木 翔太
第9回	電子開示	鈴木 翔太
第10回	開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太



税理士会計士学科(4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

税理士会計士学科(4年課程)

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--



学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例(相続)	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例(合併)	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例(分割等)	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例(吸収分割)	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例(新設法人)	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例(特定新規設立法人)	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例(高額特定資産を取得した場合)	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			

## 準備学習等

消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。  
また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。  
なお、各回において復習のための総合問題を解答します。

教科書  
参考書等

消費税法計算テキストⅡ(大原学園)、消費税法計算問題集Ⅱ(大原学園)、理論テキスト(大原学園)、消費税法規通達集(中央経済社)、総合計算問題集応用編(大原出版)、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、年内完結問題集(大原学園)、完全合格問題集(大原学園)

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制(概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制(合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制(分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨ (引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES (デット・エクイティ・スワップ)	小関 哲也			

準備学習等	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
教科書 参考書等	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合があります。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合があります。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>



学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
				ミニテスト	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	
				:	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---



## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行 制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論 及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上 とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評 価 方 法	確認テスト		: 70 %
授業態度		: 30 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員		鈴木 翔太		: %		
				: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					



教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太		授業回数	10回
			成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①			鈴木 翔太
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権			鈴木 翔太
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金			鈴木 翔太
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等			鈴木 翔太
第5回	組織再編			鈴木 翔太
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社			鈴木 翔太
第7回	商法総則①			鈴木 翔太
第8回	商法総則② 商法為法			鈴木 翔太
第9回	金融商品取引法総論 発行開示			鈴木 翔太
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度			鈴木 翔太

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表（持分法）、企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------



## 税理士会計士学科(4年課程)

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立、株式①	鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①	鈴木 翔太	
第3回	機関②	鈴木 翔太	
第4回	資金調達	鈴木 翔太	
第5回	社債、計算	鈴木 翔太	
第6回	組織再編①	鈴木 翔太	
第7回	組織再編②	鈴木 翔太	
第8回	持分会社等	鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為	鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法	鈴木 翔太	

税理士会計士学科(4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>各回に演習問題を配布します。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---



教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
確認テスト : 10 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結（段階取得）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結（子会社株式の追加取得、一部売却）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結（連結除外）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結（株主割当有償増資、第三者割当有償増資）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結（子会社の新株予約権、自己株式）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるの企業会計基準委員会公表の会計基準、適用指針の考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	金融資産及び金融負債の範囲、発生・消滅の認識、評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	貸倒見積高の算定、複合金融商品、ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲、個別財務諸表の修正、連結貸借対照表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	ストック・オプション会計の概要、会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結損益・包括利益計算書、持分法、注記	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース取引の意義と分類、リース取引の会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	取得、共同支配企業の形成、共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	確定給付制度の会計処理、確定拠出制度、複数事業主制度	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	事業分離等の会計、外貨換算会計の概要	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	研究開発費、ソフトウェア製作費	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引の換算、在外業務活動体の財務諸表項目の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	減損損失の認識と測定、財務諸表における開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	四半期財務諸表の概要、四半期財務諸表の作成基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	税効果会計の仕組み、一時差異等、認識と測定	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。				



教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	監査論Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績評価方法	確認テスト : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	わが国の監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である監査制度に関する網羅的かつ実務につながる知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	監査報告論 継続企業の前提	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸表	鈴木 翔太	第12回	中間監査 四半期レビュー	鈴木 翔太
第3回	監査主体論①	鈴木 翔太	第13回	特別目的の財務諸表の監査等	鈴木 翔太
第4回	監査主体論②	鈴木 翔太	第14回	内部統制報告制度	鈴木 翔太
第5回	監査基準論①	鈴木 翔太	第15回	会社法会計監査人監査	鈴木 翔太
第6回	監査基準論②	鈴木 翔太	第16回	金融商品取引法	鈴木 翔太
第7回	監査実施論①	鈴木 翔太	第17回	公認会計士法	鈴木 翔太
第8回	監査実施論②	鈴木 翔太	第18回	倫理規則	鈴木 翔太
第9回	監査実施論③	鈴木 翔太	第19回	保証業務	鈴木 翔太
第10回	監査実施論④	鈴木 翔太	第20回	わが国の監査の歴史	鈴木 翔太

税理士会計士学科(4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を解答し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	会社法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	15回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社を中心とした会社の設立・運営等に関する法規制、株式会社以外の会社に関し株式会社との相違点を学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である会社法の趣旨に基づいた会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	イントロダクション	鈴木 翔太	第9回	社債	鈴木 翔太
第2回	設立	鈴木 翔太	第10回	計算	鈴木 翔太
第3回	株式①	鈴木 翔太	第11回	定款変更	鈴木 翔太
第4回	株式②	鈴木 翔太	第12回	事業譲渡等と組織再編行為	鈴木 翔太
第5回	機関①	鈴木 翔太	第13回	解散・清算	鈴木 翔太
第6回	機関②	鈴木 翔太	第14回	持分会社	鈴木 翔太
第7回	機関③	鈴木 翔太	第15回	特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太
第8回	資金調達	鈴木 翔太			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。

備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。
----	---

学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	商法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	商法のうち、商人および商行為に関する法規制を理解したうえで、会社法規制とのつながりを学習する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である商法の趣旨に基づいた商人全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	商法の基本概念(商人・商行為)	鈴木 翔太		
第2回	商業使用人	鈴木 翔太		
第3回	商業登記	鈴木 翔太		
第4回	商業帳簿	鈴木 翔太		
第5回	商号	鈴木 翔太		
第6回	営業の譲渡	鈴木 翔太		
第7回	商行為法総論	鈴木 翔太		
第8回	仲介業	鈴木 翔太		
第9回	運送営業	鈴木 翔太		
第10回	倉庫・場屋営業	鈴木 翔太		

税理士会計士学科(4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	金融商品取引法	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	金融商品取引法のうち、発行市場および流通市場における情報開示規制を中心に学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である金融商品取引法の趣旨に基づいた適用会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	金融商品取引法総論	鈴木 翔太
第2回	発行開示①	鈴木 翔太
第3回	発行開示②	鈴木 翔太
第4回	流通開示①	鈴木 翔太
第5回	流通開示②	鈴木 翔太
第6回	公開買付け①	鈴木 翔太
第7回	公開買付け②	鈴木 翔太
第8回	大量保有開示	鈴木 翔太
第9回	電子開示	鈴木 翔太
第10回	開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太



税理士会計士学科(4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	社会人総合演習	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間	
		単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子、千葉 佳名江、伊藤 浩彰、 大野 直哉、中島 京哉、高橋 敬、 鈴木 裕治、河野 賢一、五十嵐 久子、 瀬尾 幸江、草野 淳子、長澤 千春	授業回数	40回	
		成績評価方法	確認テスト	: 60 %
			実技試験	: 30 %
			レポート	: 10 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾 幸江、草野 淳子、長澤 千春		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。			
実務経験教員の 実務経験内容	<p>[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。</p>			

授業目的 到達目標	<p>[Word・Excel]</p> <p>状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。</p> <p>「時事研究」</p> <p>最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。</p> <p>[販売管理・仕入管理務]</p> <p>売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。</p> <p>[ビジネスマナー]</p> <p>ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。</p>
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の 記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管 理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	P C P パソコン実習 P C P ビジネスマナー P C P 販売仕入管理 P C P 時事(大原学園)				



備考	<p>複数学科・複数学年による合同授業となる。</p> <p>受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。</p> <p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに確認テスト等を実施し、総合的に評価する。</p> <p>実務を意識した授業であるため、追試等を実施し、実務レベルに相当する力をつけさせる。</p>
----	--

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的、 簿記一巡の手続き、 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金、消費税、法人税等の決算整理 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、買掛金、返品、分記法の記帳方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品および仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳および当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
ミニテスト	: 30 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

第8回	直前対策講義実施、解説 仕訳：債権・債務 個別問題：商品有高帳 模擬試験問題演習・解説②	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) 日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)				
備考	授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間	
			単位数	2単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	5回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	ガイダンス問題演習・解説 直前模擬試験 第1回			熊谷 茜美 工藤 英一	
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回			熊谷 茜美 工藤 英一	
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回			熊谷 茜美 工藤 英一	

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。	
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版) 日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)  2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回～第3回 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。 株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。	



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太
第2回	変態設立事項に関する規制、設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	--

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太		授業回数	10回
			成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①			鈴木 翔太
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権			鈴木 翔太
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金			鈴木 翔太
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等			鈴木 翔太
第5回	組織再編			鈴木 翔太
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社			鈴木 翔太
第7回	商法総則①			鈴木 翔太
第8回	商法総則② 商法為法			鈴木 翔太
第9回	金融商品取引法総論 発行開示			鈴木 翔太
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度			鈴木 翔太

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>



学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 40 %
			授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		120時間	
			単位数		4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回	
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。					
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也	

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 40 %
			授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %
			: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。



学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。  
また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。

授業目的  
到達目標

消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。  
また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例(相続)	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例(合併)	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例(分割等)	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例(吸収分割)	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例(新設法人)	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例(特定新規設立法人)	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例(高額特定資産を取得した場合)	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ(大原学園)、消費税法計算問題集Ⅱ(大原学園)、理論テキスト(大原学園)、消費税法規通達集(中央経済社)、総合計算問題集応用編(大原出版)、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 % ミニテスト : 40 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。  
また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。

授業目的  
到達目標

実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。  
また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也



第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、年内完結問題集（大原学園）、完全合格問題集（大原学園）

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 40 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
---------------------	---

実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
---------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制 (概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制 (合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制 (分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨(引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES(デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

準備学習等	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
教科書 参考書等	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合があります。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合があります。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也



準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回
			成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 50 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回
			成績 評価 方法	筆記試験
演習問題	: 50 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也



第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と  
いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ  
シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決  
算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。

授業目的  
到達目標

本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、  
キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし  
て、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す  
ること。

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
確認テスト : 10 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	: %	: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。

授業目的  
到達目標

本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結（段階取得）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結（子会社株式の追加取得、一部売却）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結（連結除外）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結（株主割当有償増資、第三者割当有償増資）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結（子会社の新株予約権、自己株式）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評 価 方 法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				%	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太		授業回数	10回
			成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①			鈴木 翔太
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権			鈴木 翔太
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金			鈴木 翔太
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等			鈴木 翔太
第5回	組織再編			鈴木 翔太
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社			鈴木 翔太
第7回	商法総則①			鈴木 翔太
第8回	商法総則② 商法為法			鈴木 翔太
第9回	金融商品取引法総論 発行開示			鈴木 翔太
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度			鈴木 翔太

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表(持分法)、企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>各回に演習問題を配布します。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立、株式①	鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①	鈴木 翔太	
第3回	機関②	鈴木 翔太	
第4回	資金調達	鈴木 翔太	
第5回	社債、計算	鈴木 翔太	
第6回	組織再編①	鈴木 翔太	
第7回	組織再編②	鈴木 翔太	
第8回	持分会社等	鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為	鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	23回
			成績評価方法	筆記試験 : 40 %
				ミニテスト : 40 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		120時間		
			単位数		4単位		
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回		
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
		: %					
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。						
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。						
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也		

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、年内完結問題集（大原学園）、完全合格問題集（大原学園）

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---



学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 40 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	180時間	
			単位数	6単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	45回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制(概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制(合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制(分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨(引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES(デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

準備学習等	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
教科書 参考書等	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合があります。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合があります。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回
			成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 50 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也



第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				

学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1 及別表4・別表5 を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1 級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企 業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学 習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び 持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達 目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行 制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論 及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上 とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	--

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太		授業回数	10回
			成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①			鈴木 翔太
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権			鈴木 翔太
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金			鈴木 翔太
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等			鈴木 翔太
第5回	組織再編			鈴木 翔太
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社			鈴木 翔太
第7回	商法総則①			鈴木 翔太
第8回	商法総則② 商法為法			鈴木 翔太
第9回	金融商品取引法総論 発行開示			鈴木 翔太
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度			鈴木 翔太

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表（持分法）、企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------

## 税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
	: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立、株式①	鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①	鈴木 翔太	
第3回	機関②	鈴木 翔太	
第4回	資金調達	鈴木 翔太	
第5回	社債、計算	鈴木 翔太	
第6回	組織再編①	鈴木 翔太	
第7回	組織再編②	鈴木 翔太	
第8回	持分会社等	鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為	鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法	鈴木 翔太	

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>各回に演習問題を配布します。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験 : 70 %
			確認テスト : 10 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結（段階取得）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結（子会社株式の追加 取得、一部売却）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結（連結除外）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結（株主割当有償増 資、第三者割当有償増資）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結（子会社の新株予約 権、自己株式）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会 計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範 囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。

税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるの企業会計基準委員会公表の会計基準、適用指針の考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	金融資産及び金融負債の範囲、発生・消滅の認識、評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	貸倒見積高の算定、複合金融商品、ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲、個別財務諸表の修正、連結貸借対照表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	ストック・オプション会計の概要、会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結損益・包括利益計算書、持分法、注記	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース取引の意義と分類、リース取引の会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	取得、共同支配企業の形成、共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	確定給付制度の会計処理、確定拠出制度、複数事業主制度	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	事業分離等の会計、外貨換算会計の概要	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	研究開発費、ソフトウェア製作費	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引の換算、在外業務活動体の財務諸表項目の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	減損損失の認識と測定、財務諸表における開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	四半期財務諸表の概要、四半期財務諸表の作成基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	税効果会計の仕組み、一時差異等、認識と測定	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(2.4年課程)

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	監査論Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績評価方法	確認テスト : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
			: %
科目教員のうち実務経験教員	鈴木 翔太	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	わが国の監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である監査制度に関する網羅的かつ実務につながる知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	監査報告論 継続企業の前提	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸表	鈴木 翔太	第12回	中間監査 四半期レビュー	鈴木 翔太
第3回	監査主体論①	鈴木 翔太	第13回	特別目的の財務諸表の監査等	鈴木 翔太
第4回	監査主体論②	鈴木 翔太	第14回	内部統制報告制度	鈴木 翔太
第5回	監査基準論①	鈴木 翔太	第15回	会社法会計監査人監査	鈴木 翔太
第6回	監査基準論②	鈴木 翔太	第16回	金融商品取引法	鈴木 翔太
第7回	監査実施論①	鈴木 翔太	第17回	公認会計士法	鈴木 翔太
第8回	監査実施論②	鈴木 翔太	第18回	倫理規則	鈴木 翔太
第9回	監査実施論③	鈴木 翔太	第19回	保証業務	鈴木 翔太
第10回	監査実施論④	鈴木 翔太	第20回	わが国の監査の歴史	鈴木 翔太

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を解答し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>



学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	会社法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	15回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社を中心とした会社の設立・運営等に関する法規制、株式会社以外の会社に関し株式会社との相違点を学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である会社法の趣旨に基づいた会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	イントロダクション	鈴木 翔太	第9回	社債	鈴木 翔太
第2回	設立	鈴木 翔太	第10回	計算	鈴木 翔太
第3回	株式①	鈴木 翔太	第11回	定款変更	鈴木 翔太
第4回	株式②	鈴木 翔太	第12回	事業譲渡等と組織再編行為	鈴木 翔太
第5回	機関①	鈴木 翔太	第13回	解散・清算	鈴木 翔太
第6回	機関②	鈴木 翔太	第14回	持分会社	鈴木 翔太
第7回	機関③	鈴木 翔太	第15回	特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太
第8回	資金調達	鈴木 翔太			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。

備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。
----	---

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	商法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	商法のうち、商人および商行為に関する法規制を理解したうえで、会社法規制とのつながりを学習する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である商法の趣旨に基づいた商人全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	商法の基本概念（商人・商行為）	鈴木 翔太		
第2回	商業使用人	鈴木 翔太		
第3回	商業登記	鈴木 翔太		
第4回	商業帳簿	鈴木 翔太		
第5回	商号	鈴木 翔太		
第6回	営業の譲渡	鈴木 翔太		
第7回	商行為法総論	鈴木 翔太		
第8回	仲介業	鈴木 翔太		
第9回	運送営業	鈴木 翔太		
第10回	倉庫・場屋営業	鈴木 翔太		

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	金融商品取引法	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	金融商品取引法のうち、発行市場および流通市場における情報開示規制を中心に学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である金融商品取引法の趣旨に基づいた適用会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	金融商品取引法総論	鈴木 翔太
第2回	発行開示①	鈴木 翔太
第3回	発行開示②	鈴木 翔太
第4回	流通開示①	鈴木 翔太
第5回	流通開示②	鈴木 翔太
第6回	公開買付け①	鈴木 翔太
第7回	公開買付け②	鈴木 翔太
第8回	大量保有開示	鈴木 翔太
第9回	電子開示	鈴木 翔太
第10回	開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太

税理士会計士学科(2.4年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 % ミニテスト : 40 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	社会人総合演習	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間	
		単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子、千葉 佳名江、伊藤 浩彰、 大野 直哉、中島 京哉、高橋 敬、 鈴木 裕治、河野 賢一、五十嵐 久子、 瀬尾 幸江、草野 淳子、長澤 千春	授業回数	40回	
		成績評価方法	確認テスト	: 60 %
			実技試験	: 30 %
			レポート	: 10 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾 幸江、草野 淳子、長澤 千春		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。			
実務経験教員の 実務経験内容	<p>[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。</p>			

授業目的 到達目標	<p>[Word・Excel]</p> <p>状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。</p> <p>「時事研究」</p> <p>最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。</p> <p>[販売管理・仕入管理務]</p> <p>売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。</p> <p>[ビジネスマナー]</p> <p>ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。</p>
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の 記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管 理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	P C P パソコン実習 P C P ビジネスマナー P C P 販売仕入管理 P C P 時事(大原学園)				

備考	<p>複数学科・複数学年による合同授業となる。</p> <p>受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。</p> <p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに確認テスト等を実施し、総合的に評価する。</p> <p>実務を意識した授業であるため、追試等を実施し、実務レベルに相当する力をつけさせる。</p>
----	--

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
				ミニテスト : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的、 簿記一巡の手続き、 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金、消費税、法人税等の決算整理 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、 買掛金、返品、分記法の記帳 方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表 の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品および仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳および当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

第8回	直前対策講義実施、解説 仕訳：債権・債務 個別問題：商品有高帳 模擬試験問題演習・解説②	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) 日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)				
備考	授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス問題演習・解説 直前模擬試験 第1回	熊谷 茜美 工藤 英一	
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回	熊谷 茜美 工藤 英一	
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回	熊谷 茜美 工藤 英一	

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。	
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版) 日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)  2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回～第3回 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。 株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す  
ること。



教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストV、問題V、答案用紙V、解答解説V なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企 業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学 習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び 持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達 目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行 制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論 及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上 とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。
-------------------	--

授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太



第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評 価 方 法	確認テスト		: 70 %
授業態度		: 30 %				
		: %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①	鈴木 翔太	
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権	鈴木 翔太	
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金	鈴木 翔太	
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等	鈴木 翔太	
第5回	組織再編	鈴木 翔太	
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太	
第7回	商法総則①	鈴木 翔太	
第8回	商法総則② 商法為法	鈴木 翔太	
第9回	金融商品取引法総論 発行開示	鈴木 翔太	
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也



第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する可能性がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意しなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也



第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例(相続)	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例(合併)	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例(分割等)	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例(吸収分割)	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例(新設法人)	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例(特定新規設立法人)	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例(高額特定資産を取得した場合)	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ(大原学園)、消費税法計算問題集Ⅱ(大原学園)、理論テキスト(大原学園)、消費税法規通達集(中央経済社)、総合計算問題集応用編(大原出版)、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--

学科	税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 % ミニテスト : 40 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。  
また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。

授業目的  
到達目標

実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。  
また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例(相続)	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例(合併)	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例(分割等)	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例(吸収分割)	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例(新設法人)	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例(特定新規設立法人)	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例(高額特定資産を取得した場合)	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ(大原学園)、消費税法計算問題集Ⅱ(大原学園)、理論テキスト(大原学園)、消費税法規通達集(中央経済社)、総合計算問題集応用編(大原出版)、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、年内完結問題集(大原学園)、完全合格問題集(大原学園)

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		120時間	
			単位数		4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回	
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。					
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也	
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也	
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也	
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也	
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也	
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也	



第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
---------------------	---

実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
---------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制 (概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制 (合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制 (分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨(引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES(デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

<p>準備学習等</p>	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合があります。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合があります。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意しなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回
			成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 50 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績 評価 方法	筆記試験
演習問題	: 50 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。

授業目的  
到達目標

各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。  
また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %	
				演習問題 : 50 %	
				授業態度 : 20 %	
: %					
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %	: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意しなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績 評価 方法	筆記試験
演習問題	: 50 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書（別表1及別表4・別表5等）を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科 (2年課程) ・ 税理士会計士学科 (2年4ヶ月課程) ・ 税理士会計士学科 (3年課程) ・ 税理士会計士学科 (4年課程) ・ 税理士会計士専攻学科 (1年課程)
学年	1学年 ・ 2学年 ・ 3学年 ・ 4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---



教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す  
ること。

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と  
いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ  
シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決  
算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。

授業目的  
到達目標

本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、  
キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし  
て、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す  
ること。

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストV、問題V、答案用紙V、解答解説V なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
確認テスト : 10 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。

授業目的  
到達目標

本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				



教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企 業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学 習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び 持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達 目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結(段階取得)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結(子会社株式の追加 取得、一部売却)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結(連結除外)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結(株主割当有償増 資、第三者割当有償増資)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結(子会社の新株予約 権、自己株式)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会 計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範 囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---



<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評 価 方 法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				%	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①	鈴木 翔太	
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権	鈴木 翔太	
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金	鈴木 翔太	
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等	鈴木 翔太	
第5回	組織再編	鈴木 翔太	
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太	
第7回	商法総則①	鈴木 翔太	
第8回	商法総則② 商法為法	鈴木 翔太	
第9回	金融商品取引法総論 発行開示	鈴木 翔太	
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透



第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	10回
			成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。			
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表（持分法）、企業結合と事業分離			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選定の別	選定
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
	: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	



準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

		学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)		
		学年	1学年・2学年・3学年・4学年		
科目名	企業法演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	30時間	
			単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数	10回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。				
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。				
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	設立、株式①			鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①			鈴木 翔太	
第3回	機関②			鈴木 翔太	
第4回	資金調達			鈴木 翔太	
第5回	社債、計算			鈴木 翔太	
第6回	組織再編①			鈴木 翔太	
第7回	組織再編②			鈴木 翔太	
第8回	持分会社等			鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為			鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法			鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 % ミニテスト : 40 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--



学科	税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 % ミニテスト : 40 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			

## 準備学習等

消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。  
また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。  
なお、各回において復習のための総合問題を解答します。

教科書  
参考書等

消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、年内完結問題集（大原学園）、完全合格問題集（大原学園）

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制 (概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制 (合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制 (分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨(引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES(デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

準備学習等	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
教科書 参考書等	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合がある。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回
			成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 50 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: % : %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。

授業目的  
到達目標

各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。  
また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	資産と負債、棚卸資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	純資産、財務諸表、金融商品	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	ストックオプション、リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第9回	連結財務諸表(持分法)、企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	



第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヶ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立、株式①	鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①	鈴木 翔太	
第3回	機関②	鈴木 翔太	
第4回	資金調達	鈴木 翔太	
第5回	社債、計算	鈴木 翔太	
第6回	組織再編①	鈴木 翔太	
第7回	組織再編②	鈴木 翔太	
第8回	持分会社等	鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為	鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法	鈴木 翔太	



準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的、 簿記一巡の手続き、 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金、消費税、法人税等の決算整理 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、 買掛金、返品、分記法の記帳 方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表 の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品および仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳および当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 50 %
				ミニテスト	: 30 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

第8回	直前対策講義実施、解説 仕訳：債権・債務 個別問題：商品有高帳 模擬試験問題演習・解説②	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) 日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)				
備考	授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一	授業回数	5回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。		
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 問題演習・解説 直前模擬試験 第1回	熊谷 茜美 工藤 英一	
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回	熊谷 茜美 工藤 英一	
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回	熊谷 茜美 工藤 英一	

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。	
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版) 日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園) 2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回～第3回 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。 株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。	



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(2年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(2年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(2年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企 業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学 習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び 持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達 目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

税理士会計士学科(2年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行 制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論 及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上 とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評 価 方 法	確認テスト		: 70 %
授業態度		: 30 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員		鈴木 翔太		: %		
				: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
	: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①	鈴木 翔太	
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権	鈴木 翔太	
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金	鈴木 翔太	
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等	鈴木 翔太	
第5回	組織再編	鈴木 翔太	
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太	
第7回	商法総則①	鈴木 翔太	
第8回	商法総則② 商法為法	鈴木 翔太	
第9回	金融商品取引法総論 発行開示	鈴木 翔太	
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。



学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

税理士会計士学科(2年課程)

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意しなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。



学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		120時間	
			単位数		4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回	
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。					
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。					
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也	
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也	

税理士会計士学科(2年課程)

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也



第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制 (概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制 (合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制 (分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨(引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES(デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

準備学習等	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
教科書 参考書等	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合があります。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合があります。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
				ミニテスト	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %	
				演習問題 : 50 %	
				授業態度 : 20 %	
: %					
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %	: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意しなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士学科(2年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				



## 税理士会計士学科(2年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業(商的工業簿記)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。

授業目的  
到達目標

本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				



税理士会計士学科(2年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結（段階取得）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結（子会社株式の追加 取得、一部売却）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結（連結除外）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結（株主割当有償増 資、第三者割当有償増資）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結（子会社の新株予約 権、自己株式）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会 計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範 囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

税理士会計士学科(2年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太



第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	確認テスト		: 70 %
授業態度		: 30 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員		鈴木 翔太		: %		
				: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①	鈴木 翔太	
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権	鈴木 翔太	
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金	鈴木 翔太	
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等	鈴木 翔太	
第5回	組織再編	鈴木 翔太	
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太	
第7回	商法総則①	鈴木 翔太	
第8回	商法総則② 商法為法	鈴木 翔太	
第9回	金融商品取引法総論 発行開示	鈴木 翔太	
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	10回
			成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。			
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表（持分法）、企業結合と事業分離			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛



第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------

## 税理士会計士学科(2年課程)

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立、株式①	鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①	鈴木 翔太	
第3回	機関②	鈴木 翔太	
第4回	資金調達	鈴木 翔太	
第5回	社債、計算	鈴木 翔太	
第6回	組織再編①	鈴木 翔太	
第7回	組織再編②	鈴木 翔太	
第8回	持分会社等	鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為	鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法	鈴木 翔太	



税理士会計士学科(2年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>各回に演習問題を配布します。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	社会人総合演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	7単位
科目教員	久保田 佳子、千葉 佳名江、伊藤 浩彰、大野 直哉、中島 京哉、高橋 敬、鈴木 裕治、河野 賢一、五十嵐 久子、瀬尾 幸江、草野 淳子、長澤 千春	授業回数	40回
		成績評価方法	確認テスト : 60 %
			実技試験 : 30 %
			レポート : 10 %
			: %
科目教員のうち実務経験教員	瀬尾 幸江、草野 淳子、長澤 千春	: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。		
実務経験教員の実務経験内容	[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。 [瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。 [長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。		

授業目的 到達目標	<p>[Word・Excel]</p> <p>状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。</p> <p>「時事研究」</p> <p>最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。</p> <p>[販売管理・仕入管理務]</p> <p>売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。</p> <p>[ビジネスマナー]</p> <p>ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話対応をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話対応ができる。</p>
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の 記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管 理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関 数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	P C P パソコン実習 P C P ビジネスマナー P C P 販売仕入管理 P C P 時事(大原学園)				



備考	<p>複数学科・複数学年による合同授業となる。</p> <p>受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。</p> <p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに確認テスト等を実施し、総合的に評価する。</p> <p>実務を意識した授業であるため、追試等を実施し、実務レベルに相当する力をつけさせる。</p>
----	--

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。  
また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。

授業目的  
到達目標

消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。  
また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
---------------------	---

実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
---------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制 (概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制 (合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制 (分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨(引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES(デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

<p>準備学習等</p>	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合があります。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合があります。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意しなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也

<p>準備学習等</p>	<p>消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回
			成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 50 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也



第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績 評価 方法	筆記試験
演習問題	: 50 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書（別表1及別表4・別表5等）を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。

授業目的  
到達目標

各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。  
また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p>

学科	税理士会計士学科 (2年課程) ・ 税理士会計士学科 (2年4ヵ月課程) ・ 税理士会計士学科 (3年課程) ・ 税理士会計士学科 (4年課程) ・ 税理士会計士専攻学科 (1年課程)
学年	1学年 ・ 2学年 ・ 3学年 ・ 4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

## 税理士会計士専攻学科(1年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

## 税理士会計士専攻学科(1年課程)

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。



学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業（商的工業簿記）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストV、問題V、答案用紙V、解答解説V なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。

授業目的  
到達目標

本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。

税理士会計士専攻学科(1年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
確認テスト : 10 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	: %	: %

実務経験教員の  
実務経験に関する  
授業内容

例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。

実務経験教員の  
実務経験内容

一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。

授業目的  
到達目標

本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。

税理士会計士専攻学科(1年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企 業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学 習する。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び 持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達 目標として、筆記試験の70点以上とする。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。
-------	---

税理士会計士専攻学科(1年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結(段階取得)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結(子会社株式の追加 取得、一部売却)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結(連結除外)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結(株主割当有償増 資、第三者割当有償増資)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結(子会社の新株予約 権、自己株式)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会 計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範 囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士専攻学科(1年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行 制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論 及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上 とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	---

税理士会計士専攻学科(1年課程)

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理 士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太
第2回	変態設立事項に関する規制、設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
-------	--

<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太		授業回数	10回
			成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①			鈴木 翔太
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権			鈴木 翔太
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金			鈴木 翔太
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等			鈴木 翔太
第5回	組織再編			鈴木 翔太
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社			鈴木 翔太
第7回	商法総則①			鈴木 翔太
第8回	商法総則② 商法為法			鈴木 翔太
第9回	金融商品取引法総論 発行開示			鈴木 翔太
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度			鈴木 翔太

税理士会計士専攻学科(1年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表（持分法）、企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	



学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------

## 税理士会計士専攻学科(1年課程)

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
	: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太
第7回	監査報告論	鈴木 翔太
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間	
			単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数	10回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。				
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。				
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	設立、株式①			鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①			鈴木 翔太	
第3回	機関②			鈴木 翔太	
第4回	資金調達			鈴木 翔太	
第5回	社債、計算			鈴木 翔太	
第6回	組織再編①			鈴木 翔太	
第7回	組織再編②			鈴木 翔太	
第8回	持分会社等			鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為			鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法			鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。



学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1学年

科目名	社会人総合演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	必修
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	佐々木 謙 松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	授業回数	30回
		成績 評価 方法	レポート : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	佐々木 謙	: %	
		: %	

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	公務員として働いていく為に必要な倫理、規律、ルールがあるが、それがなぜ必要であるのか教授する。また、地方公共団体等の研修で利用されている教材を用い、実務経験教員が担当教員に対してレクチャーを行う。さらに、過去の経験から、地方行政にどういった人材が求められているか、求められる人材になるためにはどんな知識が必要であるか教授する。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	仙台市職員として長年勤務、副市長も歴任。仙台市地下鉄建設計画やプロスポーツチーム誘致等、様々な場面で地方行政に関わった。
-------------------	--

授業目的 到達目標	公共の福祉のために働く公務員として必要な倫理に関わる規則やルールなどの知識を理解し、実際に行動で示すことができる態度の育成を目的とする。実際に起きた事案を題材にQ & A形式やチェックリスト形式で公務員が持つべき倫理観を学ぶ。講義と演習を通して最終的にコンプライアンス意識を持った適切な行動ができることを目指す。また、様々な社会問題に対して、ディスカッションを通して、その解決法を考察することも目標とする。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	公務員の役割と求められる人物像	佐々木 謙	第16回	知的財産権への対応	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第2回	倫理とは何か？ コンプライアンスとは何か？	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第17回	環境への配慮	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第3回	自律性と抑止力のバランス 公務員とは何か？	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第18回	ディスカッション①	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第4回	公務の特性について 時代、環境の変化は倫理観に影響する	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第19回	ディスカッション②	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第5回	ノブレスオブリッジ 求心力を広げる	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第20回	ディスカッション③	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第6回	職場でのコミュニケーション あるべき姿からありたい姿へ	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第21回	事例研究	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第7回	不祥事の温床 法精神を体現する	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第22回	事例研究	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎

行政公務員学科(2年課程)

第8回	不祥事とは何か？ 倫理の腐敗と頹廃	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第23回	事例研究	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第9回	公務外の不祥事はなぜ起こる？	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第24回	校外研修事前準備	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第10回	仕事に対する姿勢・服務規律	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第25回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第11回	贈収賄や業務上横領の防止	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第26回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第12回	交通法規の遵守	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第27回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第13回	個人情報の保護 情報セキュリティ対策	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第28回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第14回	人権問題	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第29回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第15回	説明責任・クレーム対応	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第30回	公務員として働くために	佐々木 謙

準備学習等	講義後、その内容を元にした課題やレポートの提出を行い、成績を評価する。レポートについては授業中にもある程度記入する時間を設けるが、時間内に終わらなかった分については各自取り組み、後日必ず提出すること。
教科書 参考書等	公務員倫理を考えるオンデマンド版（株式会社時事通信出版局）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性 がある。

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	実技試験 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁における処理システム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	社会人として必要なパソコンでの文書作成能力を養成することを目的とする。文書作成能力の養成においては知識や技能を習得するだけではなく将来関わるであろう業務の遂行を意識しながら、正確さや迅速さを追求した事務処理能力の向上を目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト(文字書式・拡張書式・段落書式)	大庄司 文子	
第2回	文書作成ソフト(タブとリーダー・段組み・箇条書き)	大庄司 文子	
第3回	文書作成ソフト(段落番号・ドロップキャップ・スタイル)	大庄司 文子	
第4回	文書作成ソフト(ページ設定と印刷設定)	大庄司 文子	
第5回	文書作成ソフト(テキスト編集・ヘッダーとフッター)	大庄司 文子	
第6回	文書作成ソフト(表のデザインとレイアウト)	大庄司 文子	
第7回	文書作成ソフト(オブジェクトの作成・図と図形の書式)	大庄司 文子	

第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司 文子
第9回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第10回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第11回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第12回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第13回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第14回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第15回	文書作成練習問題	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自の文書処理技能の習熟度に応じた自主的な演習の時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する可能性がある。また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション能力	授業形態	
		演習	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	ビジネスシーンを想定したプレゼンテーション能力の向上を目的とする。 ビジネスシーンで即戦力となれるようパワーポイントの基礎知識を身に付け、プレゼンテーション技能認定試験に合格することを到達目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	プレゼンテーション技能(基礎知識)	大庄司 文子	
第2回	プレゼンテーション技能(基本操作)	大庄司 文子	
第3回	プレゼンテーション技能(環境の設定と変更)	大庄司 文子	
第4回	プレゼンテーション技能(書式設定)	大庄司 文子	
第5回	プレゼンテーション技能(スライド)	大庄司 文子	
第6回	プレゼンテーション技能(ファイル)	大庄司 文子	
第7回	プレゼンテーション技能(編集)	大庄司 文子	

第8回	プレゼンテーション技能（罫線と表）	大庄司 文子
第9回	プレゼンテーション技能（オブジェクト）	大庄司 文子
第10回	プレゼンテーション技能（校閲）	大庄司 文子
第11回	プレゼンテーション技能 練習問題①	大庄司 文子
第12回	プレゼンテーション技能 練習問題②	大庄司 文子
第13回	プレゼンテーション技能 練習問題③	大庄司 文子
第14回	プレゼンテーション技能 練習問題④	大庄司 文子
第15回	プレゼンテーション技能 練習問題⑤	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自のプレゼンテーション能力の習熟度に応じた自主的な演習時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	プレゼンテーション技能認定試験 問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する場合がある。	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1 学年

科目名	社会人基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 30 %
			平常点 : 30 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	基礎的なパソコンスキルや電話応対など即戦力として活躍できる人材となることを授業目的とし、大原学園独自のPCP(プレ・キャリア・プログラム)の授業を中心に行っていく。パソコンスキルにおいては文書作成ソフトの実践的な使用法を学ぶことで、ビジネス文書をスムーズに作成できるようになることを到達目標とする。電話応対は敬語などの正しい言葉遣いを用いてスムーズな応対ができるようになることを到達目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト(文字書式・拡張書式・段落書式)	大庄司文子	
第2回	文書作成ソフト(タブとリーダー・段組み・箇条書き)	大庄司文子	
第3回	文書作成ソフト(段落番号・ドロップキャップ・スタイル)	大庄司文子	
第4回	文書作成ソフト(ページ設定と印刷設定)	大庄司文子	
第5回	文書作成ソフト(テキスト編集・ヘッダーとフッター)	大庄司文子	
第6回	文書作成ソフト(表のデザインとレイアウト)	大庄司文子	
第7回	文書作成ソフト(オブジェクトの作成・図と図形の書式)	大庄司文子	

第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司文子
第9回	文書作成練習問題①	大庄司文子
第10回	文書作成練習問題②	大庄司文子
第11回	文書作成練習問題③	大庄司文子
第12回	文書作成模擬問題①	大庄司文子
第13回	文書作成模擬問題②	大庄司文子
第14回	文書作成模擬問題③	大庄司文子
第15回	文書作成模擬問題④	大庄司文子
第16回	文書作成模擬問題⑤	大庄司文子
第17回	文書作成模擬問題⑥	大庄司文子
第18回	文書作成模擬問題⑦	大庄司文子
第19回	職場のマナー（社会人の心構えと職場のマナー）	大庄司文子
第20回	職場のマナー（仕事の進め方と報・連・相）	大庄司文子
第21回	挨拶と敬語（挨拶の種類・笑顔・お辞儀）	大庄司文子
第22回	挨拶と敬語（正しい敬語の使い方・応対の基本）	大庄司文子
第23回	電話応対①（電話応対のマナー）	大庄司文子
第24回	電話応対②（電話の受け方、かけ方）	大庄司文子
第25回	効果測定①（敬語の基本・電話応対の基本）	大庄司文子
第26回	電話応対③（状況別の電話応対）	大庄司文子
第27回	効果測定②（状況別の電話応対）	大庄司文子
第28回	効果測定③（電話応対実技）	大庄司文子



第29回	文書作成過去問題演習①	大庄司文子
第30回	文書作成過去問題演習②	大庄司文子
準備学習等	予習は不要であるが、授業で進んだところまでの復習をしっかりと行うこと。パソコンを使っただけの授業が多いため、復習にあたって自宅にパソコンがない学生は校内のパソコン教室を使用しても良い。その場合は科目教員にあらかじめ申し出ること。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験3級問題集（株式会社ウィネット） サーティファイWord文書処理技能認定試験1.2級問題集（株式会社ウィネット） PCPビジネスマナー（大原出版）	
備考	授業計画の各回の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する可能性がある。また、パソコンを使用しない授業については状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
			ミニテスト : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。 確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。	
教科書 参考書等	ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス) ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&問題集 (成美堂出版) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。	

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(1年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(1年課程)
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

行政公務員学科(2年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業に必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## 行政公務員学科(2年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : : : :
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊



第4回	小売業の類型(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック(カリアック) 販売士2級演習問題集(カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	方法	: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提 とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とす る。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格でき る能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考 え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング（問題演習） マーチャンダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	Excel表計算技能		授業形態	講義
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	菊地 裕美		授業回数	10回
			成績 評価 方法	実技試験 : 50 %
				知識試験 : 30 %
				授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Excelによる操作方法			
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）			
授業目的 到達目標	PCを用いて簡単なワークシートの作成とデータの入力ができるようにする。 また、タイピングソフトを使い入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス キーボード入力方法 フォルダ管理	菊地 裕美	第6回	基本練習4 罫線の引き方	菊地 裕美
第2回	Excelの画面構成、コピー 移動方法の確認	菊地 裕美	第7回	基本練習5 関数1 基本関数	菊地 裕美
第3回	基本練習1 Shift、Ctrlの使い 方	菊地 裕美	第8回	基本練習6 関数2 ROUND系、RANK、IF、等	菊地 裕美
第4回	基本練習2 オートフィル機能の使い方	菊地 裕美	第9回	基本練習7 グラフ	菊地 裕美
第5回	基本練習3 行・列の挿入と削除 ウィンドウ枠の固定と解除	菊地 裕美	第10回	基本練習8 並べ替えとフィルター	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				



教科書 参考書等	オリジナルテキストとデータを使用
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 Excel表計算技能は、上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	2 学年

科目名	社会人総合演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	実技試験 : 50 % 平常点 : 50 % : : :
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: % :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	社会人として即戦力で活躍できる人材になることを目的とし、Excelの基礎知識を習得し、実践できるようになることを目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	オフィスExcel基礎 (Excelの基本操作)	大庄司 文子
第2回	オフィスExcel基礎 (データの入力・編集)	大庄司 文子
第3回	オフィスExcel基礎 (編集1、表示形式設定)	大庄司 文子
第4回	オフィスExcel基礎 (編集2、行・列の挿入・削除)	大庄司 文子
第5回	オフィスExcel基礎 (グラフと図形の作成1)	大庄司 文子
第6回	オフィスExcel基礎 (グラフと図形の作成2)	大庄司 文子
第7回	オフィスExcel基礎 (グラフと図形の作成3)	大庄司 文子
第8回	オフィスExcel基礎 (ブックの利用と管理)	大庄司 文子
第9回	オフィスExcel基礎 (統計・論理・日付関数)	大庄司 文子

第10回	オフィスExcel基礎（データベース機能）	大庄司 文子
第11回	オフィスExcel基礎（データの抽出・並び替え）	大庄司 文子
第12回	オフィスExcel基礎（練習問題1.2）	大庄司 文子
第13回	オフィスExcel基礎（練習問題3.4）	大庄司 文子
第14回	オフィスExcel基礎（練習問題5.6）	大庄司 文子
第15回	オフィスExcel基礎（総まとめ）	大庄司 文子
準備学習等	・ 予習の必要はない。各回の授業をしっかりと復習すること。	
教科書 参考書等	・ サーティファイExcel表計算処理技能認定試験問題集（サーティファイ）	
備考	・ 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。	

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二		授業回数	40回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 80 %
				授業態度 : 20 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客のみ ならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。学習内容の理解を到達目標とし、 日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2級取得を目指す。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬

第7回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第8回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略的展開	山下 健二	第29回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャンダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第30回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャンダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第31回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャンダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第32回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャンダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第33回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャンダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャンダイジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャンダイジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーションの展開視点	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬

準備学習等

学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。  
学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。

教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part1（TAC出版） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part2（TAC出版）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性がります。

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	4単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 20 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2級合格レベルに引き上げることを目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型(問題演習) 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演習) 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演習) LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演習) 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬

第6回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャндаイジング（問題演習） マーチャндаイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第22回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第8回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第23回	マーケティング（問題演習） 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャндаイジング（問題演習） 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第24回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第25回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャндаイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第26回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャндаイジング（問題演習） 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第27回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第13回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	山下 健二	第28回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション（問題演習） 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第29回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬	第30回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	全範囲の理解度を再確認します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part1（TAC出版） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part2（TAC出版）				



備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性がります。
----	--

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	40回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 % 授業態度 : 20 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学 習することを目的とする。学習内容の理解を到達目標とし、日本商工会議所主催リテ ールマーケティング(販売士)検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
32E3918	小売業の類型 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング 小売業のマーケティングの基 本	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬
第7回	小売業の類型 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬

第8回	小売業の類型 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャダイジング 商品の基本	中島 京哉 高橋 敬	第29回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第30回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第31回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第32回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第33回	マーケティング 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャダイジング 在庫管理の基本	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャダイジング 販売管理の基本	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャダイジング 総合問題演習	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 店舗管理の基本	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 包装技術の基本	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（基礎編）リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応 （キャリアック） 販売士（リテールマーケティング）3級問題集part 1（TAC出版） 販売士（リテールマーケティング）3級問題集part 2（TAC出版）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級演習		授業形態		演習	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		90時間	
			単位数		4単位	
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二		授業回数		30回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 80 %
授業態度		: 20 %				
		: %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。					
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り 組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定3 級合格レベルに引き上げることを目標とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演 習)	中島 京哉 高橋 敬	
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演 習)	中島 京哉 高橋 敬	
第3回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演 習)	中島 京哉 高橋 敬	
第4回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの基 本	中島 京哉 高橋 敬	
第5回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬	
第6回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬	
第7回	マーチャンダイジング(問題演 習) 商品の基本	山下 健二	第22回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬	

## 行政公務員学科(2年課程)

第8回	マーチャンドライジング(問題演習) マーチャンドライジングの基本	山下 健二	第23回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャンドライジング(問題演習) 商品計画の基本	山下 健二	第24回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャンドライジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第25回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャンドライジング(問題演習)	山下 健二	第26回	過去試験問題演習・解説(第87回)	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャンドライジング(問題演習)	山下 健二	第27回	過去試験問題演習・解説(第85回)	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャンドライジング(問題演習)	山下 健二	第28回	過去試験問題演習・解説(第84回)	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第29回	過去試験問題演習・解説(第83回)	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第30回	過去試験問題演習・解説(第82回)	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック(基礎編) リテールマーケティング(販売士) 検定試験3級対応 (キャリアック) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part1 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part2 (TAC出版)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級I	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
			課題提出 : 30 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をとおし分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	秘書の仕事の仕方を通してより高度な職場常識の理解を深め、オフィス内外で業務を行う際に必要な技能の習得と向上を図る。「応用の職場常識」といわれる秘書準1級の内容にふさわしい感じのよい立ち居振る舞いや話し方などを実践できるとともに、状況に応じた「より適切な」判断と柔軟な対応ができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	検定試験の受け方・基礎知識 必要とされる資質 上級秘書の資質と能力	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	必要とされる資質 対人関係の心得	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識 秘書の機能と役割	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識 秘書の機能と役割 秘書の業務	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー-接遇 人間関係と話し方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	秘書技能 情報管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	秘書技能 日程管理・オフィス管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験の予備知識 試験の概要と実際の流れ	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能 会議	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。				
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	5単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子		授業回数	30回
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江		成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
				課題・レポート : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をとおし分かりやすく説明・指導する。			
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験をもつ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験をもつ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。			
授業目的 到達目標	演習を中心とした授業を通して実践力を高め、オフィス内外の業務に必要な高度な技能の習得と向上を図り検定試験の合格に繋げる。また、上級秘書としてのあり方を理解した立ち居振る舞いや話し方などが実践できることに加え、状況に応じて「より適切な」判断と柔軟な対応をとることができる能力を育む。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	理論問題・実技問題5 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	理論問題・実技問題6 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	理論問題・実技問題7 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	理論問題・実技問題8 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子



第5回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	理論問題・実技問題9 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第21回	理論問題・実技問題10 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第22回	理論問題・実技問題11 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第23回	理論問題・実技問題12 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	総合問題演習1	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第24回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	総合問題演習2	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第25回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第11回	総合問題演習3	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第26回	実技演習 慶事の対応・弔事の対応	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第12回	理論問題・実技問題1 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第27回	実技演習 ファイリング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第13回	理論問題・実技問題2 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第28回	実技演習 電話応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第14回	理論問題・実技問題3 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第29回	実技演習 来客応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第15回	理論問題・実技問題4 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第30回	実技総合演習 ロールプレイング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
課題 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業を通して分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	「応用の職場常識」といわれる秘書検定準1級について講義や問題演習を行いながら解説を加え知識の定着を促す。また、秘書の仕事の仕方やオフィス内外で業務を行う際に必要となる技能を習得し、感じのよい話し方や上級秘書にふさわしい立ち居振る舞いが実践できることにより、検定試験の合格を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス（試験について） 一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	過去問題1 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	過去問題2 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	過去問題3 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	過去問題4 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	過去問題5 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	過去問題6 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。				
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績 評価 方法	確認試験 : 50 %
			ミニテスト : 50 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの基本的な用語と基本操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験3級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Excelの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Excel基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Excel基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Excel基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Excel基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Excel基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	Excel基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Excel基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集（株式会社サーティファイ） Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科（2年課程）・経理事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅱ	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間	
		単位数	4単位	
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	30回	
		成績評価方法	確認試験	: 50 %
			ミニテスト	: 50 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ			
実務経験教員の実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター			
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験2級の取得を目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel問題演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel問題演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	Excel問題演習⑯ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel問題演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	Excel問題演習⑰ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel問題演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	Excel問題演習⑱ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel問題演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	Excel問題演習⑲ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel問題演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第21回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Excel問題演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第22回	Excel問題演習㉑ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Excel問題演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第23回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel問題演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第24回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel問題演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第25回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第11回	Excel問題演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第26回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第12回	Excel問題演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第27回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第13回	Excel問題演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第28回	直前模擬問題⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第14回	Excel問題演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第29回	直前模擬問題⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第15回	Excel問題演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第30回	直前模擬問題⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年のよる合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	O A 事務学科（2年課程）・経理事務学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年・3 学年

科目名	文書処理ソフト基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	3単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの応用的な用語と操作を習得し、サティファイ主催Word文書処理 技能認定試験2級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Wordの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子



第8回	Word基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Word文書処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	表計算ソフト応用		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数	20回
			成績 評価 方法	確認試験
ミニテスト	: 50 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター			
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子	第11回	Excel応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第2回	Excel応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第12回	Excel応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第3回	Excel応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第13回	Excel応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第4回	Excel応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第14回	Excel応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第5回	Excel応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第15回	Excel応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第6回	Excel応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第16回	Excel応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第7回	Excel応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第8回	Excel応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第9回	Excel応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第10回	Excel応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子

準備学習等	Excel検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	文書処理ソフト応用	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績 評価 方法	確認試験 : 50 %
			ミニテスト : 50 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %
		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Word応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	Word検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	プレゼンテーションソフト	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびPowerPointの基本的な用語と操作から応用的な操作までを習得し、サー ティファイ主催PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、 PowerPointの画面構成	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	PowerPoint基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	PowerPoint基本操作①	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	PowerPoint応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	PowerPoint基本操作②	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	PowerPoint応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	PowerPoint基本操作③	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	PowerPoint応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	PowerPoint基本操作④	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	PowerPoint応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	PowerPoint基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	PowerPoint応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	PowerPoint基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	PowerPoint応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	PowerPoint基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	PowerPoint基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	PowerPoint基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	PowerPoint2016クイックマスター（株式会社ウイネット）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（3年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	社会人総合演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子・千葉 佳名江・伊藤 浩彰・ 大野 直哉・中島 京哉 高橋 敬・ 鈴木 裕治・河野 賢一・五十嵐 久子・ 瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春		授業回数	40回	
			成績 評価 方法	確認テスト	: 60 %
				実技試験	: 30 %
				レポート	: 10 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。				
実務経験教員の 実務経験内容	<p>[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。</p>				



授業目的 到達目標	<p>[Word・Excel]</p> <p>状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。</p> <p>「時事研究」</p> <p>最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。</p> <p>[販売管理・仕入管理務]</p> <p>売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。</p> <p>[ビジネスマナー]</p> <p>ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。</p>
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話応対ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	PCPパソコン実習 PCPビジネスマナー PCP販売仕入管理 PCP時事(大原学園)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がある。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2学年

科目名	マナー実習（セールス）	授業形態	実習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	久保田佳子・高橋敬・中島京哉 千葉佳名江・瀬尾幸江・長澤千春	授業回数	20回
		成績評価方法	実技試験 : 80 % 授業態度 : 20 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾幸江・長澤千春		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	丁寧な電話応対や名刺交換の基本、相手の心理を理解した販売や商品説明の仕方等をロールプレイングを通して具体的に指導する。実践力を養うとともに、社会人として滞りなく実務を行うための臨機応変さを身につけさせる。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔瀬尾幸江〕 一般企業にて総務・労務・経理事務、営業事務等を経験。接客販売および宿泊施設の電話交換業務に携わった経験あり。 秘書技能検定1級およびサービス接客検定1級、電話実践級を取得。 〔長澤千春〕 専門学校にて教務事務を担当したほか高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験あり。サービス接客検定1級を取得。		
授業目的 到達目標	1. 好印象を与える話し方や、状況に応じた立ち居振る舞いが自然にできる。 2. 内定先の取扱商品（サービス）や事業内容の知識を深め、企業の思いを理解する。 3. 人前で話すことに慣れるとともに、さまざまな客に対し柔軟に対応できる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	接客マナー 接客販売の心得 お客様心理の理解	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第11回	商品説明 説明内容に関する知識 お客様にとってのメリット	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第2回	接客マナー 店内接客の基本 接客基本用語 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第12回	商品説明 商品説明の準備 ポイントシート作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第3回	接客マナー 状況別の店内接客 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第13回	商品説明 話の組み立て方 シナリオ作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第4回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第14回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第5回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第15回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第6回	接客マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第16回	商品説明 好感をもたれる商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第7回	営業マナー 訪問のマナー・基本用語 アポイントメント ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第17回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第8回	営業マナー 受付・応接室でのポイント 受付訪問・名刺交換 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第18回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑤	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第9回	営業マナー 商談の進め方 訪問後のフォロー ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第19回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑥	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第10回	営業マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第20回	商品説明 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
準備学習等	<p>復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践を繰り返すなどして自分の習慣にすること。</p>				
教科書 参考書等	「ビジネスマナー」テキスト				
備考	<p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに効果測定等を実施し総合的に評価する。実務を意識した授業のため、効果を測定できなかった場合は追試等を実施し、実務レベルに対応する力をつけさせる。</p> <p>複数学科・複数学年による合同授業となる。受講生の習熟の度合や進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴い、授業内容を変更する場合がある。</p>				

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1学年

科目名	社会人総合演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	必修
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	佐々木 謙 今野 洸 佐々木 智也	授業回数	30回
		成績評価方法	レポート : 70 %
平常点 : 30 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	佐々木 謙	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	公務員として働いていくために必要な倫理、規律、ルールがあるが、それらがなぜ必要であるのかを教授する。その後、地方公共団体等の研修で利用されている教材を用い、実務経験教員と担当教員が打ち合わせを行い、レクチャーを受けた後に、各項目について授業し理解をしてもらう。また過去の経験から、地方行政にどういった人材が求められているか、求められる人材になるために必要な知識を教授する。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	仙台市職員として長年勤務、副市長も歴任。地下鉄建設やスポーツチーム誘致など、様々な場面で地方行政に携わった。
-------------------	--

授業目的 到達目標	社会人、特に公共のために働く公務員として必要な倫理に関わる規則やルールなどの知識を理解し、行動することができるようになることを授業目的とする。実際起こった事案を元に、Q&A形式やチェックリスト形式、グループディスカッション形式で公務員が持つべき意識を学んでいく。最終的にコンプライアンス意識を持った行動ができるようになること、ディスカッションにより周囲との相互理解を深められるようになることを到達目標とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	公務員の役割と求められる人物像	佐々木 謙
第2回	倫理とは何か？ コンプライアンスとは何か？	今野 洸 佐々木 智也
第3回	自律性と抑止力のバランス 公務員とは何か？	今野 洸 佐々木 智也
第4回	公務の特性について 時代、環境の変化は倫理観に影響する	今野 洸 佐々木 智也
第5回	ノブレスオブリッジ 求心力を広げる	今野 洸 佐々木 智也
第6回	職場でのコミュニケーション あるべき姿からありたい姿へ	今野 洸 佐々木 智也
第7回	不祥事の温床 法精神を体現する	今野 洸 佐々木 智也



第8回	不祥事とは何か？ 倫理の腐敗と頹廃	今野 洸 佐々木 智也
第9回	公務外の不祥事はなぜ起こる？	今野 洸 佐々木 智也
第10回	仕事に対する姿勢・サービス規律①	今野 洸 佐々木 智也
第11回	仕事に対する姿勢・サービス規律②	今野 洸 佐々木 智也
第12回	仕事に対する姿勢・サービス規律③	今野 洸 佐々木 智也
第13回	贈収賄や業務上横領の防止①	今野 洸 佐々木 智也
第14回	贈収賄や業務上横領の防止②	今野 洸 佐々木 智也
第15回	交通法規の遵守	今野 洸 佐々木 智也
第16回	個人情報の保護 情報セキュリティ対策①	今野 洸 佐々木 智也
第17回	個人情報の保護 情報セキュリティ対策②	今野 洸 佐々木 智也
第18回	人権問題	今野 洸 佐々木 智也
第19回	説明責任・クレーム対応	今野 洸 佐々木 智也
第20回	知的財産権への対応	今野 洸 佐々木 智也
第21回	環境への配慮	今野 洸 佐々木 智也
第22回	実際に起こった事例①	今野 洸 佐々木 智也
第23回	実際に起こった事例②	今野 洸 佐々木 智也
第24回	グループディスカッションの進め方と注意すべき点について	今野 洸 佐々木 智也
第25回	グループディスカッション①	今野 洸 佐々木 智也
第26回	グループディスカッション②	今野 洸 佐々木 智也
第27回	グループディスカッション③	今野 洸 佐々木 智也
第28回	グループディスカッション④	今野 洸 佐々木 智也

第29回	グループディスカッション⑤	今野 洸 佐々木 智也
第30回	公務員として働くために	佐々木 謙
準備学習等	講義後、その内容を元にした課題やレポートの提出を行い、成績を評価する。レポートについては授業中にもある程度記入する時間を設けるが、時間内に終わらなかった分については各自取り組み、後日必ず提出すること。	
教科書 参考書等	公務員倫理を考えるオンデマンド版（株式会社時事通信出版局）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する可能性がある。また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。（グループディスカッションなどオンデマンド形式での提供ができない場合は除く）授業1回あたり1時間を想定している。	

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1 学年

科目名	社会人基礎Ⅱ	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	大庄司 文子 今野 洸 佐々木 智也	授業回数	30回	
		成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
			ミニテスト	: 30 %
			平常点	: 30 %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。			
授業目的 到達目標	基礎的なパソコンスキルや電話応対など即戦力として活躍できる人材となることを授業目的とし、大原学園独自のPCP(プレ・キャリア・プログラム)の授業を中心に行っていく。パソコンスキルにおいては文書作成ソフトの実践的な使用法を学ぶことで、ビジネス文書をスムーズに作成できるようになることを到達目標とする。電話応対は敬語などの正しい言葉遣いを用いてスムーズな応対ができるようになることを到達目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	文書作成ソフト(文字書式・拡張書式・段落書式)	大庄司 文子		
第2回	文書作成ソフト(タブとリーダー・段組み・箇条書き)	大庄司 文子		
第3回	文書作成ソフト(段落番号・ドロップキャップ・スタイル)	大庄司 文子		
第4回	文書作成ソフト(ページ設定と印刷設定)	大庄司 文子		
第5回	文書作成ソフト(テキスト編集・ヘッダーとフッター)	大庄司 文子		
第6回	文書作成ソフト(表のデザインとレイアウト)	大庄司 文子		
第7回	文書作成ソフト(オブジェクトの作成・図と図形の書式)	大庄司 文子		

第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司 文子
第9回	文書作成練習問題①	大庄司 文子
第10回	文書作成練習問題②	大庄司 文子
第11回	文書作成練習問題③	大庄司 文子
第12回	文書作成模擬問題①	大庄司 文子
第13回	文書作成模擬問題②	大庄司 文子
第14回	文書作成模擬問題③	大庄司 文子
第15回	文書作成模擬問題④	大庄司 文子
第16回	文書作成模擬問題⑤	大庄司 文子
第17回	文書作成模擬問題⑥	大庄司 文子
第18回	文書作成模擬問題⑦	大庄司 文子
第19回	職場のマナー（社会人の心構えと職場のマナー）	今野 洸 佐々木 智也
第20回	職場のマナー（仕事の進め方と報・連・相）	今野 洸 佐々木 智也
第21回	挨拶と敬語（挨拶の種類・笑顔・お辞儀）	今野 洸 佐々木 智也
第22回	挨拶と敬語（正しい敬語の使い方・応対の基本）	今野 洸 佐々木 智也
第23回	電話応対①（電話応対のマナー）	今野 洸 佐々木 智也
第24回	電話応対②（電話の受け方、かけ方）	今野 洸 佐々木 智也
第25回	効果測定①（敬語の基本・電話応対の基本）	今野 洸 佐々木 智也
第26回	電話応対③（状況別の電話応対）	今野 洸 佐々木 智也
第27回	効果測定②（状況別の電話応対）	今野 洸 佐々木 智也
第28回	効果測定③（電話応対実技）	今野 洸 佐々木 智也

第29回	文書作成過去問題演習①	大庄司 文子
第30回	文書作成過去問題演習②	大庄司 文子
準備学習等	予習は不要であるが、授業で進んだところまでの復習をしっかりと行うこと。パソコンを使っただけの授業が多いため、復習にあたって自宅にパソコンがない学生は校内のパソコン教室を使用しても良い。その場合は科目教員にあらかじめ申し出ること。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験3級問題集（株式会社ウィネット） サーティファイWord文書処理技能認定試験1.2級問題集（株式会社ウィネット） PCPビジネスマナー（大原出版）	
備考	授業計画の各回の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する可能性がある。また、パソコンを使用しない授業については状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	実技試験 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁における処理システム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	社会人として必要なパソコンでの文書作成能力を養成することを目的とする。文書作成能力の養成においては知識や技能を習得するだけではなく将来関わるであろう業務の遂行を意識しながら、正確さや迅速さを追求した事務処理能力の向上を目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト（文字書式・拡張書式・段落書式）	大庄司 文子	
第2回	文書作成ソフト（タブとリーダー・段組み・箇条書き）	大庄司 文子	
第3回	文書作成ソフト（段落番号・ドロップキャップ・スタイル）	大庄司 文子	
第4回	文書作成ソフト（ページ設定と印刷設定）	大庄司 文子	
第5回	文書作成ソフト（テキスト編集・ヘッダーとフッター）	大庄司 文子	
第6回	文書作成ソフト（表のデザインとレイアウト）	大庄司 文子	
第7回	文書作成ソフト（オブジェクトの作成・図と図形の書式）	大庄司 文子	
第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司 文子	

第9回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第10回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第11回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第12回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第13回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第14回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第15回	文書作成練習問題	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自の文書処理技能の習熟度に応じた自主的な演習の時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する可能性がある。また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション能力	授業形態		
		演習	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。			
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。			
授業目的 到達目標	ビジネスシーンを想定したプレゼンテーション能力の向上を目的とする。 ビジネスシーンで即戦力となれるようパワーポイントの基礎知識を身に付け、プレゼンテーション技能認定試験に合格することを到達目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容		科目教員	
第1回	プレゼンテーション技能 (基礎知識)		大庄司 文子	
第2回	プレゼンテーション技能 (基本操作)		大庄司 文子	
第3回	プレゼンテーション技能 (環境の設定と変更)		大庄司 文子	
第4回	プレゼンテーション技能 (書式設定)		大庄司 文子	
第5回	プレゼンテーション技能 (スライド)		大庄司 文子	
第6回	プレゼンテーション技能 (ファイル)		大庄司 文子	
第7回	プレゼンテーション技能 (編集)		大庄司 文子	



第8回	プレゼンテーション技能（罫線と表）	大庄司 文子
第9回	プレゼンテーション技能（オブジェクト）	大庄司 文子
第10回	プレゼンテーション技能（校閲）	大庄司 文子
第11回	プレゼンテーション技能 練習問題①	大庄司 文子
第12回	プレゼンテーション技能 練習問題②	大庄司 文子
第13回	プレゼンテーション技能 練習問題③	大庄司 文子
第14回	プレゼンテーション技能 練習問題④	大庄司 文子
第15回	プレゼンテーション技能 練習問題⑤	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自のプレゼンテーション能力の習熟度に応じた自主的な演習時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	プレゼンテーション技能認定試験 問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する場合がある。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 % ミニテスト : 30 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。 確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。	
教科書 参考書等	ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス) ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&問題集 (成美堂出版) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

行政公務員学科(1年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンドライジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業に必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンドライジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

行政公務員学科(1年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊



第4回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャライジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャライジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャライジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（カリアック） 販売士2級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	方法	: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考 え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング（問題演習） マーチャンダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1学年

科目名	社会人総合演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	必修
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	佐々木 謙 松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	授業回数	30回
		成績評価方法	レポート : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	佐々木 謙	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	公務員として働いていく為に必要な倫理、規律、ルールがあるが、それがなぜ必要であるのか教授する。また、地方公共団体等の研修で利用されている教材を用い、実務経験教員が担当教員に対してレクチャーを行う。さらに、過去の経験から、地方行政にどういった人材が求められているか、求められる人材になるためにはどんな知識が必要であるか教授する。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	仙台市職員として長年勤務、副市長も歴任。仙台市地下鉄建設計画やプロスポーツチーム誘致等、様々な場面で地方行政に関わった。
-------------------	--

授業目的 到達目標	公共の福祉のために働く公務員として必要な倫理に関わる規則やルールなどの知識を理解し、実際に行動で示すことができる態度の育成を目的とする。実際に起きた事案を題材にQ & A形式やチェックリスト形式で公務員が持つべき倫理観を学ぶ。講義と演習を通して最終的にコンプライアンス意識を持った適切な行動ができることを目指す。また、様々な社会問題に対して、ディスカッションを通して、その解決法を考察することも目標とする。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	公務員の役割と求められる人物像	佐々木 謙	第16回	知的財産権への対応	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第2回	倫理とは何か？ コンプライアンスとは何か？	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第17回	環境への配慮	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第3回	自律性と抑止力のバランス 公務員とは何か？	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第18回	ディスカッション①	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第4回	公務の特性について 時代、環境の変化は倫理観に影響する	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第19回	ディスカッション②	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第5回	ノブレスオブリッジ 求心力を広げる	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第20回	ディスカッション③	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第6回	職場でのコミュニケーション あるべき姿からありたい姿へ	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第21回	事例研究	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第7回	不祥事の温床 法精神を体現する	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第22回	事例研究	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎



法律公務員学科(2年課程)

第8回	不祥事とは何か？ 倫理の腐敗と頽廃	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第23回	事例研究	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第9回	公務外の不祥事はなぜ起こる？	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第24回	校外研修事前準備	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第10回	仕事に対する姿勢・服務規律	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第25回	校外研修	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第11回	贈収賄や業務上横領の防止	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第26回	校外研修	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第12回	交通法規の遵守	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第27回	校外研修	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第13回	個人情報の保護 情報セキュリティ対策	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第28回	校外研修	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第14回	人権問題	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第29回	校外研修	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎
第15回	説明責任・クレーム対応	松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	第30回	公務員として働くために	佐々木 謙

準備学習等	講義後、その内容を元にした課題やレポートの提出を行い、成績を評価する。レポートについては授業中にもある程度記入する時間を設けるが、時間内に終わらなかった分については各自取り組み、後日必ず提出すること。
教科書 参考書等	公務員倫理を考えるオンデマンド版（株式会社時事通信出版局）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性 がある。

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	実技試験 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁における処理システム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	社会人として必要なパソコンでの文書作成能力を養成することを目的とする。文書作成能力の養成においては知識や技能を習得するだけでなく将来関わるであろう業務の遂行を意識しながら、正確さや迅速さを追求した事務処理能力の向上を目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト（文字書式・拡張書式・段落書式）	大庄司 文子	
第2回	文書作成ソフト（タブとリーダー・段組み・箇条書き）	大庄司 文子	
第3回	文書作成ソフト（段落番号・ドロップキャップ・スタイル）	大庄司 文子	
第4回	文書作成ソフト（ページ設定と印刷設定）	大庄司 文子	
第5回	文書作成ソフト（テキスト編集・ヘッダーとフッター）	大庄司 文子	
第6回	文書作成ソフト（表のデザインとレイアウト）	大庄司 文子	

第7回	文書作成ソフト（オブジェクトの作成・図と図形の書式）	大庄司 文子
第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司 文子
第9回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第10回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第11回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第12回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第13回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第14回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第15回	文書作成練習問題	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自の文書処理技能の習熟度に応じた自主的な演習の時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する可能性がある。また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション能力	授業形態		
		演習	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。			
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。			
授業目的 到達目標	ビジネスシーンを想定したプレゼンテーション能力の向上を目的とする。 ビジネスシーンで即戦力となれるようパワーポイントの基礎知識を身に付け、プレゼンテーション技能認定試験に合格することを到達目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容		科目教員	
第1回	プレゼンテーション技能(基礎知識)		大庄司 文子	
第2回	プレゼンテーション技能(基本操作)		大庄司 文子	
第3回	プレゼンテーション技能(環境の設定と変更)		大庄司 文子	
第4回	プレゼンテーション技能(書式設定)		大庄司 文子	
第5回	プレゼンテーション技能(スライド)		大庄司 文子	
第6回	プレゼンテーション技能(ファイル)		大庄司 文子	
第7回	プレゼンテーション技能(編集)		大庄司 文子	

第8回	プレゼンテーション技能（罫線と表）	大庄司 文子
第9回	プレゼンテーション技能（オブジェクト）	大庄司 文子
第10回	プレゼンテーション技能（校閲）	大庄司 文子
第11回	プレゼンテーション技能 練習問題①	大庄司 文子
第12回	プレゼンテーション技能 練習問題②	大庄司 文子
第13回	プレゼンテーション技能 練習問題③	大庄司 文子
第14回	プレゼンテーション技能 練習問題④	大庄司 文子
第15回	プレゼンテーション技能 練習問題⑤	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自のプレゼンテーション能力の習熟度に応じた自主的な演習時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	プレゼンテーション技能認定試験 問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する場合がある。	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1学年

科目名	社会人基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 30 %
			平常点 : 30 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	基礎的なパソコンスキルや電話応対など即戦力として活躍できる人材となることを授業目的とし、大原学園独自のPCP(プレ・キャリア・プログラム)の授業を中心に行っていく。パソコンスキルにおいては文書作成ソフトの実践的な使用法を学ぶことで、ビジネス文書をスムーズに作成できるようになることを到達目標とする。電話応対は敬語などの正しい言葉遣いを用いてスムーズな応対ができるようになることを到達目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト(文字書式・拡張書式・段落書式)	大庄司文子	
第2回	文書作成ソフト(タブとリーダー・段組み・箇条書き)	大庄司文子	
第3回	文書作成ソフト(段落番号・ドロップキャップ・スタイル)	大庄司文子	
第4回	文書作成ソフト(ページ設定と印刷設定)	大庄司文子	
第5回	文書作成ソフト(テキスト編集・ヘッダーとフッター)	大庄司文子	
第6回	文書作成ソフト(表のデザインとレイアウト)	大庄司文子	
第7回	文書作成ソフト(オブジェクトの作成・図と図形の書式)	大庄司文子	

第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司文子
第9回	文書作成練習問題①	大庄司文子
第10回	文書作成練習問題②	大庄司文子
第11回	文書作成練習問題③	大庄司文子
第12回	文書作成模擬問題①	大庄司文子
第13回	文書作成模擬問題②	大庄司文子
第14回	文書作成模擬問題③	大庄司文子
第15回	文書作成模擬問題④	大庄司文子
第16回	文書作成模擬問題⑤	大庄司文子
第17回	文書作成模擬問題⑥	大庄司文子
第18回	文書作成模擬問題⑦	大庄司文子
第19回	職場のマナー（社会人の心構えと職場のマナー）	大庄司文子
第20回	職場のマナー（仕事の進め方と報・連・相）	大庄司文子
第21回	挨拶と敬語（挨拶の種類・笑顔・お辞儀）	大庄司文子
第22回	挨拶と敬語（正しい敬語の使い方・応対の基本）	大庄司文子
第23回	電話応対①（電話応対のマナー）	大庄司文子
第24回	電話応対②（電話の受け方、かけ方）	大庄司文子
第25回	効果測定①（敬語の基本・電話応対の基本）	大庄司文子
第26回	電話応対③（状況別の電話応対）	大庄司文子
第27回	効果測定②（状況別の電話応対）	大庄司文子
第28回	効果測定③（電話応対実技）	大庄司文子

第29回	文書作成過去問題演習①	大庄司文子
第30回	文書作成過去問題演習②	大庄司文子
準備学習等	予習は不要であるが、授業で進んだところまでの復習をしっかりと行うこと。パソコンを使っただけの授業が多いため、復習にあたって自宅にパソコンがない学生は校内のパソコン教室を使用しても良い。その場合は科目教員にあらかじめ申し出ること。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験3級問題集（株式会社ウィネット） サーティファイWord文書処理技能認定試験1.2級問題集（株式会社ウィネット） PCPビジネスマナー（大原出版）	
備考	授業計画の各回の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する可能性がある。また、パソコンを使用しない授業については状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	



学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 % ミニテスト : 30 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。 確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。	
教科書 参考書等	ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス) ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&問題集 (成美堂出版) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

法律公務員学科(2年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンドライジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業に必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンドライジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

法律公務員学科(2年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（カリアック） 販売士2級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	方法	: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提 とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とす る。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格でき る能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考 え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング（問題演習） マーチャンダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

第5回	リスク管理 (リスクマネジメント、生命保険の概略、生命保険商品の種類と内容、損害保険の概略、損害保険商品の種類と内容)	工藤 英一 久保田 佳子
第6回	金融資産運用 (マーケット環境の理解、預貯金等、債券、株式、投資信託)	工藤 英一 久保田 佳子
第7回	タックスプランニング (税金の分類と計算体系、所得税の仕組み、各種所得の内容)	工藤 英一 久保田 佳子
第8回	タックスプランニング (課税標準の計算、所得控除)	工藤 英一 久保田 佳子
第9回	タックスプランニング (税額控除、確定申告、個人住民税と個人事業税)	工藤 英一 久保田 佳子
第10回	不動産 (不動産の見方、不動産の取引、不動産に関する法令上の制限)	工藤 英一 久保田 佳子
準備学習等	予習の必要はない。経済(社会)や法律を学ぶことになるため、不明な点は科目教員に質問をし、次回の講義に備えること。	
教科書 参考書等	<b>【2級】</b> ファイナンシャル・プランナー2級 テキスト (大原出版) ファイナンシャル・プランナー2級 練習問題 (大原出版)  <b>【3級】</b> ファイナンシャル・プランナー3級 テキスト (大原出版) ファイナンシャル・プランナー3級 練習問題 (大原出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。ファイナンシャル・プランニング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	Excel表計算技能		授業形態	講義
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	菊地 裕美		授業回数	10回
			成績 評価 方法	実技試験 : 50 %
				知識試験 : 30 %
				授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Excelによる操作方法			
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）			
授業目的 到達目標	PCを用いて簡単なワークシートの作成とデータの入力ができるようにする。 また、タイピングソフトを使い入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス キーボード入力方法 フォルダ管理	菊地 裕美	第6回	基本練習4 罫線の引き方	菊地 裕美
第2回	Excelの画面構成、コピー 移動方法の確認	菊地 裕美	第7回	基本練習5 関数1 基本関数	菊地 裕美
第3回	基本練習1 Shift、Ctrlの使い 方	菊地 裕美	第8回	基本練習6 関数2 ROUND系、RANK、IF、等	菊地 裕美
第4回	基本練習2 オートフィル機能の使い方	菊地 裕美	第9回	基本練習7 グラフ	菊地 裕美
第5回	基本練習3 行・列の挿入と削除 ウィンドウ枠の固定と解除	菊地 裕美	第10回	基本練習8 並べ替えとフィルター	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				



教科書 参考書等	オリジナルテキストとデータを使用
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 Excel表計算技能は、上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	社会人総合演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	実技試験
平常点	: 50 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	社会人として即戦力で活躍できる人材になることを目的とし、Excelの基礎知識を習得し、実践できるようになることを目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	オフィスExcel基礎 (Excelの基本操作)	大庄司 文子	
第2回	オフィスExcel基礎 (データの入力・編集)	大庄司 文子	
第3回	オフィスExcel基礎 (編集1、表示形式設定)	大庄司 文子	
第4回	オフィスExcel基礎 (編集2、行・列の挿入・削除)	大庄司 文子	
第5回	オフィスExcel基礎 (グラフと図形の作成1)	大庄司 文子	
第6回	オフィスExcel基礎 (グラフと図形の作成2)	大庄司 文子	
第7回	オフィスExcel基礎 (グラフと図形の作成3)	大庄司 文子	
第8回	オフィスExcel基礎 (ブックの利用と管理)	大庄司 文子	

第9回	オフィスExcel基礎（統計・論理・日付関数）	大庄司 文子
第10回	オフィスExcel基礎（データベース機能）	大庄司 文子
第11回	オフィスExcel基礎（データの抽出・並び替え）	大庄司 文子
第12回	オフィスExcel基礎（練習問題1.2）	大庄司 文子
第13回	オフィスExcel基礎（練習問題3.4）	大庄司 文子
第14回	オフィスExcel基礎（練習問題5.6）	大庄司 文子
第15回	オフィスExcel基礎（総まとめ）	大庄司 文子
準備学習等	・ 予習の必要はない。各回の授業をしっかりと復習すること。	
教科書 参考書等	・ サーティファイExcel表計算処理技能認定試験問題集（サーティファイ）	
備考	・ 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。	

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	40回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 %
授業態度 : 20 %			
: %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンドライジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客のみ ならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。学習内容の理解を到達目標とし、 日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬

第7回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第8回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略的展開	山下 健二	第29回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャンダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第30回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャンダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第31回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャンダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第32回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャンダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第33回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャンダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャンダイジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャンダイジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーションの展開視点	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬

準備学習等

学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。  
学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。

<p>教科書 参考書等</p>	<p>販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part1（TAC出版） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part2（TAC出版）</p>
<p>備考</p>	<p>複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性がります。</p>

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級演習		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	90時間
			単位数	4単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二		授業回数	30回
			成績評価	筆記試験 : 80 %
				授業態度 : 20 %
			方法	: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り 組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2 級合格レベルに引き上げることを目標とする。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型(問題演習) 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演習) 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演習) LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演習) 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の考 え方	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の実 施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬

第6回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャндаイジング（問題演習） マーチャндаイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第22回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第8回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第23回	マーケティング（問題演習） 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャндаイジング（問題演習） 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第24回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第25回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャндаイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第26回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャндаイジング（問題演習） 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第27回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第13回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	山下 健二	第28回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション（問題演習） 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第29回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬	第30回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	全範囲の理解度を再確認します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part1（TAC出版） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part2（TAC出版）				



備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性がります。
----	--

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	120時間
			単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二		授業回数	40回
			成績評価	筆記試験 : 80 %
				授業態度 : 20 %
			方法	: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業で必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学 習することを目的とする。学習内容の理解を到達目標とし、日本商工会議所主催リテ ールマーケティング(販売士)検定3級取得を目指す。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
32E3918	小売業の類型 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング 小売業のマーケティングの基 本	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬
第7回	小売業の類型 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬

第8回	小売業の類型 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャダイジング 商品の基本	中島 京哉 高橋 敬	第29回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第30回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第31回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第32回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第33回	マーケティング 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャダイジング 在庫管理の基本	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャダイジング 販売管理の基本	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャダイジング 総合問題演習	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 店舗管理の基本	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 包装技術の基本	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（基礎編）リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応 （キャリアック） 販売士（リテールマーケティング）3級問題集part 1（TAC出版） 販売士（リテールマーケティング）3級問題集part 2（TAC出版）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	4単位	
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二		授業回数	30回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 80 %
授業態度	: 20 %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。				
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り 組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定3 級合格レベルに引き上げることを目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型(問題演習) 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演 習)	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演 習)	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演 習)	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの基 本	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の類型(問題演習) 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャンダイジング(問題演 習) 商品の基本	山下 健二	第22回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬

法律公務員学科(2年課程)

第8回	マーチャンドアイジング(問題演習) マーチャンドアイジングの基本	山下 健二	第23回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャンドアイジング(問題演習) 商品計画の基本	山下 健二	第24回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャンドアイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第25回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャンドアイジング(問題演習)	山下 健二	第26回	過去試験問題演習・解説(第87回)	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャンドアイジング(問題演習)	山下 健二	第27回	過去試験問題演習・解説(第85回)	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャンドアイジング(問題演習)	山下 健二	第28回	過去試験問題演習・解説(第84回)	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第29回	過去試験問題演習・解説(第83回)	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第30回	過去試験問題演習・解説(第82回)	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック(基礎編) リテールマーケティング(販売士) 検定試験3級対応 (キャリアック) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part1 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part2 (TAC出版)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級I	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
			課題提出 : 30 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をとおし分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	秘書の仕事の仕方を通してより高度な職場常識の理解を深め、オフィス内外で業務を行う際に必要な技能の習得と向上を図る。「応用の職場常識」といわれる秘書準1級の内容にふさわしい感じのよい立ち居振る舞いや話し方などを実践できるとともに、状況に応じた「より適切な」判断と柔軟な対応ができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	検定試験の受け方・基礎知識 必要とされる資質 上級秘書の資質と能力	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	必要とされる資質 対人関係の心得	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識 秘書の機能と役割	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識 秘書の機能と役割 秘書の業務	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー-接遇 人間関係と話し方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	秘書技能 情報管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	秘書技能 日程管理・オフィス管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験の予備知識 試験の概要と実際の流れ	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能 会議	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。				
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	5単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
			課題・レポート : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をとおし分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験をもつ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験をもつ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	演習を中心とした授業を通して実践力を高め、オフィス内外の業務に必要な高度な技能の習得と向上を図り検定試験の合格に繋げる。また、上級秘書としてのあり方を理解した立ち居振る舞いや話し方などが実践できることに加え、状況に応じて「より適切な」判断と柔軟な対応をとることができる能力を育む。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	理論問題・実技問題5 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	理論問題・実技問題6 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	理論問題・実技問題7 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	理論問題・実技問題8 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子



第5回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	理論問題・実技問題9 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第21回	理論問題・実技問題10 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第22回	理論問題・実技問題11 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第23回	理論問題・実技問題12 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	総合問題演習1	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第24回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	総合問題演習2	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第25回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第11回	総合問題演習3	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第26回	実技演習 慶事の対応・弔事の対応	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第12回	理論問題・実技問題1 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第27回	実技演習 ファイリング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第13回	理論問題・実技問題2 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第28回	実技演習 電話応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第14回	理論問題・実技問題3 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第29回	実技演習 来客応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第15回	理論問題・実技問題4 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第30回	実技総合演習 ロールプレイング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
課題 : 30 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業を通して分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	「応用の職場常識」といわれる秘書検定準1級について講義や問題演習を行いながら解説を加え知識の定着を促す。また、秘書の仕事の仕方やオフィス内外で業務を行う際に必要となる技能を習得し、感じのよい話し方や上級秘書にふさわしい立ち居振る舞いが実践できることにより、検定試験の合格を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス（試験について） 一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	過去問題1 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	過去問題2 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	過去問題3 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	過去問題4 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	過去問題5 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	過去問題6 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	<p>一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）</p>				
備考	<p>複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。</p>				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績 評価 方法	確認試験 : 50 %
			ミニテスト : 50 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの基本的な用語と基本操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験3級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Excelの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Excel基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Excel基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Excel基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Excel基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Excel基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	Excel基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Excel基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集（株式会社サーティファイ） Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科（2年課程）・経理事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	4単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	30回
		成績評価方法	確認試験
ミニテスト	: 50 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験2級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel問題演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel問題演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	Excel問題演習⑯ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel問題演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	Excel問題演習⑰ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel問題演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	Excel問題演習⑱ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel問題演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	Excel問題演習⑲ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel問題演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第21回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Excel問題演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第22回	Excel問題演習㉑ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Excel問題演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第23回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel問題演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第24回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel問題演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第25回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第11回	Excel問題演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第26回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第12回	Excel問題演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第27回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第13回	Excel問題演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第28回	直前模擬問題⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第14回	Excel問題演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第29回	直前模擬問題⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第15回	Excel問題演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第30回	直前模擬問題⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年のよる合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	文書処理ソフト基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	3単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの応用的な用語と操作を習得し、サティファイ主催Word文書処理 技能認定試験2級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Wordの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子



第8回	Word基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験3級問題集（株式会社サーティファイ） Word文書処理技能認定試験1・2級問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	表計算ソフト応用		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数	20回
			成績 評価 方法	確認試験
ミニテスト	: 50 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター			
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子	第11回	Excel応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第2回	Excel応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第12回	Excel応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第3回	Excel応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第13回	Excel応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第4回	Excel応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第14回	Excel応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第5回	Excel応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第15回	Excel応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第6回	Excel応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第16回	Excel応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第7回	Excel応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第8回	Excel応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第9回	Excel応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第10回	Excel応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子

法律公務員学科(2年課程)

<p>準備学習等</p>	<p>Excel検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集（株式会社サーティファイ）</p>
<p>備考</p>	<p>複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。</p>

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	文書処理ソフト応用	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績 評価 方法	確認試験 : 50 %
			ミニテスト : 50 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %
		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Word応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	Word検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	プレゼンテーションソフト	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびPowerPointの基本的な用語と操作から応用的な操作までを習得し、サー ティファイ主催PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、 PowerPointの画面構成	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	PowerPoint基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	PowerPoint基本操作①	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	PowerPoint応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	PowerPoint基本操作②	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	PowerPoint応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	PowerPoint基本操作③	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	PowerPoint応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	PowerPoint基本操作④	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	PowerPoint応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	PowerPoint基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	PowerPoint応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	PowerPoint基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	PowerPoint応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	PowerPoint基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	PowerPoint基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	PowerPoint基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	PowerPoint2016クイックマスター（株式会社ウイネット）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（3年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	社会人総合演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子・千葉 佳名江・伊藤 浩彰・ 大野 直哉・中島 京哉 高橋 敬・ 鈴木 裕治・河野 賢一・五十嵐 久子・ 瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春		授業回数	40回	
			成績 評価 方法	確認テスト	: 60 %
				実技試験	: 30 %
				レポート	: 10 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。				
実務経験教員の 実務経験内容	<p>[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。</p>				



授業目的 到達目標	<p>[Word・Excel]</p> <p>状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。</p> <p>「時事研究」</p> <p>最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。</p> <p>[販売管理・仕入管理務]</p> <p>売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。</p> <p>[ビジネスマナー]</p> <p>ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。</p>
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話応対ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	PCPパソコン実習 PCPビジネスマナー PCP販売仕入管理 PCP時事(大原学園)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がある。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	マナー実習（セールス）	授業形態	実習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	久保田佳子・高橋敬・中島京哉 千葉佳名江・瀬尾幸江・長澤千春	授業回数	20回
		成績評価方法	実技試験 : 80 % 授業態度 : 20 % : : :
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾幸江・長澤千春		: % :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	丁寧な電話応対や名刺交換の基本、相手の心理を理解した販売や商品説明の仕方等をロールプレイングを通して具体的に指導する。実践力を養うとともに、社会人として滞りなく実務を行うための臨機応変さを身につけさせる。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔瀬尾幸江〕 一般企業にて総務・労務・経理事務、営業事務等を経験。接客販売および宿泊施設の電話交換業務に携わった経験あり。 秘書技能検定1級およびサービス接客検定1級、電話実践級を取得。 〔長澤千春〕 専門学校にて教務事務を担当したほか高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験あり。サービス接客検定1級を取得。		
授業目的 到達目標	1. 好印象を与える話し方や、状況に応じた立ち居振る舞いが自然にできる。 2. 内定先の取扱商品（サービス）や事業内容の知識を深め、企業の思いを理解する。 3. 人前で話すことに慣れるとともに、さまざまな客に対し柔軟に対応できる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	接客マナー 接客販売の心得 お客様心理の理解	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第11回	商品説明 説明内容に関する知識 お客様にとってのメリット	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第2回	接客マナー 店内接客の基本 接客基本用語 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第12回	商品説明 商品説明の準備 ポイントシート作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第3回	接客マナー 状況別の店内接客 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第13回	商品説明 話の組み立て方 シナリオ作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第4回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第14回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第5回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第15回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第6回	接客マナー 効果測定(実技)	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第16回	商品説明 好感をもたれる商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第7回	営業マナー 訪問のマナー・基本用語 アポイントメント ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第17回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第8回	営業マナー 受付・応接室でのポイント 受付訪問・名刺交換 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第18回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑤	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第9回	営業マナー 商談の進め方 訪問後のフォロー ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第19回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑥	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第10回	営業マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第20回	商品説明 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
準備学習等	<p>復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践を繰り返すなどして自分の習慣にすること。</p>				
教科書 参考書等	「ビジネスマナー」テキスト				
備考	<p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに効果測定等を実施し総合的に評価する。実務を意識した授業のため、効果を測定できなかった場合は追試等を実施し、実務レベルに対応する力をつけさせる。 複数学科・複数学年による合同授業となる。受講生の習熟の度合や進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴い、授業内容を変更する場合がある。</p>				

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)・ビジネス学科(2年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	社会人総合演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	必修
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	佐々木 謙 今野 洸 佐々木 智也	授業回数	30回
		成績評価方法	レポート : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	佐々木 謙	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	公務員として働いていくために必要な倫理、規律、ルールがあるが、それらがなぜ必要であるのかを教授する。その後、地方公共団体等の研修で利用されている教材を用い、実務経験教員と担当教員が打ち合わせを行い、レクチャーを受けた後に、各項目について授業し理解をしてもらう。また過去の経験から、地方行政にどういった人材が求められているか、求められる人材になるために必要な知識を教授する。		
実務経験教員の 実務経験内容	仙台市職員として長年勤務、副市長も歴任。地下鉄建設やスポーツチーム誘致など、様々な場面で地方行政に携わった。		
授業目的 到達目標	社会人、特に公共のために働く公務員として必要な倫理に関わる規則やルールなどの知識を理解し、行動することができるようになることを授業目的とする。実際起こった事案を元に、Q&A形式やチェックリスト形式、グループディスカッション形式で公務員が持つべき意識を学んでいく。最終的にコンプライアンス意識を持った行動ができるようになること、ディスカッションにより周囲との相互理解を深められるようになることを到達目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	公務員の役割と求められる人物像	佐々木 謙	
第2回	倫理とは何か？ コンプライアンスとは何か？	今野 洸 佐々木 智也	
第3回	自律性と抑止力のバランス 公務員とは何か？	今野 洸 佐々木 智也	
第4回	公務の特性について 時代、環境の変化は倫理観に影響する	今野 洸 佐々木 智也	
第5回	ノブレスオブリッジ 求心力を広げる	今野 洸 佐々木 智也	
第6回	職場でのコミュニケーション あるべき姿からありたい姿へ	今野 洸 佐々木 智也	
第7回	不祥事の温床 法精神を体現する	今野 洸 佐々木 智也	



第8回	不祥事とは何か？ 倫理の腐敗と頹廃	今野 洸 佐々木 智也
第9回	公務外の不祥事はなぜ起こる？	今野 洸 佐々木 智也
第10回	仕事に対する姿勢・服務規律①	今野 洸 佐々木 智也
第11回	仕事に対する姿勢・服務規律②	今野 洸 佐々木 智也
第12回	仕事に対する姿勢・服務規律③	今野 洸 佐々木 智也
第13回	贈収賄や業務上横領の防止①	今野 洸 佐々木 智也
第14回	贈収賄や業務上横領の防止②	今野 洸 佐々木 智也
第15回	交通法規の遵守	今野 洸 佐々木 智也
第16回	個人情報の保護 情報セキュリティ対策①	今野 洸 佐々木 智也
第17回	個人情報の保護 情報セキュリティ対策②	今野 洸 佐々木 智也
第18回	人権問題	今野 洸 佐々木 智也
第19回	説明責任・クレーム対応	今野 洸 佐々木 智也
第20回	知的財産権への対応	今野 洸 佐々木 智也
第21回	環境への配慮	今野 洸 佐々木 智也
第22回	実際に起こった事例①	今野 洸 佐々木 智也
第23回	実際に起こった事例②	今野 洸 佐々木 智也
第24回	グループディスカッションの進め方と注意すべき点について	今野 洸 佐々木 智也
第25回	グループディスカッション①	今野 洸 佐々木 智也
第26回	グループディスカッション②	今野 洸 佐々木 智也
第27回	グループディスカッション③	今野 洸 佐々木 智也
第28回	グループディスカッション④	今野 洸 佐々木 智也

第29回	グループディスカッション⑤	今野 洸 佐々木 智也
第30回	公務員として働くために	佐々木 謙
準備学習等	講義後、その内容を元にした課題やレポートの提出を行い、成績を評価する。レポートについては授業中にもある程度記入する時間を設けるが、時間内に終わらなかった分については各自取り組み、後日必ず提出すること。	
教科書 参考書等	公務員倫理を考えるオンデマンド版（株式会社時事通信出版局）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する可能性がある。また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。（グループディスカッションなどオンデマンド形式での提供ができない場合は除く）授業1回あたり1時間を想定している。	

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)・ビジネス学科(2年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	社会人基礎Ⅱ	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	大庄司 文子 今野 洸 佐々木 智也	授業回数	30回	
		成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
			ミニテスト	: 30 %
			平常点	: 30 %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。			
授業目的 到達目標	基礎的なパソコンスキルや電話応対など即戦力として活躍できる人材となることを授業目的とし、大原学園独自のPCP(プレ・キャリア・プログラム)の授業を中心に行っていく。パソコンスキルにおいては文書作成ソフトの実践的な使用法を学ぶことで、ビジネス文書をスムーズに作成できるようになることを到達目標とする。電話応対は敬語などの正しい言葉遣いを用いてスムーズな応対ができるようになることを到達目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	文書作成ソフト(文字書式・拡張書式・段落書式)	大庄司 文子		
第2回	文書作成ソフト(タブとリーダー・段組み・箇条書き)	大庄司 文子		
第3回	文書作成ソフト(段落番号・ドロップキャップ・スタイル)	大庄司 文子		
第4回	文書作成ソフト(ページ設定と印刷設定)	大庄司 文子		
第5回	文書作成ソフト(テキスト編集・ヘッダーとフッター)	大庄司 文子		
第6回	文書作成ソフト(表のデザインとレイアウト)	大庄司 文子		
第7回	文書作成ソフト(オブジェクトの作成・図と図形の書式)	大庄司 文子		

第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司 文子
第9回	文書作成練習問題①	大庄司 文子
第10回	文書作成練習問題②	大庄司 文子
第11回	文書作成練習問題③	大庄司 文子
第12回	文書作成模擬問題①	大庄司 文子
第13回	文書作成模擬問題②	大庄司 文子
第14回	文書作成模擬問題③	大庄司 文子
第15回	文書作成模擬問題④	大庄司 文子
第16回	文書作成模擬問題⑤	大庄司 文子
第17回	文書作成模擬問題⑥	大庄司 文子
第18回	文書作成模擬問題⑦	大庄司 文子
第19回	職場のマナー（社会人の心構えと職場のマナー）	今野 洸 佐々木 智也
第20回	職場のマナー（仕事の進め方と報・連・相）	今野 洸 佐々木 智也
第21回	挨拶と敬語（挨拶の種類・笑顔・お辞儀）	今野 洸 佐々木 智也
第22回	挨拶と敬語（正しい敬語の使い方・応対の基本）	今野 洸 佐々木 智也
第23回	電話応対①（電話応対のマナー）	今野 洸 佐々木 智也
第24回	電話応対②（電話の受け方、かけ方）	今野 洸 佐々木 智也
第25回	効果測定①（敬語の基本・電話応対の基本）	今野 洸 佐々木 智也
第26回	電話応対③（状況別の電話応対）	今野 洸 佐々木 智也
第27回	効果測定②（状況別の電話応対）	今野 洸 佐々木 智也
第28回	効果測定③（電話応対実技）	今野 洸 佐々木 智也

第29回	文書作成過去問題演習①	今野 洸 佐々木 智也
第30回	文書作成過去問題演習②	今野 洸 佐々木 智也
準備学習等	予習は不要であるが、授業で進んだところまでの復習をしっかりと行うこと。パソコンを使っての授業が多いため、復習にあたって自宅にパソコンがない学生は校内のパソコン教室を使用しても良い。その場合は科目教員にあらかじめ申し出ること。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験3級問題集（株式会社ウィネット） サーティファイWord文書処理技能認定試験1.2級問題集（株式会社ウィネット） PCPビジネスマナー（大原出版）	
備考	授業計画の各回の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する可能性がある。また、パソコンを使用しない授業については状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	実技試験 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁における処理システム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	社会人として必要なパソコンでの文書作成能力を養成することを目的とする。文書作成能力の養成においては知識や技能を習得するだけではなく将来関わるであろう業務の遂行を意識しながら、正確さや迅速さを追求した事務処理能力の向上を目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト（文字書式・拡張書式・段落書式）	大庄司 文子	
第2回	文書作成ソフト（タブとリーダー・段組み・箇条書き）	大庄司 文子	
第3回	文書作成ソフト（段落番号・ドロップキャップ・スタイル）	大庄司 文子	
第4回	文書作成ソフト（ページ設定と印刷設定）	大庄司 文子	
第5回	文書作成ソフト（テキスト編集・ヘッダーとフッター）	大庄司 文子	
第6回	文書作成ソフト（表のデザインとレイアウト）	大庄司 文子	
第7回	文書作成ソフト（オブジェクトの作成・図と図形の書式）	大庄司 文子	
第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司 文子	

第9回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第10回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第11回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第12回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第13回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第14回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第15回	文書作成練習問題	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自の文書処理技能の習熟度に応じた自主的な演習の時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する場合がある。また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1 学年

科目名	プレゼンテーション能力	授業形態	
		演習	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	ビジネスシーンを想定したプレゼンテーション能力の向上を目的とする。 ビジネスシーンで即戦力となれるようパワーポイントの基礎知識を身に付け、プレゼンテーション技能認定試験に合格することを到達目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	プレゼンテーション技能(基礎知識)	大庄司 文子	
第2回	プレゼンテーション技能(基本操作)	大庄司 文子	
第3回	プレゼンテーション技能(環境の設定と変更)	大庄司 文子	
第4回	プレゼンテーション技能(書式設定)	大庄司 文子	
第5回	プレゼンテーション技能(スライド)	大庄司 文子	
第6回	プレゼンテーション技能(ファイル)	大庄司 文子	
第7回	プレゼンテーション技能(編集)	大庄司 文子	



第8回	プレゼンテーション技能（罫線と表）	大庄司 文子
第9回	プレゼンテーション技能（オブジェクト）	大庄司 文子
第10回	プレゼンテーション技能（校閲）	大庄司 文子
第11回	プレゼンテーション技能 練習問題①	大庄司 文子
第12回	プレゼンテーション技能 練習問題②	大庄司 文子
第13回	プレゼンテーション技能 練習問題③	大庄司 文子
第14回	プレゼンテーション技能 練習問題④	大庄司 文子
第15回	プレゼンテーション技能 練習問題⑤	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自のプレゼンテーション能力の習熟度に応じた自主的な演習時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	プレゼンテーション技能認定試験 問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する場合がある。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
			ミニテスト : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。 確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。	
教科書 参考書等	ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス) ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&問題集 (成美堂出版) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。	

学科	経理事務学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ OA事務学科(1年課程)・情報システム学科(3年課程)・ 情報システム学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(1年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(1年課程)
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャндаイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

法律公務員学科(1年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンドライジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業で必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンドライジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

法律公務員学科(1年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊



第4回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（カリアック） 販売士2級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	方法	: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング（問題演習） マーチャンダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1学年

科目名	社会人総合演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	必修
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	佐々木 謙 松村 匡 蜂谷 志穂 大瀧 武史 比企 湖太郎	授業回数	30回
		成績評価方法	レポート : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	佐々木 謙	成績評価方法	: %
			: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	公務員として働いていく為に必要な倫理、規律、ルールがあるが、それがなぜ必要であるのか教授する。また、地方公共団体等の研修で利用されている教材を用い、実務経験教員が担当教員に対してレクチャーを行う。さらに、過去の経験から、地方行政にどういった人材が求められているか、求められる人材になるためにはどんな知識が必要であるか教授する。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	仙台市職員として長年勤務、副市長も歴任。仙台市地下鉄建設計画やプロスポーツチーム誘致等、様々な場面で地方行政に関わった。
-------------------	--

授業目的 到達目標	公共の福祉のために働く公務員として必要な倫理に関わる規則やルールなどの知識を理解し、実際に行動で示すことができる態度の育成を目的とする。実際に起きた事案を題材にQ & A形式やチェックリスト形式で公務員が持つべき倫理観を学ぶ。講義と演習を通して最終的にコンプライアンス意識を持った適切な行動ができることを目指す。また、様々な社会問題に対して、ディスカッションを通して、その解決法を考察することも目標とする。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	公務員の役割と求められる人物像	佐々木 謙	第16回	知的財産権への対応	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第2回	倫理とは何か？ コンプライアンスとは何か？	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第17回	環境への配慮	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第3回	自律性と抑止力のバランス 公務員とは何か？	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第18回	ディスカッション①	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第4回	公務の特性について 時代、環境の変化は倫理観に影響する	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第19回	ディスカッション②	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第5回	ノブレスオブリッジ 求心力を広げる	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第20回	ディスカッション③	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第6回	職場でのコミュニケーション あるべき姿からありたい姿へ	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第21回	事例研究	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第7回	不祥事の温床 法精神を体現する	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第22回	事例研究	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎



## 総合公務員学科(2年課程)

第8回	不祥事とは何か？ 倫理の腐敗と頹廃	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第23回	事例研究	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第9回	公務外の不祥事はなぜ起こる？	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第24回	校外研修事前準備	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第10回	仕事に対する姿勢・服務規律	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第25回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第11回	贈収賄や業務上横領の防止	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第26回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第12回	交通法規の遵守	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第27回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第13回	個人情報の保護 情報セキュリティ対策	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第28回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第14回	人権問題	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第29回	校外研修	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎
第15回	説明責任・クレーム対応	松村匡、蜂谷志穂 大瀧武史、比企湖太郎	第30回	公務員として働くために	佐々木 謙

準備学習等	講義後、その内容を元にした課題やレポートの提出を行い、成績を評価する。レポートについては授業中にもある程度記入する時間を設けるが、時間内に終わらなかった分については各自取り組み、後日必ず提出すること。
教科書 参考書等	公務員倫理を考えるオンデマンド版（株式会社時事通信出版局）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性 がある。

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	実技試験 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁における処理システム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	社会人として必要なパソコンでの文書作成能力を養成することを目的とする。文書作成能力の養成においては知識や技能を習得するだけではなく将来関わるであろう業務の遂行を意識しながら、正確さや迅速さを追求した事務処理能力の向上を目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト(文字書式・拡張書式・段落書式)	大庄司 文子	
第2回	文書作成ソフト(タブとリーダー・段組み・箇条書き)	大庄司 文子	
第3回	文書作成ソフト(段落番号・ドロップキャップ・スタイル)	大庄司 文子	
第4回	文書作成ソフト(ページ設定と印刷設定)	大庄司 文子	
第5回	文書作成ソフト(テキスト編集・ヘッダーとフッター)	大庄司 文子	
第6回	文書作成ソフト(表のデザインとレイアウト)	大庄司 文子	
第7回	文書作成ソフト(オブジェクトの作成・図と図形の書式)	大庄司 文子	

第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司 文子
第9回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第10回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第11回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第12回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第13回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第14回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第15回	文書作成練習問題	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自の文書処理技能の習熟度に応じた自主的な演習の時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する可能性がある。また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1学年

科目名	プレゼンテーション能力	授業形態		
		演習	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。			
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。			
授業目的 到達目標	ビジネスシーンを想定したプレゼンテーション能力の向上を目的とする。 ビジネスシーンで即戦力となれるようパワーポイントの基礎知識を身に付け、プレゼンテーション技能認定試験に合格することを到達目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	プレゼンテーション技能(基礎知識)	大庄司 文子		
第2回	プレゼンテーション技能(基本操作)	大庄司 文子		
第3回	プレゼンテーション技能(環境の設定と変更)	大庄司 文子		
第4回	プレゼンテーション技能(書式設定)	大庄司 文子		
第5回	プレゼンテーション技能(スライド)	大庄司 文子		
第6回	プレゼンテーション技能(ファイル)	大庄司 文子		
第7回	プレゼンテーション技能(編集)	大庄司 文子		

第8回	プレゼンテーション技能（罫線と表）	大庄司 文子
第9回	プレゼンテーション技能（オブジェクト）	大庄司 文子
第10回	プレゼンテーション技能（校閲）	大庄司 文子
第11回	プレゼンテーション技能 練習問題①	大庄司 文子
第12回	プレゼンテーション技能 練習問題②	大庄司 文子
第13回	プレゼンテーション技能 練習問題③	大庄司 文子
第14回	プレゼンテーション技能 練習問題④	大庄司 文子
第15回	プレゼンテーション技能 練習問題⑤	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自のプレゼンテーション能力の習熟度に応じた自主的な演習時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	プレゼンテーション技能認定試験 問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する場合がある。	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	1学年

科目名	社会人基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 30 %
			平常点 : 30 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	基礎的なパソコンスキルや電話応対など即戦力として活躍できる人材となることを授業目的とし、大原学園独自のPCP(プレ・キャリア・プログラム)の授業を中心に行っていく。パソコンスキルにおいては文書作成ソフトの実践的な使用法を学ぶことで、ビジネス文書をスムーズに作成できるようになることを到達目標とする。電話応対は敬語などの正しい言葉遣いを用いてスムーズな応対ができるようになることを到達目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト(文字書式・拡張書式・段落書式)	大庄司文子	
第2回	文書作成ソフト(タブとリーダー・段組み・箇条書き)	大庄司文子	
第3回	文書作成ソフト(段落番号・ドロップキャップ・スタイル)	大庄司文子	
第4回	文書作成ソフト(ページ設定と印刷設定)	大庄司文子	
第5回	文書作成ソフト(テキスト編集・ヘッダーとフッター)	大庄司文子	
第6回	文書作成ソフト(表のデザインとレイアウト)	大庄司文子	
第7回	文書作成ソフト(オブジェクトの作成・図と図形の書式)	大庄司文子	

第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司文子
第9回	文書作成練習問題①	大庄司文子
第10回	文書作成練習問題②	大庄司文子
第11回	文書作成練習問題③	大庄司文子
第12回	文書作成模擬問題①	大庄司文子
第13回	文書作成模擬問題②	大庄司文子
第14回	文書作成模擬問題③	大庄司文子
第15回	文書作成模擬問題④	大庄司文子
第16回	文書作成模擬問題⑤	大庄司文子
第17回	文書作成模擬問題⑥	大庄司文子
第18回	文書作成模擬問題⑦	大庄司文子
第19回	職場のマナー（社会人の心構えと職場のマナー）	大庄司文子
第20回	職場のマナー（仕事の進め方と報・連・相）	大庄司文子
第21回	挨拶と敬語（挨拶の種類・笑顔・お辞儀）	大庄司文子
第22回	挨拶と敬語（正しい敬語の使い方・応対の基本）	大庄司文子
第23回	電話応対①（電話応対のマナー）	大庄司文子
第24回	電話応対②（電話の受け方、かけ方）	大庄司文子
第25回	効果測定①（敬語の基本・電話応対の基本）	大庄司文子
第26回	電話応対③（状況別の電話応対）	大庄司文子
第27回	効果測定②（状況別の電話応対）	大庄司文子
第28回	効果測定③（電話応対実技）	大庄司文子

第29回	文書作成過去問題演習①	大庄司文子
第30回	文書作成過去問題演習②	大庄司文子
準備学習等	予習は不要であるが、授業で進んだところまでの復習をしっかりと行うこと。パソコンを使っただけの授業が多いため、復習にあたって自宅にパソコンがない学生は校内のパソコン教室を使用しても良い。その場合は科目教員にあらかじめ申し出ること。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験3級問題集（株式会社ウィネット） サーティファイWord文書処理技能認定試験1.2級問題集（株式会社ウィネット） PCPビジネスマナー（大原出版）	
備考	授業計画の各回の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する可能性がある。また、パソコンを使用しない授業については状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
			ミニテスト : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。 確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。	
教科書 参考書等	ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス) ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&問題集 (成美堂出版) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャндаイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## 総合公務員学科(2年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業に必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## 総合公務員学科(2年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（カリアック） 販売士2級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャндаイジング（問題演習） マーチャндаイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャндаイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	Excel表計算技能		授業形態	講義
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	菊地 裕美		授業回数	10回
			成績 評価 方法	実技試験 : 50 %
				知識試験 : 30 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	菊地 裕美			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Microsoft Excelによる操作方法			
実務経験教員の 実務経験内容	専門学校講師（外国人留学生含む）			
授業目的 到達目標	PCを用いて簡単なワークシートの作成とデータの入力ができるようにする。 また、タイピングソフトを使い入力速度の向上を図り、ブラインドタッチができるようにする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス キーボード入力方法 フォルダ管理	菊地 裕美	第6回	基本練習4 罫線の引き方	菊地 裕美
第2回	Excelの画面構成、コピー 移動方法の確認	菊地 裕美	第7回	基本練習5 関数1 基本関数	菊地 裕美
第3回	基本練習1 Shift、Ctrlの使い 方	菊地 裕美	第8回	基本練習6 関数2 ROUND系、RANK、IF、等	菊地 裕美
第4回	基本練習2 オートフィル機能の使い方	菊地 裕美	第9回	基本練習7 グラフ	菊地 裕美
第5回	基本練習3 行・列の挿入と削除 ウィンドウ枠の固定と解除	菊地 裕美	第10回	基本練習8 並べ替えとフィルター	菊地 裕美
準備学習等	画面構成のプリントを準備し、「タブ」や「リボン」などの単語を覚えるのに役立つようにする。				

教科書 参考書等	オリジナルテキストとデータを使用
備考	PCの環境を整え、スムーズに授業が行えるようにする。 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 Excel表計算技能は、上記学科の選択科目であるため、各学科合同授業となる。



学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・ 総合公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	社会人総合演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	実技試験 : 50 % 平常点 : 50 % : : :
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: % :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	社会人として即戦力で活躍できる人材になることを目的とし、Excelの基礎知識を習得し、実践できるようになることを目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	オフィスExcel基礎 (Excelの基本操作)	大庄司 文子
第2回	オフィスExcel基礎 (データの入力・編集)	大庄司 文子
第3回	オフィスExcel基礎 (編集1、表示形式設定)	大庄司 文子
第4回	オフィスExcel基礎 (編集2、行・列の挿入・削除)	大庄司 文子
第5回	オフィスExcel基礎 (グラフと図形の作成1)	大庄司 文子
第6回	オフィスExcel基礎 (グラフと図形の作成2)	大庄司 文子
第7回	オフィスExcel基礎 (グラフと図形の作成3)	大庄司 文子
第8回	オフィスExcel基礎 (ブックの利用と管理)	大庄司 文子
第9回	オフィスExcel基礎 (統計・論理・日付関数)	大庄司 文子

第10回	オフィスExcel基礎（データベース機能）	大庄司 文子
第11回	オフィスExcel基礎（データの抽出・並び替え）	大庄司 文子
第12回	オフィスExcel基礎（練習問題1.2）	大庄司 文子
第13回	オフィスExcel基礎（練習問題3.4）	大庄司 文子
第14回	オフィスExcel基礎（練習問題5.6）	大庄司 文子
第15回	オフィスExcel基礎（総まとめ）	大庄司 文子
準備学習等	・ 予習の必要はない。各回の授業をしっかりと復習すること。	
教科書 参考書等	・ サーティファイExcel表計算処理技能認定試験問題集（サーティファイ）	
備考	・ 授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。	

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間
			単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二		授業回数	40回
			成績 評価 方法	筆記試験 : 80 %
				授業態度 : 20 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客のみ ならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。学習内容の理解を到達目標とし、 日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2級取得を目指す。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の種類 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の種類 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の種類 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	中島 京哉 高橋 敬

第7回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第8回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略的展開	山下 健二	第29回	マーケティング リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャンダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第30回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャンダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第31回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャンダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第32回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャンダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第33回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャンダイジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャンダイジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャンダイジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーションの展開視点	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬

準備学習等

学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。  
学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。

教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part1（TAC出版） 販売士(リテールマーケティング) 2級問題集part2（TAC出版）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性がります。

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士2級演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	4単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 80 %
			授業態度 : 20 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定2級合格レベルに引き上げることを目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型(問題演習) 流通と小売業の役割	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演習) 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演習) LSPの役割と仕組み	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型(問題演習) 組織別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演習) 人的販売の実践と管理	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の考え方	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型(問題演習) 店舗形態別小売業の運営特性	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬

第6回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャндаイジング（問題演習） マーチャндаイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第22回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践	中島 京哉 高橋 敬
第8回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第23回	マーケティング（問題演習） 商圈分析ならびに出店戦略の立案	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャндаイジング（問題演習） 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第24回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャндаイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第25回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャндаイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第26回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャндаイジング（問題演習） 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第27回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第13回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	山下 健二	第28回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション（問題演習） 店舗運営サイクルの実践と管理	中島 京哉 高橋 敬	第29回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	中島 京哉 高橋 敬	第30回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	全範囲の理解度を再確認します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（キャリアック） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part1（TAC出版） 販売士（リテールマーケティング）2級問題集part2（TAC出版）				

備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改定等に伴う授業内容の変更の可能性がります。
----	--



学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	120時間
			単位数	5単位
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二		授業回数	40回
			成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 20 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学 習することを目的とする。学習内容の理解を到達目標とし、日本商工会議所主催リテ ールマーケティング(販売士)検定3級取得を目指す。			

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
32E3918	小売業の類型 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第22回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第23回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第24回	ストアオペレーション 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第25回	マーケティング 小売業のマーケティングの基 本	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第26回	マーケティング 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬
第7回	小売業の類型 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第27回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬

第8回	小売業の類型 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬	第28回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャダイジング 商品の基本	中島 京哉 高橋 敬	第29回	マーケティング リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第30回	マーケティング リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第31回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第32回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャダイジング 価格設定の基本	山下 健二	第33回	マーケティング 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
第14回	マーチャダイジング 在庫管理の基本	山下 健二	第34回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	中島 京哉 高橋 敬
第15回	マーチャダイジング 販売管理の基本	山下 健二	第35回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第16回	マーチャダイジング 総合問題演習	山下 健二	第36回	販売・経営管理 販売員の法令知識	中島 京哉 高橋 敬
第17回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第37回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第18回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第38回	販売・経営管理 小売業の計数管理	中島 京哉 高橋 敬
第19回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	中島 京哉 高橋 敬	第39回	販売・経営管理 店舗管理の基本	中島 京哉 高橋 敬
第20回	ストアオペレーション 包装技術の基本	中島 京哉 高橋 敬	第40回	販売・経営管理 総合問題演習	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック(基礎編) リテールマーケティング(販売士) 検定試験3級対応 (キャリアック) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part 1 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part 2 (TAC出版)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程) 総合公務員学科(2年課程)・行政公務員学科(2年課程)・ 法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	販売士3級演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	4単位	
科目教員	中島 京哉・高橋 敬・山下 健二		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 80 %
				授業態度	: 20 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	「マーチャндаイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。				
実務経験教員の実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。				
授業目的 到達目標	更なる知識の定着を図るため、学習範囲を振り返る問題演習並びに過去問題演習に取り組むことを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)検定3級合格レベルに引き上げることを目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第16回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第17回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬
第3回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	中島 京哉 高橋 敬	第18回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬
第4回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第19回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの基本	中島 京哉 高橋 敬
第5回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	中島 京哉 高橋 敬	第20回	マーケティング(問題演習) 顧客満足経営の基本	中島 京哉 高橋 敬
第6回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	中島 京哉 高橋 敬	第21回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	中島 京哉 高橋 敬
第7回	マーチャндаイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第22回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬

第8回	マーチャンドアイジング(問題演習) マーチャンドアイジングの基本	山下 健二	第23回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売場起点の狭域型購買促進)の基本	中島 京哉 高橋 敬
第9回	マーチャンドアイジング(問題演習) 商品計画の基本	山下 健二	第24回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第10回	マーチャンドアイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第25回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	中島 京哉 高橋 敬
第11回	マーチャンドアイジング(問題演習)	山下 健二	第26回	過去試験問題演習・解説(第87回)	中島 京哉 高橋 敬
第12回	マーチャンドアイジング(問題演習)	山下 健二	第27回	過去試験問題演習・解説(第85回)	中島 京哉 高橋 敬
第13回	マーチャンドアイジング(問題演習)	山下 健二	第28回	過去試験問題演習・解説(第84回)	中島 京哉 高橋 敬
第14回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第29回	過去試験問題演習・解説(第83回)	中島 京哉 高橋 敬
第15回	ストアオペレーション(問題演習)	中島 京哉 高橋 敬	第30回	過去試験問題演習・解説(第82回)	中島 京哉 高橋 敬
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施します。必ず復習を行うこと。 学生の理解度により講義内容を変更する場合があります。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック(基礎編) リテールマーケティング(販売士) 検定試験3級対応 (キャリアック) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part1 (TAC出版) 販売士(リテールマーケティング) 3級問題集part2 (TAC出版)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がります。				

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級I	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験 : 50 %
			課題提出 : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をとおし分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	秘書の仕事の仕方を通してより高度な職場常識の理解を深め、オフィス内外で業務を行う際に必要な技能の習得と向上を図る。「応用の職場常識」といわれる秘書準1級の内容にふさわしい感じのよい立ち居振る舞いや話し方などを実践できるとともに、状況に応じた「より適切な」判断と柔軟な対応ができるようにする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	検定試験の受け方・基礎知識 必要とされる資質 上級秘書の資質と能力	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	必要とされる資質 対人関係の心得	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	秘書技能 文書の作成	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識 秘書の機能と役割	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識 秘書の機能と役割 秘書の業務	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	秘書技能 文書の取り扱い	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー-接遇 人間関係と話し方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	秘書技能 情報管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	秘書技能 日程管理・オフィス管理	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー-接遇 電話応対と接遇	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験の予備知識 試験の概要と実際の流れ	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	マナー-接遇 交際	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能 会議	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験対策 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。				
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				

学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	5単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
			課題・レポート : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業をとおし分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験をもつ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験をもつ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	演習を中心とした授業を通して実践力を高め、オフィス内外の業務に必要な高度な技能の習得と向上を図り検定試験の合格に繋げる。また、上級秘書としてのあり方を理解した立ち居振る舞いや話し方などが実践できることに加え、状況に応じて「より適切な」判断と柔軟な対応をとることができる能力を育む。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	理論問題・実技問題5 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	秘書の資質・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	理論問題・実技問題6 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	理論問題・実技問題7 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	職務知識・一般知識 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	理論問題・実技問題8 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	理論問題・実技問題9 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	マナー接遇 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第21回	理論問題・実技問題10 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第22回	理論問題・実技問題11 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	技能 問題演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第23回	理論問題・実技問題12 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	総合問題演習1	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第24回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	総合問題演習2	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第25回	面接演習 入退室・挨拶・報告の仕方	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第11回	総合問題演習3	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第26回	実技演習 慶事の対応・弔事の対応	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第12回	理論問題・実技問題1 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第27回	実技演習 ファイリング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第13回	理論問題・実技問題2 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第28回	実技演習 電話応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第14回	理論問題・実技問題3 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第29回	実技演習 来客応対	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第15回	理論問題・実技問題4 演習及び解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子	第30回	実技総合演習 ロールプレイング	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。



学科	OA事務学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 経理事務学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	秘書準1級II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田 佳子	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
			課題 : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	草野 淳子・瀬尾 幸江	: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	一般企業に長く勤務し各方面と関わることで培ったスキルや経験をもとに、働く際に必要な実務的内容のほか、秘書的なものの考え方や行動のあり方について、授業を通して分かりやすく説明・指導する。		
実務経験教員の実務経験内容	〔草野〕旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画やパンフレット作成及び販売管理、集客状況分析、関係機関との交渉等を担当していた。 秘書技能検定準1級面接委員を担当した経験を持つ。 〔瀬尾〕一般企業にて総務・労務関連、販売、営業事務・経理事務等オフィスワーク全般を経験。宿泊施設の電話オペレータ業務に携わった経験を持つ。 現在、秘書技能検定準1級面接委員を担当している。		
授業目的 到達目標	「応用の職場常識」といわれる秘書検定準1級について講義や問題演習を行いながら解説を加え知識の定着を促す。また、秘書の仕事の仕方やオフィス内外で業務を行う際に必要となる技能を習得し、感じのよい話し方や上級秘書にふさわしい立ち居振る舞いが実践できることにより、検定試験の合格を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス（試験について） 一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第11回	過去問題1 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第2回	一般知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第12回	過去問題2 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第3回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第13回	過去問題3 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第4回	必要とされる資質	瀬尾 幸江 久保田佳子	第14回	過去問題4 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子

第5回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第15回	過去問題5 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第6回	職務知識	瀬尾 幸江 久保田佳子	第16回	過去問題6 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第7回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第17回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第8回	マナー・接遇	瀬尾 幸江 久保田佳子	第18回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第9回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第19回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
第10回	秘書技能	瀬尾 幸江 久保田佳子	第20回	面接試験問題 解説	草野 淳子 瀬尾 幸江 久保田佳子
準備学習等	一日の復習を忘れず行い、知識の定着を図ること。 特に用語については、内容の説明を記述解答できるよう学習を行うこと。				
教科書 参考書等	秘書検定準1級集中講義（早稲田教育出版） 秘書検定準1級実問題集（早稲田教育出版） 秘書検定1級・準1級新クリアテスト（早稲田教育出版） 秘書検定準1級パーフェクトマスター（早稲田教育出版） 出る順問題集 秘書検定準1級に面白いほど受かる本（(株)KADOKAWA）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合いや進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				

学科	OA事務学科（2年課程）・経理事務学科（2年課程）・ 情報システム学科（3年課程）・情報システム学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの基本的な用語と基本操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験3級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Excelの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Excel基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Excel基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Excel基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Excel基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Excel基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	Excel基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	Excel基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科（2年課程）・経理事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	表計算ソフト基礎Ⅱ	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間	
		単位数	4単位	
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	30回	
		成績 評価 方法	確認試験	: 50 %
			ミニテスト	: 50 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター			
授業目的 到達目標	パソコンおよびExcelの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel表計算技能認定試験2級の取得を目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Excel問題演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Excel問題演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	Excel問題演習⑯ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Excel問題演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	Excel問題演習⑰ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Excel問題演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	Excel問題演習⑱ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Excel問題演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	Excel問題演習⑲ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Excel問題演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第21回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Excel問題演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第22回	Excel問題演習㉑ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Excel問題演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第23回	Excel問題演習⑳ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Excel問題演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第24回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Excel問題演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第25回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第11回	Excel問題演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第26回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第12回	Excel問題演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第27回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第13回	Excel問題演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第28回	直前模擬問題⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第14回	Excel問題演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第29回	直前模擬問題⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第15回	Excel問題演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第30回	直前模擬問題⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Excel表計算処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	文書処理ソフト基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	3単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの応用的な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理 技能認定試験2級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、Wordの画面構成、タイピング練習	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word基本演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word基本演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word基本演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word基本演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word基本演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word基本演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Word基本演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word基本演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word基本演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 3級問題集 (株式会社サーティファイ) Word文書処理技能認定試験 1・2級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				



学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年

科目名	表計算ソフト応用		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子		授業回数	20回
			成績 評価 方法	確認試験
ミニテスト	: 50 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ			
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター			
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Excel文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子	第11回	Excel応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第2回	Excel応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第12回	Excel応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第3回	Excel応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第13回	Excel応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第4回	Excel応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第14回	Excel応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第5回	Excel応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第15回	Excel応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第6回	Excel応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第16回	Excel応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第7回	Excel応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第8回	Excel応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第9回	Excel応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子
第10回	Excel応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子

準備学習等	Excel検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。
教科書 参考書等	Excel表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。

学科	OA事務学科（2年課程）・経理事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2 学年

科目名	文書処理ソフト応用	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績 評価 方法	確認試験 : 50 %
			ミニテスト : 50 %
			: %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学（夏季・冬季）講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびWordの高度な用語と操作を習得し、サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験1級の取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	Word応用演習⑩ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	Word応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	Word応用演習⑪ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	Word応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	Word応用演習⑫ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	Word応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	Word応用演習⑬ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	Word応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	Word応用演習⑭ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	Word応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	Word応用演習⑮ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第7回	Word応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第8回	Word応用演習⑦ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	Word応用演習⑧ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	Word応用演習⑨ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	Word検定 2 級程度の習得が前提です。基本的な操作を復習しておいてください。				
教科書 参考書等	Word文書処理技能認定試験 1・2 級問題集 (株式会社サーティファイ)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	OA事務学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・ 情報システム学科(3年課程)・情報システム学科(2年課程)・ ビジネス学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・ 行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)
学年	2学年・3学年

科目名	プレゼンテーションソフト	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	伊藤 浩彰・久保田 佳子・五十嵐 久子	授業回数	20回
		成績評価方法	確認試験 : 50 % ミニテスト : 50 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	五十嵐 久子		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	Word、Excel、Power Point、Access、ネットワーク、システムアドミニストレータ		
実務経験教員の 実務経験内容	企業研修講師、専門学校講師、大学(夏季・冬季)講師、自衛隊 業務管理訓練講師、 小・中学校情報アドバイザー、市町村IT講習会講師などのメインインストラクター		
授業目的 到達目標	パソコンおよびPowerPointの基本的な用語と操作から応用的な操作までを習得し、サー ティファイ主催PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、 PowerPointの画面構成	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第11回	PowerPoint基本演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第2回	PowerPoint基本操作①	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第12回	PowerPoint応用演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第3回	PowerPoint基本操作②	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第13回	PowerPoint応用演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第4回	PowerPoint基本操作③	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第14回	PowerPoint応用演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第5回	PowerPoint基本操作④	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第15回	PowerPoint応用演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第6回	PowerPoint基本演習① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第16回	PowerPoint応用演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子

第7回	PowerPoint基本演習② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第17回	PowerPoint応用演習⑥ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第8回	PowerPoint基本演習③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第18回	直前模擬問題① 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第9回	PowerPoint基本演習④ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第19回	直前模擬問題② 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
第10回	PowerPoint基本演習⑤ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子	第20回	直前模擬問題③ 解説	伊藤 浩彰 久保田佳子 五十嵐久子
準備学習等	演習では、キーボードからの入力が多いので、ブラインドタッチが使えるように練習しておいてください。				
教科書 参考書等	PowerPoint2016クイックマスター（株式会社ウイネット）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となります。 検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性があります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（3年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	社会人総合演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子・千葉 佳名江・伊藤 浩彰・ 大野 直哉・中島 京哉 高橋 敬・ 鈴木 裕治・河野 賢一・五十嵐 久子・ 瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春		授業回数	40回	
			成績 評価 方法	確認テスト	: 60 %
				実技試験	: 30 %
				レポート	: 10 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾 幸江・草野 淳子・長澤 千春			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春]</p> <p>[ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。</p>				
実務経験教員の 実務経験内容	<p>[草野淳子]</p> <p>旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江]</p> <p>宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春]</p> <p>専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。</p>				

授業目的 到達目標	<p>[Word・Excel]</p> <p>状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。</p> <p>「時事研究」</p> <p>最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。</p> <p>[販売管理・仕入管理務]</p> <p>売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。</p> <p>[ビジネスマナー]</p> <p>ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。</p>
--------------	---

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治



第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話応対ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	PCPパソコン実習 PCPビジネスマナー PCP販売仕入管理 PCP時事(大原学園)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ ビジネス学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（2年課程）
学年	2学年

科目名	マナー実習（セールス）	授業形態	実習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	久保田佳子・高橋敬・中島京哉 千葉佳名江・瀬尾幸江・長澤千春	授業回数	20回
		成績評価方法	実技試験 : 80 % 授業態度 : 20 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	瀬尾幸江・長澤千春		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	丁寧な電話応対や名刺交換の基本、相手の心理を理解した販売や商品説明の仕方等をロールプレイングを通して具体的に指導する。実践力を養うとともに、社会人として滞りなく実務を行うための臨機応変さを身につけさせる。		
実務経験教員の 実務経験内容	〔瀬尾幸江〕 一般企業にて総務・労務・経理事務、営業事務等を経験。接客販売および宿泊施設の電話交換業務に携わった経験あり。 秘書技能検定1級およびサービス接客検定1級、電話実践級を取得。 〔長澤千春〕 専門学校にて教務事務を担当したほか高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験あり。サービス接客検定1級を取得。		
授業目的 到達目標	1. 好印象を与える話し方や、状況に応じた立ち居振る舞いが自然にできる。 2. 内定先の取扱商品（サービス）や事業内容の知識を深め、企業の思いを理解する。 3. 人前で話すことに慣れるとともに、さまざまな客に対し柔軟に対応できる。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	接客マナー 接客販売の心得 お客様心理の理解	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第11回	商品説明 説明内容に関する知識 お客様にとってのメリット	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第2回	接客マナー 店内接客の基本 接客基本用語 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第12回	商品説明 商品説明の準備 ポイントシート作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第3回	接客マナー 状況別の店内接客 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第13回	商品説明 話の組み立て方 シナリオ作成	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第4回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第14回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第5回	接客マナー 電話での問い合わせ 店内接客 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第15回	商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第6回	接客マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第16回	商品説明 好感をもたれる商品説明 シナリオ作成・確認 ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第7回	営業マナー 訪問のマナー・基本用語 アポイントメント ロールプレイング①	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第17回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング④	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第8回	営業マナー 受付・応接室でのポイント 受付訪問・名刺交換 ロールプレイング②	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第18回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑤	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
第9回	営業マナー 商談の進め方 訪問後のフォロー ロールプレイング③	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第19回	商品説明 シナリオ確認・質問対策 ロールプレイング⑥	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春

第10回	営業マナー 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春	第20回	商品説明 効果測定（実技）	久保田佳子 高橋敬 中島京哉 千葉佳名江 瀬尾幸江 長澤千春
準備学習等	<p>復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践を繰り返すなどして自分の習慣にすること。</p>				
教科書 参考書等	「ビジネスマナー」テキスト				
備考	<p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに効果測定等を実施し総合的に評価する。実務を意識した授業のため、効果を測定できなかった場合は追試等を実施し、実務レベルに対応する力をつけさせる。</p> <p>複数学科・複数学年による合同授業となる。受講生の習熟の度合や進捗度、検定試験の出題範囲改正等に伴い、授業内容を変更する場合がある。</p>				

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1学年

科目名	社会人総合演習Ⅰ	授業形態	演習	
		選必の別	必修	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	佐々木 謙 今野 洸 佐々木 智也	授業回数	30回	
		成績 評価 方法	レポート	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	佐々木 謙		: %	
			: %	

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	公務員として働いていくために必要な倫理、規律、ルールがあるが、それらがなぜ必要であるのかを教授する。その後、地方公共団体等の研修で利用されている教材を用い、実務経験教員と担当教員が打ち合わせを行い、レクチャーを受けた後に、各項目について授業し理解をしてもらう。また過去の経験から、地方行政にどういった人材が求められているか、求められる人材になるために必要な知識を教授する。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	仙台市職員として長年勤務、副市長も歴任。地下鉄建設やスポーツチーム誘致など、様々な場面で地方行政に携わった。
-------------------	--

授業目的 到達目標	社会人、特に公共のために働く公務員として必要な倫理に関わる規則やルールなどの知識を理解し、行動することができるようになることを授業目的とする。実際起こった事案を元に、Q&A形式やチェックリスト形式、グループディスカッション形式で公務員が持つべき意識を学んでいく。最終的にコンプライアンス意識を持った行動ができるようになること、ディスカッションにより周囲との相互理解を深められるようになることを到達目標とする。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	公務員の役割と求められる人物像	佐々木 謙
第2回	倫理とは何か？ コンプライアンスとは何か？	今野 洸 佐々木 智也
第3回	自律性と抑止力のバランス 公務員とは何か？	今野 洸 佐々木 智也
第4回	公務の特性について 時代、環境の変化は倫理観に影響する	今野 洸 佐々木 智也
第5回	ノブレスオブリッジ 求心力を広げる	今野 洸 佐々木 智也
第6回	職場でのコミュニケーション あるべき姿からありたい姿へ	今野 洸 佐々木 智也
第7回	不祥事の温床 法精神を体現する	今野 洸 佐々木 智也

第8回	不祥事とは何か？ 倫理の腐敗と頹廃	今野 洸 佐々木 智也
第9回	公務外の不祥事はなぜ起こる？	今野 洸 佐々木 智也
第10回	仕事に対する姿勢・服務規律①	今野 洸 佐々木 智也
第11回	仕事に対する姿勢・服務規律②	今野 洸 佐々木 智也
第12回	仕事に対する姿勢・服務規律③	今野 洸 佐々木 智也
第13回	贈収賄や業務上横領の防止①	今野 洸 佐々木 智也
第14回	贈収賄や業務上横領の防止②	今野 洸 佐々木 智也
第15回	交通法規の遵守	今野 洸 佐々木 智也
第16回	個人情報の保護 情報セキュリティ対策①	今野 洸 佐々木 智也
第17回	個人情報の保護 情報セキュリティ対策②	今野 洸 佐々木 智也
第18回	人権問題	今野 洸 佐々木 智也
第19回	説明責任・クレーム対応	今野 洸 佐々木 智也
第20回	知的財産権への対応	今野 洸 佐々木 智也
第21回	環境への配慮	今野 洸 佐々木 智也
第22回	実際に起こった事例①	今野 洸 佐々木 智也
第23回	実際に起こった事例②	今野 洸 佐々木 智也
第24回	グループディスカッションの進め方と注意すべき点について	今野 洸 佐々木 智也
第25回	グループディスカッション①	今野 洸 佐々木 智也
第26回	グループディスカッション②	今野 洸 佐々木 智也
第27回	グループディスカッション③	今野 洸 佐々木 智也
第28回	グループディスカッション④	今野 洸 佐々木 智也



第29回	グループディスカッション⑤	今野 洸 佐々木 智也
第30回	公務員として働くために	佐々木 謙
準備学習等	講義後、その内容を元にした課題やレポートの提出を行い、成績を評価する。レポートについては授業中にもある程度記入する時間を設けるが、時間内に終わらなかった分については各自取り組み、後日必ず提出すること。	
教科書 参考書等	公務員倫理を考えるオンデマンド版（株式会社時事通信出版局）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する可能性がある。また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。（グループディスカッションなどオンデマンド形式での提供ができない場合は除く）授業1回あたり1時間を想定している。	

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1 学年

科目名	社会人基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	大庄司 文子 今野 洸 佐々木 智也	授業回数	30回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
平常点	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	基礎的なパソコンスキルや電話応対など即戦力として活躍できる人材となることを授業目的とし、大原学園独自のPCP(プレ・キャリア・プログラム)の授業を中心に行っていく。パソコンスキルにおいては文書作成ソフトの実践的な使用法を学ぶことで、ビジネス文書をスムーズに作成できるようになることを到達目標とする。電話応対は敬語などの正しい言葉遣いを用いてスムーズな応対ができるようになることを到達目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト(文字書式・拡張書式・段落書式)	大庄司 文子	
第2回	文書作成ソフト(タブとリーダー・段組み・箇条書き)	大庄司 文子	
第3回	文書作成ソフト(段落番号・ドロップキャップ・スタイル)	大庄司 文子	
第4回	文書作成ソフト(ページ設定と印刷設定)	大庄司 文子	
第5回	文書作成ソフト(テキスト編集・ヘッダーとフッター)	大庄司 文子	
第6回	文書作成ソフト(表のデザインとレイアウト)	大庄司 文子	
第7回	文書作成ソフト(オブジェクトの作成・図と図形の書式)	大庄司 文子	

第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司 文子
第9回	文書作成練習問題①	大庄司 文子
第10回	文書作成練習問題②	大庄司 文子
第11回	文書作成練習問題③	大庄司 文子
第12回	文書作成模擬問題①	大庄司 文子
第13回	文書作成模擬問題②	大庄司 文子
第14回	文書作成模擬問題③	大庄司 文子
第15回	文書作成模擬問題④	大庄司 文子
第16回	文書作成模擬問題⑤	大庄司 文子
第17回	文書作成模擬問題⑥	大庄司 文子
第18回	文書作成模擬問題⑦	大庄司 文子
第19回	職場のマナー（社会人の心構えと職場のマナー）	今野 洸 佐々木 智也
第20回	職場のマナー（仕事の進め方と報・連・相）	今野 洸 佐々木 智也
第21回	挨拶と敬語（挨拶の種類・笑顔・お辞儀）	今野 洸 佐々木 智也
第22回	挨拶と敬語（正しい敬語の使い方・応対の基本）	今野 洸 佐々木 智也
第23回	電話応対①（電話応対のマナー）	今野 洸 佐々木 智也
第24回	電話応対②（電話の受け方、かけ方）	今野 洸 佐々木 智也
第25回	効果測定①（敬語の基本・電話応対の基本）	今野 洸 佐々木 智也
第26回	電話応対③（状況別の電話応対）	今野 洸 佐々木 智也
第27回	効果測定②（状況別の電話応対）	今野 洸 佐々木 智也
第28回	効果測定③（電話応対実技）	今野 洸 佐々木 智也

第29回	文書作成過去問題演習①	今野 洸 佐々木 智也
第30回	文書作成過去問題演習②	今野 洸 佐々木 智也
準備学習等	予習は不要であるが、授業で進んだところまでの復習をしっかりと行うこと。パソコンを使っただけの授業が多いため、復習にあたって自宅にパソコンがない学生は校内のパソコン教室を使用しても良い。その場合は科目教員にあらかじめ申し出ること。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験3級問題集（株式会社ウィネット） サーティファイWord文書処理技能認定試験1.2級問題集（株式会社ウィネット） PCPビジネスマナー（大原出版）	
備考	授業計画の各回の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する可能性がある。また、パソコンを使用しない授業については状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1 学年

科目名	文書処理技能	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回
		成績評価方法	実技試験 : 70 %
			平常点 : 30 %
			: %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子	: %	: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁における処理システム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。		
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。		
授業目的 到達目標	社会人として必要なパソコンでの文書作成能力を養成することを目的とする。文書作成能力の養成においては知識や技能を習得するだけではなく将来関わるであろう業務の遂行を意識しながら、正確さや迅速さを追求した事務処理能力の向上を目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	文書作成ソフト（文字書式・拡張書式・段落書式）	大庄司 文子	
第2回	文書作成ソフト（タブとリーダー・段組み・箇条書き）	大庄司 文子	
第3回	文書作成ソフト（段落番号・ドロップキャップ・スタイル）	大庄司 文子	
第4回	文書作成ソフト（ページ設定と印刷設定）	大庄司 文子	
第5回	文書作成ソフト（テキスト編集・ヘッダーとフッター）	大庄司 文子	
第6回	文書作成ソフト（表のデザインとレイアウト）	大庄司 文子	
第7回	文書作成ソフト（オブジェクトの作成・図と図形の書式）	大庄司 文子	
第8回	文書作成ソフト（配置と整列）	大庄司 文子	
第9回	文書作成練習問題	大庄司 文子	

第10回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第11回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第12回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第13回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第14回	文書作成練習問題	大庄司 文子
第15回	文書作成練習問題	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自の文書処理技能の習熟度に応じた自主的な演習の時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	サーティファイWord文書処理技能認定試験問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する可能性がある。また、状況に応じてオンライン形式、オンデマンド形式で授業の一部を提供する可能性がある。	

学科	行政公務員学科(1年課程)・法律公務員学科(1年課程)・ 総合公務員学科(1年課程)
学年	1学年

科目名	プレゼンテーション能力	授業形態		
		演習	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	大庄司 文子	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			平常点	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	大庄司 文子		: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	パソコンの機能を総合的に学習し、アプリケーションソフトウェアを利用して問題演習を行うことで一連の操作手順を身に付け、業務に役立つ資料等の作成、編集ができる能力を習得する。自治体・官公庁におけるシステム、アプリケーションの知識を学び、実務で活用できるようにする。			
実務経験教員の 実務経験内容	企業にて、OA機器インストラクション業務に従事。各自治体・官公庁で、実務に即したOA機器の活用などのインストラクション業務の実務経験を積んできた。			
授業目的 到達目標	ビジネスシーンを想定したプレゼンテーション能力の向上を目的とする。 ビジネスシーンで即戦力となれるようパワーポイントの基礎知識を身に付け、プレゼンテーション技能認定試験に合格することを到達目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	プレゼンテーション技能(基礎知識)	大庄司 文子		
第2回	プレゼンテーション技能(基本操作)	大庄司 文子		
第3回	プレゼンテーション技能(環境の設定と変更)	大庄司 文子		
第4回	プレゼンテーション技能(書式設定)	大庄司 文子		
第5回	プレゼンテーション技能(スライド)	大庄司 文子		
第6回	プレゼンテーション技能(ファイル)	大庄司 文子		
第7回	プレゼンテーション技能(編集)	大庄司 文子		

第8回	プレゼンテーション技能（罫線と表）	大庄司 文子
第9回	プレゼンテーション技能（オブジェクト）	大庄司 文子
第10回	プレゼンテーション技能（校閲）	大庄司 文子
第11回	プレゼンテーション技能 練習問題①	大庄司 文子
第12回	プレゼンテーション技能 練習問題②	大庄司 文子
第13回	プレゼンテーション技能 練習問題③	大庄司 文子
第14回	プレゼンテーション技能 練習問題④	大庄司 文子
第15回	プレゼンテーション技能 練習問題⑤	大庄司 文子
準備学習等	基本的に予習は不要。各自のプレゼンテーション能力の習熟度に応じた自主的な演習時間の確保が必要である。	
教科書 参考書等	プレゼンテーション技能認定試験 問題集（サーティファイ）	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度、受験級に応じて、一部変更する場合がある。	



学科	経理事務学科（2年課程）・O A 事務学科（2年課程）・ O A 事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	マーケティング基礎	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	鈴木 秀俊、熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 % ミニテスト : 30 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	小売業に必要な知識・技能、販売担当者として必要な知識・技術を、小売りの現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。		
授業目的 到達目標	将来、販売士・営業職を希望する学生を対象に、小売店舗を運営するための基本的な仕組み、インターネットを活用したマーケティング戦略を学ぶことを目的とし、サーティファイ主催ネットマーケティング検定に合格できる能力を身につけることを目標としています。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス インターネットマーケティングを行うにあたって	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第2回	インターネット技術概論	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第3回	インターネットマーケティングの個別手法	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第4回	インターネットリサーチ	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第5回	プロモーション	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第6回	インターネット広告	鈴木 秀俊 熊谷 茜美

第7回	インターネットを利用した販売	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第8回	効果測定	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第9回	外注管理	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第10回	各種ポリシー	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第11回	関連法規①	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第12回	関連法規②	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第13回	インターネットを利用した販とコンプライアンス、CSR	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第14回	事例問題	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
第15回	過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。 確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。	
教科書 参考書等	ネットマーケティング検定公式テキスト インターネットマーケティング 基礎編 (株式会社インプレス) ネットマーケティング検定 過去問題集 (株式会社ウィネット) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級テキスト&問題集 (成美堂出版) 1回で合格！リテールマーケティング〈販売士〉検定3級過去問題集 (成美堂出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。マーケティング基礎は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。授業内容の理解を到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング 小売業のマーケティングの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## 総合公務員学科(1年課程)

第6回	マーチャダイジング マーチャダイジングの基本	山下 健二	第16回	マーケティング 商圈の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 商品計画の基本	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売員の役割の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 販売計画および仕入計画などの基本	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売員の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（カリアック） 販売士3級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンドライジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」を前提に、流通・小売業に必要な知識を深め、販売担当として必要な知識・技術を学習することを目的とする。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級取得を目指す。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンドライジング 価格設定の基本	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

## 総合公務員学科(1年課程)

第6回	マーチャンドライジング 在庫管理の基本	山下 健二	第16回	マーケティング 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 販売管理の基本	山下 健二	第17回	マーケティング 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 総合問題演習	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の計数管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 店舗管理の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 総合問題演習	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック（基礎編）（キャリアック） 販売士3級演習問題集（キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング基礎IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	リテールマーケティング基礎演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	方法	: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング基礎Ⅰ」及び「リテールマーケティング基礎Ⅱ」を前提とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とする。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の種類(問題演習) 流通における小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の種類(問題演習) 組織形態別小売業の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の種類(問題演習) 店舗形態別小売業の基本的役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	ストアオペレーション(問題演習) ディスプレイの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の種類(問題演習) 商業集積の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング(問題演習) 小売業のマーケティングの 基本、顧客満足経営の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング(問題演習) 商品の基本	山下 健二	第15回	マーケティング(問題演習) 商圏の設定と出店の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング(問題演習) マーチャンダイジングの 基本、商品計画の基本	山下 健二	第16回	マーケティング(問題演習) リージョナルプロモーション(売 場起点の狭域型購買促進)の基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売計画および仕入計画などの基 本	山下 健二	第17回	マーケティング(問題演習) 顧客志向型売場づくりの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング(問題演習) 価格設定の基本	山下 健二	第18回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	マーチャンダイジング(問題演習) 販売管理の基本	山下 健二	第19回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション(問題演習) ストアオペレーションの基本	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	直前模擬試験問題演習・解説	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士3級ハンドブック(基礎編) (カリアック) 販売士3級演習問題集 (カリアック)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング基礎演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授 業となる。				



学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用Ⅰ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二		授業回数	20回
			成績評価方法	筆記試験 : 70 %
				授業態度 : 30 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。			
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。			
授業目的 到達目標	流通・小売業における専門知識を身につけることを目的とし、販売員としての接客知識も学習する。授業内容の理解を到達目標とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング リテールマーケティング戦略 の考え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング マーチャンダイジングの戦略 的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第6回	マーチャダイジング 商品計画の戦略的立案	山下 健二	第16回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャダイジング 販売計画の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャダイジング 仕入計画の策定と仕入活動の 戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ストアオペレーション の展開視点	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 店舗運営サイクルの実践と 管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士2級ハンドブック（カリアック） 販売士2級演習問題集（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する 場合がある。 リテールマーケティング応用Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : : :
科目教員のうち実務経験教員	山下 健二		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用I」を前提に、流通・小売業における専門知識を深めることを目的とし、販売員としての接客のみならず、売場や店舗管理者としての知識も学習する。日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級取得を目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング リージョナルプロモーション の企画と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第4回	小売業の類型 中小小売業の課題と商業集積 の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第5回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第15回	マーケティング 商圈分析ならびに出店戦略の 立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンドライジング 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング 店舗（業態）開発の手順と実 践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンドライジング 商品管理政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理 販売事務管理に求められる経 営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンドライジング 物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理 小売業の組織体制と従業員管 理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション 戦略的ディスプレイの実践方 法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	学習範囲ごとにミニテストを実施する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応 （キャリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 リテールマーケティング応用IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業 となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 法律公務員学科（2年課程）・法律公務員学科（1年課程）・ 総合公務員学科（2年課程）・総合公務員学科（1年課程）・ 行政公務員学科（2年課程）・行政公務員学科（1年課程）
学年	1学年

科目名	リテールマーケティング応用演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	熊谷 茜美、鈴木 秀俊、山下 健二	授業回数	20回
		成績評価	筆記試験 : 70 %
			授業態度 : 30 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員	山下 健二	方法	: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	「マーチャンダイジング」の科目において、小売業の経営管理に必要な商品計画・商品 化政策の知識を、小売の現場および経営者の立場から学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	流通業にて販売・営業の経験を経て、その後経営コンサルタント会社勤務、さらに独立 開業しコンサルティングオフィスを設立・開業し、多くの自立型人材を育成している。		
授業目的 到達目標	科目「リテールマーケティング応用Ⅰ」及び「リテールマーケティング応用Ⅱ」を前提 とし、問題演習を通じて学習範囲を振り返り、更なる知識の定着を図ることを目的とす る。また、日本商工会議所主催リテールマーケティング（販売士）検定2級に合格でき る能力を身につけることを到達目標とする。		

## 授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	小売業の類型（問題演習） 流通と小売業の役割	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第11回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法、 LSPの役割と仕組み	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第2回	小売業の類型（問題演習） 組織別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第12回	ストアオペレーション（問題演習） 人的販売の実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第3回	小売業の類型（問題演習） 店舗形態別小売業の運営特性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第13回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の考 え方	熊谷 茜美 鈴木 秀俊

第4回	小売業の類型（問題演習） 中小小売業の課題と商業集積の方向性	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第14回	マーケティング（問題演習） リテールマーケティング戦略の実施方法、顧客戦略の展開方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第5回	マーチャンダイジング（問題演習） マーチャンダイジングの戦略的展開、商品計画の戦略的立案	山下 健二	第15回	マーケティング（問題演習） リージョナルプロモーションの企画と実践、商圈分析ならびに出店戦略の立案	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第6回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売計画の戦略的展開、仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開	山下 健二	第16回	マーケティング（問題演習） 店舗（業態）開発の手順と実践	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第7回	マーチャンダイジング（問題演習） 販売政策の戦略的展開	山下 健二	第17回	販売・経営管理（問題演習） 販売管理者の法令知識	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第8回	マーチャンダイジング（問題演習） 商品管理政策の戦略的展開、物流政策の戦略的展開	山下 健二	第18回	販売・経営管理（問題演習） 販売事務管理に求められる経営分析	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第9回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ストアオペレーションの展開視点、店舗運営サイクルの実践と管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第19回	販売・経営管理（問題演習） 小売業の組織体制と従業員管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
第10回	ストアオペレーション（問題演習） 戦略的ディスプレイの実践方法	熊谷 茜美 鈴木 秀俊	第20回	販売・経営管理（問題演習） 店舗施設などの維持管理	熊谷 茜美 鈴木 秀俊
準備学習等	全範囲の理解度を再確認する。復習を計画的に行うこと。				
教科書 参考書等	販売士ハンドブック（応用編）リテールマーケティング（販売士）検定試験2級対応（カリアック）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 リテールマーケティング応用演習は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				